

平成 30年度

JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2018



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

平成30年度
JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書



JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT



公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会



スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和



●第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー

会期：2018年11月28日(水)／会場：高崎シティギャラリー コアホール／参加人数：229名

【主催者・共催者挨拶】



野端啓夫 JOC理事／スポーツ環境専門部会長



富岡賢治 高崎市長

【第1部】



左から藤森涼子氏、大津克哉氏(コーディネーター)



左から荒田有紀氏、宮下純一氏、上田藍氏

【第2部】



大宮登氏(コーディネーター)



左から片亀光氏、広瀬雅美氏、臼田信加寿氏

【集合写真】



【会場風景】





●第15回JOCスポーツと環境・担当者会議(総務本部フォーラム)

会期：2019年2月27日(水)／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：45名(全体145名)



野端啓夫 JOC理事／スポーツ環境専門部会長



荒田有紀 JOCスポーツ環境専門部会員／東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会総務局持続可能性部持続可能性部長



藤森涼子 NPO法人気象キャスターネットワーク代表



各班でのディスカッション



各班からの発表



会場風景



●オリンピックデーラン

会期：2018年6月10日(日)～12月1日(土)／会場：全国8会場／参加人数：6,925名



長野大会



中津大会



クリアファイルを配布(おた大会)

●オリンピックデー・フェスタ

会期：2018年7月8日(日)～2019年1月19日(土)／会場：全国15会場／参加人数：1,592名



フェスタinいわき



フェスタin須賀川



(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪

会期：2018年5月20日(日)／会場：大阪府・ヤンマースタジアム長居



福島千里選手(SEIKO)/山縣亮太選手(SEIKO)/ケンブリッジ飛鳥選手(NIKE)/桐生祥秀選手(日本生命)/多田修平選手(関西学院大・現_住友電工)



多田修平選手
(関西学院大・現_住友電工)



山縣亮太選手(SEIKO)／
福島千里選手(SEIKO)

●セイコーゴールデングランプリ陸上2018サブイベント

会期：2018年5月19日(土)／会場：大阪府・ヤンマーフィールド長居



ゴールデングランプリ陸上2018大阪プレイベント_キッズデカスロンチャレンジ参加者



荻田大樹選手(ミズノ)

●第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会

会期：2018年10月12日(金)～14日(日)／会場：神奈川県・日産スタジアム

ジュニアオリンピック表彰プレゼンター



戸邊直人選手(つくばTP 現_JAL)、飯塚翔太選手(ミズノ)



安部孝駿選手(ヤマダ電機)



(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第94回日本選手権(競泳競技)

会期：2018年4月8日(日)

会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●第73回国民体育大会(競泳競技)

会期：2018年9月15日(日)～17日(火)

会場：福井県・敦賀市総合運動公園プール



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●第86回日本高等学校選手権水泳競技大会

会期：2018年8月17日(金)～20日(月)

会場：愛知県・日本ガイシアリーナ

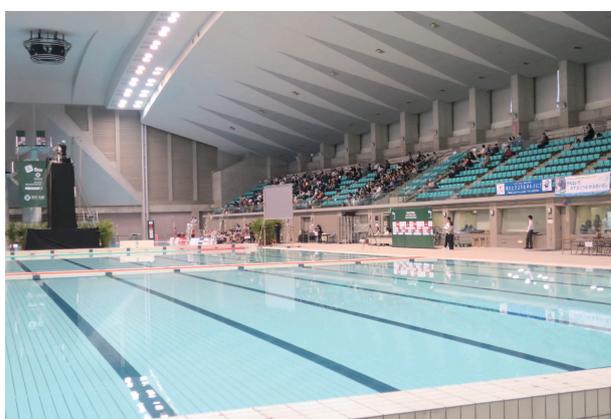


環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●FINAダイビングワールドシリーズ・相模原大会

会期：2019年3月1日(金)～3日(日)

会場：神奈川県・さがみはらグリーンプール



環境横断幕を掲示

●水泳の日2018・福島

会期：2018年10月28日(日)／会場：福島県・郡山しんきん開成山プール



三度目となる地方開催。
参加者へ環境保全の大切さを呼びかけた



スタンプラリーを実施。
子どもたちが楽しみながら環境問題を考える機会となった



(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●鹿島アントラーズ 第35回鹿嶋市海岸一斉清掃

会期：2018年7月7日(土)

会場：茨城県鹿嶋市・平井海岸



ジュニアユース選手、スタッフ、フロントスタッフが海外清掃活動に参加

●名古屋グランパス 久屋大通公園クリーンアップアクション

会期：2018年3月20日(火)

会場：愛知県名古屋市・久屋大通公園



地域清掃活動にクラブマスコットをはじめ、クラブスタッフも参加

●京都サンガF.C. 「DO YOU KYOTO?」大使としての活動

会期：2018年10月20日(土)

会場：京都府京都市・西京極スタジアム



サンガと同じく「DO YOU KYOTO?」大使の秋本さんと「ECO LIVE」

●ヴァンラーレ八戸 地域美化活動

会期：2018年7月26日(木)

会場：青森県・八戸市中心部



8月の「三社大祭」に向けた地域美化活動に選手も参加

●ブラウブリッツ秋田 美の国ロードサポート クリーンアップに参加

会期：2018年6月21日(木)

会場：秋田県横手市



ヨコウン(株)社員、クラブ代表、選手、マスコットにて清掃活動に参加

●JFA 高円宮杯JFA U-18チャンピオンシップ サッカープレミアリーグ 2018 ファイナル

会期：2018年12月15日(土)／会場：埼玉県・埼玉スタジアム2002



一部来場者の方々による自主的な会場内外清掃



(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●第36回 第一生命全国小学生テニス選手権大会

会期：2018年7月27日(金)～30日(月)／会場：東京都・第一生命保険株式会社 相模園グラウンドテニスコート



表彰式



会場にポスター掲示



熱射病対策のヒートルール

●三菱 全日本テニス選手権93rd

会期：2018年10月27日(土)～11月4日(日)

会場：大阪府・ITC靱テニスセンター



表彰式

●JTAホームページで「JTA環境保全基本方針」を紹介





(公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

- オーストリアとの国交樹立150周年記念事業として来日したオーストリアのスキー教師に日本の環境保全の取り組みを紹介



写真左より、岡田良平常務理事、矢船保夫専務理事、ジュリアン・ポール氏、ルーカス・シュナイダー氏、村里敏彰副会長

(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

- お台場レガッタ

会期：2018年6月24日(日)

会場：東京都・お台場海浜公園特設コース



参加者に環境活動を啓発

- セーフティアドバイザー講習会

会期：2019年1月27日(日)

会場：北海道・医療法人社団豊武会 幌東病院



会場に環境ポスターを掲示

- 戸田ボートコースにおける水草の除去活動

会期：2018年〇月〇日(〇)／会場：埼玉県・戸田ボートコース



戸田コースに生育している藻の一種(エビ藻)



藻刈り船を使用しての藻刈り作業



(公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●第48回全日本中学生ホッケー選手権大会

会期：2018年8月18日(土)～20日(月)／会場：島根県奥出雲町・三成ホッケー場



大会風景



大会会場に環境ポスターを掲示

●第16回全日本マスターズホッケー大会

会期：2018年9月16日(日)～17日(月・祝)

会場：岡山県瀬戸町・江尻レストパークホッケー場

第67回男子・第40回女子 全日本学生ホッケー選手権大会(インカレ)

会期：2018年10月31日(水)～11月4日(日)

会場：駒沢オリンピック公園総合運動場第一球技場ほか



大会会場に環境ポスターを掲示



大会風景

(公財)日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●2018ジャパントラックカップ/第5回寛仁親王メモリアルワールドグランプリ(トラック競技国際大会)

会期：2018年7月6日(金)～7月8日(日)

会場：静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンター・伊豆ベロドローム



大会本部への環境バナー掲示



大会風景



(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●平成30年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会

会期：2018年12月14日(金)～16日(日)、22日(土)～23日(日)
会場：東京都・調布市武蔵野の森総合スポーツプラザ、大田区総合体育館



大会会場におけるゴミの分別

●春の高校バレー 第71回全日本高等学校選手権大会

会期：2019年1月5日(土)～7日(月)、12日(土)～13日(日)
会場：東京都・調布市武蔵野の森総合スポーツプラザ



大会会場入り口における環境ポスターの掲示

●ボールバンク事業①

期日：2018年11月27日(火)／寄贈国：南スーダン



●ボールバンク事業②

期日：2018年12月11日(火)／寄贈国：マーシャル諸島



●FIVBビーチバレーボールワールドツアー 2018 3-star東京大会

会期：2018年7月25日(水)～29日(日)
会場：東京都・お台場特設会場



大会会場における環境ポスターの掲示

●ジャパンビーチバレーボールツアー 2018第6戦大洗大会

会期：2018年7月28日(土)～29日(日)
会場：茨城県・大洗サンビーチ



大会会場における環境ポスターの掲示



(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

●第72回全日本体操競技団体選手権大会

会期：2018年11月24日(土)～25日(日)

会場：群馬県・高崎アリーナ



会場内に環境バナーを掲出

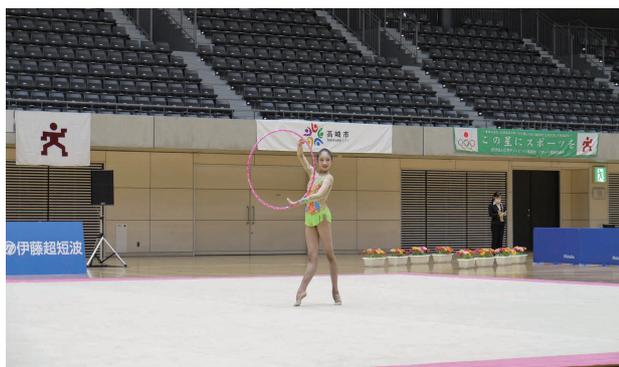
●体操競技各大会プログラム(2018年度版)



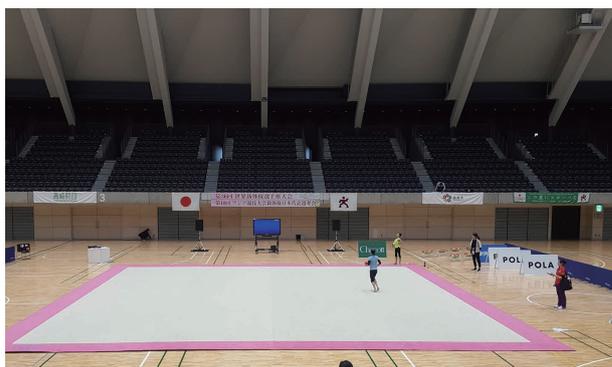
各種プログラムに環境ポスターを掲載

●2018新体操日本代表選考会

会期：2018年4月21日(土)～22日(日)／会場：群馬県・高崎アリーナ



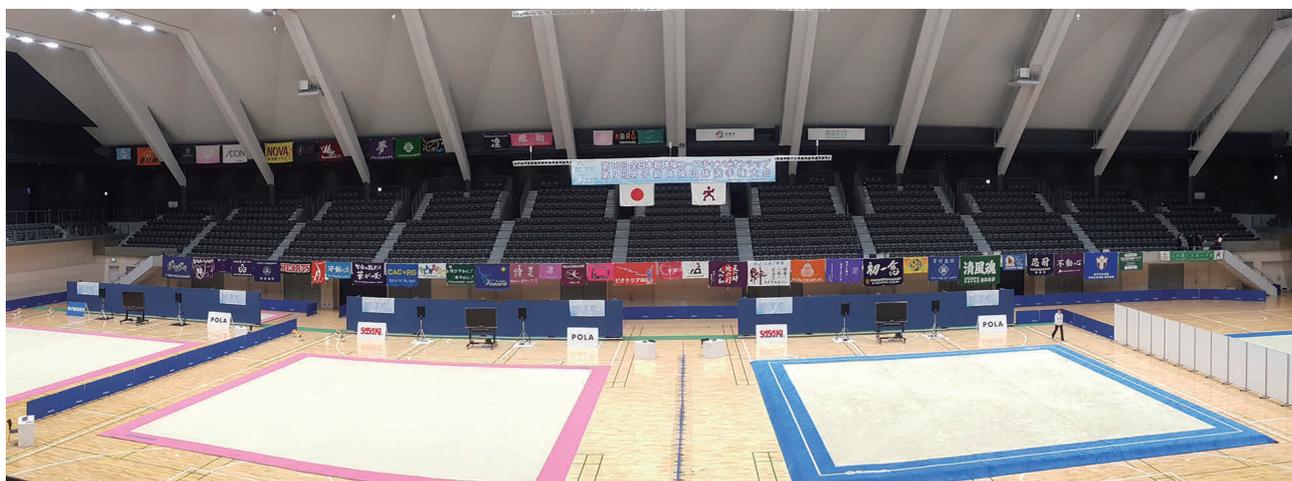
会場内に環境バナーを掲出



会場内に環境バナーを掲出

●第16回全日本新体操ユースチャンピオンシップ／第9回男子新体操団体選手権大会

会期：2018年6月1日(金)～3日(日)／会場：群馬県・高崎アリーナ



会場内に環境バナーを掲出



(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●第32回都道府県対抗

ジュニアバスケットボール大会2019

会期：2019年3月28日(木)～30日(日)

会場：東京都・武蔵野の森総合スポーツプラザ



会場のビジョンにて環境ポスターを掲出

●日本バスケットボール協会事務局



オフィス内にてポスターの掲出

●第1回全日本社会人バスケットボール選手権大会

会期：2019年3月16日(土)～18日(月)

会場：鳥取県・コカ・コーラボラーツジャパンスポーツパーク(鳥取県民体育館)、
鳥取産業体育館



大会プログラムに環境ポスターを掲載



(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●小・中・高指導者研修会

会期：2019年2月16日(土)～17日(日)／会場：愛知県・邦和セミナープラザ



研修会参加者が環境宣言バナーを掲げ記念撮影



(公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●ワールドカップスピードスケート競技会 第1戦帯広大会

会期：2018年11月16日(金)～18日(日)／会場：北海道帯広市・明治北海道十勝オーバル



チームラウンジ



リンク(インフィールド)

●JOCジュニアオリンピックカップ大会 第87回全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

会期：2018年11月23日(金)～25日(日)／会場：福岡県福岡市・アクション福岡



リンクサイド



実施本部

●第25回全日本スピードスケート距離別選手権大会

会期：2018年10月26日(金)～28日(日)

会場：長野県長野市・長野市オリンピック記念アリーナ



大会役員(実施本部にて)

●世界フィギュアスケート国別対抗戦2019

会期：2019年4月11日(木)～14日(日)

会場：福岡県福岡市・マリメッセ福岡



選手控室



(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●沖縄県宜野湾市桜植樹

会期：2018年12月8日(土)／会場：沖縄県宜野湾市・嘉数高台公園



元スマイルジャパン中村亜実選手(中央)、新屋環境委員長(右端)



沖縄ザザンヒルジュニアで桜の苗を植樹

●IIHF女子U18アイスホッケー世界選手権

会期：2019年1月6日(日)～13日(日)／会場：北海道・帯広の森スポーツセンター・帯広の森アイスアリーナ



風力発電で発電した電力で製作されたタオルを全参加者に提供



カーボンオフセット活動の証明書を会場内売店に掲示

●第13回全日本少年アイスホッケー大会

会期：2019年3月23日(土)～27日(水)／会場：北海道・日本製紙アイスアリーナ



大会会場での環境バナー掲示



大会プログラムへの環境ポスター掲示



(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●平成30年度ジュニアクィーンズカップ選手権大会

会期：2018年4月1日(日)～2日(月)

会場：三重県津市・サオリーナ(津市産業・スポーツセンター)



審判員の皆さん

●第35回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2018年7月27日(金)～29日(日)

会場：大阪府大阪市・府民共済アリーナ(舞洲アリーナ)



試合風景

●2018エリートキャンプ

会期：2018年9月21日(金)～24日(月)

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター



招へい選手の皆さん

●平成30年度国民体育大会

会期：2018年9月30日(日)～10月3日(水)

会場：福井県大飯郡・おい町総合運動公園 体育館



試合風景

●2018年U15女子レスリング・アジア選手権大会

会期：2018年11月14日(水)～17日(土)

会場：埼玉県富士見市・富士見市立総合体育館



開会式風景

●都市鉱山からつくる!「みんなのメダル」プロジェクト



集まった携帯電話等の一部



渋谷区役所の回収ポスト



(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●全日本49er級選手権大会

会期：2018年10月13(土)～14日(日)
会場：神奈川県・江の島ヨットハーバー



オリンピック種目でもあり若手選手が参加する本大会では、横断幕を掲げて環境に対して優しい大会運営を図った

●江の島オリンピックウィーク ビーチクリーン活動

会期：2018年9月22日(土)
会場：神奈川県・片瀬海岸東浜



200名以上の環境活動サポーターが集まり、ビーチクリーン(海岸清掃)を実施

●全日本オプティミスト級選手権大会

会期：2018年11月22日(木)～25日(日)
会場：神奈川県・江の島ヨットハーバー



全国のジュニア選手140名が集まる全日本選手権で環境キャンペーン横断幕を掲げ大会を運営

●全日本470級選手権大会

会期：2018年8月20日(月)～26日(日)
会場：神奈川県・江の島ヨットハーバー



海外の選手も多く参加する国際470級の全日本大会で、横断幕を掲げプラスチックを利用しないなど環境を配慮した運営を行った

●レーザー全日本マスターズ選手権大会

会期：2018年9月22日(土)～23日(日)
会場：北海道・屈斜路湖畔



レース開催期中に行われた会場及び湖岸清掃の風景

●インターナショナルポートショーでのプレゼン実施

会期：2019年3月7日(木)～10日(日)
会場：神奈川県・パシフィック横浜



日本マリン事業協会の主催するポートショーにて、子供向けの海洋環境の説明を実施



(公社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●平成30年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会

会期：2018年8月2日(木)～6日(月)／会場：三重県・西野公園体育館



環境パナーと記念撮影(優勝の金沢学院高校)

●第73回国民体育大会 ウエイトリフティング競技会

会期：2017年10月4日(木)～8日(日)／会場：福井県・小浜市民体育館



環境パナーと記念撮影(団体優勝の兵庫県チーム)

●第64回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会

会期：2018年12月14日(金)～16日(日)

会場：埼玉県・スポーツ総合センター



大会会場に環境パナーを掲出(105kg級優勝の岩崎貴之選手) 表彰式

●第64回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会

会期：2018年4月27日(金)～29日(日)

会場：大阪府・はびきのコロシアム



大会会場に環境パナーを掲出(69kg級表彰式)



(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●第23回ジャパンオープンハンドボール大会

会期：2018年8月4日(土)～7日(火)
会場：茨城県・常総市、坂東市、守谷市



会場内に環境バナーを掲示

●第73回国民体育大会ハンドボール競技

会期：2018年9月13日(木)～17日(月)
会場：福井県・福井市、永平寺町



会場内に環境バナーを掲示

●男子61回・女子54回全日本学生ハンドボール選手権

会期：2018年11月10日(土)～14日(水)
会場：大阪府・大阪市、堺市



会場内に環境バナーを掲示

●第17回アジア選手権

会期：2018年11月30日(金)～12月9日(日)
会場：熊本県・熊本市、八代市、山鹿市



会場内に環境バナーを掲示

●第42回全国高校ハンドボール選抜大会

会期：2019年3月24日(日)～29日(金)
会場：埼玉県、千葉県



会場内に環境バナーを掲示

●第17回アジア選手権

会期：2018年11月30日(金)～12月9日(日)
会場：熊本県・熊本市、八代市、山鹿市



写真左から湧永JHA会長、国府高体連専門委員長



(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●平成30年度全日本卓球選手権

会期：2019年1月14日(月)～20日(日)／会場：大阪府・大阪市中央体育館



環境省環境テーマ「COOL CHOICE」横断幕



高島規郎氏(近大教授元世界3位)

●平成30年度全国高校総体

会期：2018年8月3日(金)～8日(水)／会場：愛知県・スカイホール豊田



「来たときよりもきれいに」ポスター掲示



大会プログラム掲載

●関東学生卓球連盟会長杯

会期：2018年12月8日(土)～9日(日)／会場：東京都・駒沢屋内競技場



学連役員がゴミ袋の配布・回収



各大学ベンチにおけるゴミ袋設置ゴミ回収



(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●天皇賜杯第73回全日本軟式野球大会 ENEOSTーナメント

会期：2018年9月7日(金)～9月12日(水)

会場：山形県・きらやかスタジアム(山形市総合スポーツセンター野球場)



会場での環境バナー掲出の様子

●(公財)全日本軟式野球連盟事務局



事務所内に環境ポスターを掲示

●高円宮賜杯第38回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント

会期：2018年8月19日(日)～8月24日(金) / 会場：東京都・明治神宮野球場



マクドナルド・トーナメント開催時のグラブ支援プロジェクトブースの様子



寄贈用具の現地の様子
寄贈先:ブルガリア共和国

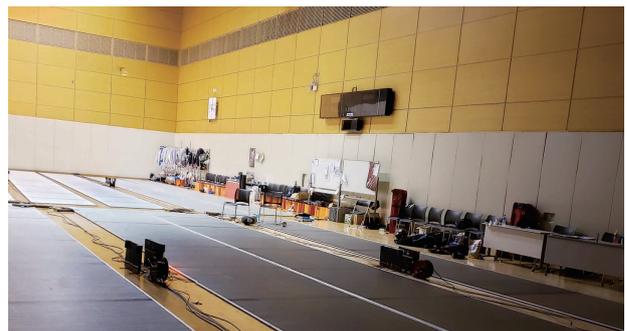
(公社)日本フェンシング協会

FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

●(公社)日本フェンシング協会による節電活動



JISSフェンシング練習場



NTCフェンシング練習場



(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第70回全日本馬場馬術大会2018 PartII

会期：2018年7月14日(土)～15日(日)／会場：静岡県・御殿場市馬術・スポーツセンター



大会会場に環境パネルを掲出

●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載



●大会パンフレットへの環境ポスター掲載：



(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●第69回全日本弓道大会

会期：2018年5月3日(木)～4日(金)

会場：京都府・京都市勧業館「みやこめっせ」



会場に環境ポスターを掲示



(公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●第68回全日本実業団選手権大会

会期：2018年6月13日(水)～17日(日)
会場：山口県・周南市、下松市



写真左から平岡英雄(山口県実業団連盟会長)、国井益雄(下松市長)、木村健一郎(周南市長)、銭谷欽治(日本協会専務理事)

●第72回全日本総合選手権大会

会期：2018年11月26日(月)～12月2日(日)
会場：東京都世田谷区



写真左から綿貫民輔(日本協会会長)、千葉健夫(東京都協会会長)

●大会プログラムに環境ポスターを掲載

第35回全日本シニア大会(2018年11月22日～25日、愛知県刈谷市ほか)、第13回全日本レディース大会(2018年12月14日～16日、熊本県熊本市)



(公社)日本武術太極拳連盟

JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION

●日本武術太極拳連盟事務局

来場者の目に触れるよう、入口に環境ポスターを掲示





(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●2018年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2018年11月3日(土)～4日(日)／会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



大会プログラムへのポスター広告の掲載



横断幕の掲示

●2018年度全日本ジュニア柔道体重別選手権

会期：2018年9月8日(土)～9日(日)／会場：埼玉県立武道館



環境ポスターの掲示、大会プログラムへのポスター広告の掲載



横断幕の掲示

●全日本柔道連盟 事務局受付



事務局受付にてポスターを掲示



(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第51回日本女子ソフトボールリーグ

会期：2018年3月31日(土)～4月1日(日)、2018年11月17日(土)～18日(日)

会場：全国30会場(開幕節：愛知県名古屋市 ナゴヤドーム、決勝トーナメント：東京都新宿区 明治神宮野球場)



開幕節(ナゴヤドーム)でフェンスに設置した環境標語バナー



環境ポスターをデザインした大会案内を作成し、関係者、来場者に配布した



全国各地の会場に設置した環境標語バナー(日本女子1部:松山市坊ちゃんスタジアム)



全国各地の会場に設置したゴミ分別コーナー(春季全日本小学生女子大会会場)

●公益財団法人日本ソフトボール協会事務局



事務局でもクールビズ、ウォームビズ紙の削減やごみの分別廃棄エアコンのこまめな温度調整ファイルの再利用を心掛けている



(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第73回国民体育大会(ライフル射撃競技)

会期：2018年10月3日(水)～10月6日(土)
会場：福井県・福井県立ライフル射撃場



競技会場に設置された分別ゴミ箱とポスター掲示。左より島田敦選手(NT)、日本ライフル射撃協会 松丸喜一郎会長、鍵山博国体委員長

●平成30年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会

兼 第74回いきいき茨城ゆめ国体ライフル射撃競技リハーサル大会

会期：2018年9月15日(土)～9月17日(月)
会場：茨城県・茨城県営ライフル射撃場



競技会場に設置されたポスター掲示。左より日本ライフル射撃協会 松丸喜一郎会長、茨城県ライフル射撃協会 来栖行正会長、近藤貞夫上訴ジュリー

●若手NT選手等への環境教育実施



●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載



(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第29回ジャパンオープン 選手権大会

会期：2018年7月22日(日)
会場：石川県・文教会館

環境ポスターをデジタルサイネージで掲出



●第30回日本マスターズ選手権大会

会期：2018年9月16日(日)
会場：山口県・防府市地域交流センター



舞台下に環境横断幕を掲出



(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●ジャパン近代3種シリーズ第4戦 野幌大会

会期：2018年8月19日(日)／会場：北海道立野幌総合運動公園



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用

●ジャパン近代3種シリーズ第5戦 千葉大会

会期：2018年9月2日(日)／会場：千葉県・リソル生命の森リゾート



環境ポスターの掲示

●ジャパン近代3種シリーズ 第7戦 立川大会

会期：2018年10月14日(日)／会場：東京都・立川公園陸上競技場 立川市柴崎市民体育館プール



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●日本代表 対 ニュージーランド代表 戦

会期：2018年11月3日(土)／会場：東京都・味の素スタジアム



スタジアム内のゴミの削減を目指した場内テナントでのリユースカップの協力



経済界協議会とのコラボにて「KEEP THE STADIUM CLEAN」活動実施



観客にラグビーボールの形になるゴミ袋を配布して、ゴミを持ち帰る取組み

●「TRY for GREENプロジェクト」網走市での森林保全活動への協力 (水谷網走市長、岡村会長、坂本専務理事)

会期：2018年8月4日(土)／会場：北海道網走市・トッピーグの森



写真左3人目から水谷洋一網走市長、岡村正会長、坂本典幸専務理事 ©JRFU



©JRFU



(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

Japan Mountaineering and Sports Climbing Association

●ジュニア登山教室 in 立山2018

会期：2018年8月19日(日)～22日(水)／会場：富山県・国立立山青少年自然の家



●なすかし雪遊び隊

会期：2019年3月29日(金)～31日(日)
会場：福島県・国立那須甲子青少年自然の家



●安全登山指導者研修会

会期：2018年9月15日(土)～17日(月)
会場：埼玉県・金勝山 周辺



●第42回自然保護委員総会

会期：2018年11月23日(金)～25日(日)／会場：埼玉県・小川げんぎプラザ





(公社)日本カヌー連盟

JAPAN CANOE FEDERATION

●2018カヌースラロームジャパンカップ 第2戦

会期：2018年5月12日(土)～13日(日)
会場：岡山県岡山市・旭川特設カヌー競技場



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施

●2018カヌースラロームジャパンカップ 第4戦

会期：2018年6月23日(土)～24日(日)
会場：青森県西目屋村・岩木川カヌー競技場



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施

●平成30年度全国少年少女カヌー大会

会期：2018年7月20日(金)～22日(日)／会場：山梨県富士河口湖町・精進湖カヌー競技場



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施

●2018カヌースラロームジャパンカップ 第5戦

会期：2018年7月28日(土)～29日(日)
会場：岩手県奥州市・奥州いさわカヌー競技場



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施

●2018カヌースラロームジャパンカップ 最終戦

会期：2018年10月19日(金)～21日(日)
会場：岐阜県揖斐川町・揖斐川特設カヌーコース



大会会場周辺河川敷ゴミ拾い実施



(公社)全日本アーチェリー連盟

ALL JAPAN ARCHERY FEDERATION

●全日本小中学生アーチェリー選手権大会

会期：2018年6月16日(土)～17日(日)／会場：山梨県山中湖村・山中湖交流プラザ ぎらら 原っぱ 特設会場



弓具検査の場所でポスター掲示



大会終了後、参加者全員でゴミ拾い

●第2回ISPS HANDICAPアーチェリー大会

会期：2018年9月15日(土)～16日(日)
会場：愛知県豊田市・岡崎中央総合公園多目的広場



選手控えテント内でのポスター掲示

●第73回国民体育大会アーチェリー競技

会期：2018年10月6日(土)～8日(月)
会場：福井県福井市・スポーツ公園サッカー場



競技中に環境標語を掲示板に標示

●全日本社会人フィールド選手権大会

会期：2018年10月13日(土)～14日(日)
会場：京都府京都市・白梅スポーツクラブ



会場付近に横断幕の掲示

●第60回全日本ターゲットアーチェリー選手権

会期：2018年10月26日(金)～28日(日)
会場：静岡県掛川市・つま恋リゾート彩の郷



閉会式後参加者全員でバナー撮影



(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の様子



館内の節電を徹底



事務局内に環境ポスターを掲示

●第17回全日本少年少女空手道選手権大会

会期：2018年8月4日(土)～5日(日)／会場：東京都・東京武道館



大会会場に環境ポスターを掲示



大会会場に環境ポスターを掲示

●天皇盃・皇后盃 第45回全日本空手道選手権大会

会期：2018年12月9日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会プログラムへの掲載

●ナショナルチーム合宿でのゴミ拾い活動





(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●第62回全日本銃剣道優勝大会

会期：2018年4月15日(日)／会場：東京都・日本武道館



審判会議会場にポスターを掲示



大会プログラムにポスターを掲載

●第49回全日本青年銃剣道大会

会期：2018年8月2日(木)／会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示



大会プログラムにポスターを掲載

●平成30年度全国都道府県対抗銃剣道大会

会期：2018年9月22日(土)／会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示



大会プログラムにポスターを掲載



(公財)全日本なぎなた連盟

ALL JAPAN NAGINATA FEDERATION

●皇后盃 第63回全日本なぎなた選手権大会

会期：2018年12月2日(日)／会場：千葉県・浦安市運動公園総合体育館



試合風景



環境呼びかけスタッフ



会場内にてゴミの分別



大会会場に環境ポスターを掲示



(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●全日本ボウリング協会事務局



スイッチ盤近くにポスターと注意書きを貼付
初夏は非常ドアを解放しエアコン利用削減も



プリンター付近に環境ポスターを掲示

●平成30年度定時評議員会

会期：2018年6月13日(水)／会場：東京都港区・仏教伝道センター



会場内にポスターを掲示



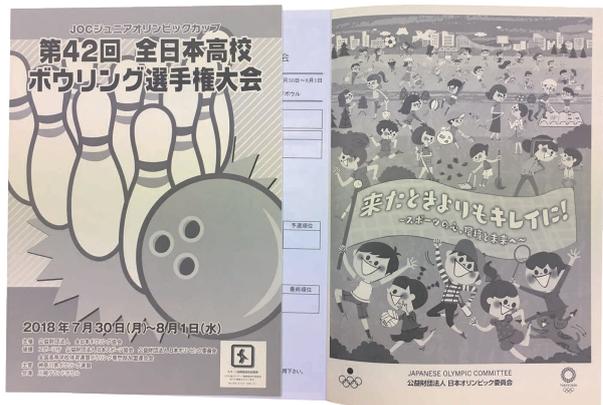
会場内にポスターを掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ 第42回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2018年7月30日(月)～8月1日(水)／会場：神奈川県川崎市・川崎グランドボウル



環境ポスターを手に記念撮影(左から女子優勝者 渡辺莉央選手、男子優勝者 新倉拓巳選手)



大会プログラムに啓発用広告を掲載



(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●第89回都市対抗野球大会

会期：2018年7月13日(金)～24日(火)／会場：東京ドーム



東京ガスによるカーボン・オフセット実施協力ビデオメッセージの放映



環境バナーの掲示

●アオダモ資源育成の会

会期：2018年7月14日(土)／会場：北海道・苫小牧 国有林

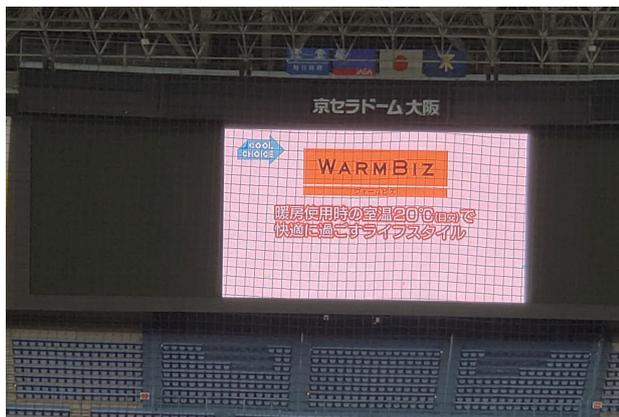


内藤尚行(元中日ドラゴンズ)さんによるバット材(アオダモ)の植樹活動



●第44回社会人野球日本選手権

会期：2018年11月1日(木)～12日(月)／会場：京セラドーム大阪



地球温暖化対策メッセージの放映



高梨沙羅選手(スキー/ジャンプ)によるビデオメッセージ



(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●第27回日本ジュニアカーリング選手権大会

会期：2018年11月20日(火)～25日(日)
会場：長野県・軽井沢アイスパーク



●第12回日本ミックスダブルスカーリング選手権

会期：2019年3月12日(火)～17日(日)
会場：長野県・軽井沢アイスパーク



●第16回日本シニアカーリング選手権大会

会期：2019年3月7日(木)～10日(日)／会場：青森県・みちぎんどリームスタジアム



●第36回日本カーリング選手権大会

会期：2019年2月10日(日)～17日(日)／会場：北海道・どうぎんカーリングスタジアム





(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロンin横浜

会期：2018年4月14日(土)／会場：神奈川県・山下公園



全体集合写真



放水デモンストレーション



カニやヒトデ・魚の展示に加え、直接触れることができる体験ブース



環境PR わかめ試食

●アジアオリンピック評議会(OCA)「スポーツと環境賞」

会期：2018年8月19日(日)／会場：インドネシア



写真左から大塚国際トライアスロン連合副会長／日本トライアスロン連合専務理事、齋藤日本オリンピック委員会副会長、西山横浜市市民局スポーツ統括室長、竹田日本オリンピック委員会会長、野端日本オリンピック委員会スポーツ環境専門部会長



写真左から大塚国際トライアスロン連合副会長／日本トライアスロン連合専務理事、Sheikh Ahmad Al-Fahad AL-SABAH アジアオリンピック評議会会長、西山横浜市市民局スポーツ統括室長、Kyung-Sun YU アジアオリンピック評議会環境部会長

●お台場海浜公園の環境保全



東京バイククリーンアップ大作戦
(2018年6月・9月・11月 計3回 お台場海浜公園)



お台場プラージュ(2018年7月～8月 お台場海浜公園)



(公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

●2018年度(第24回)JOCオリンピックカップ大会

日本ジュニアゴルフ選手権競技

会期：2018年8月15日(水)～17日(金)
会場：埼玉県・霞ヶ関カンツリー倶楽部



会場に環境ポスターを掲示

●2018年度(第103回)日本アマチュアゴルフ選手権

会期：2018年7月3日(火)～6日(金)
会場：福岡県・芥屋ゴルフ倶楽部



会場に環境ポスターを掲示

●2018年度(第51回)日本女子

オープンゴルフ選手権

会期：2018年9月28日(金)
～30日(日)
会場：千葉県・千葉カントリー
ークラブ・野田コース
ギャラリー用プログラムに
環境ポスターを掲載



●2018年度(第83回)日本オープンゴルフ選手権

会期：2018年10月11日(木)
～14日(日)
会場：神奈川県・横浜カントリー
ークラブ

ギャラリー用プログラムに
環境ポスターを掲載



(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan DanceSport Federation

●2018ダンススポーツグランプリin大分

会期：2018年4月1日(日)／会場：大分県・べっばアリーナ



環境横断幕を背景に表彰式

●2018WDSF世界選手権シニアIVスタンダード in NAGANO

会期：2018年7月14日(土)／会場：長野県・ホワイトリング(長野市真島総合スポーツアリーナ)



環境横断幕の前で待機する海外選手たち

●第13回オールジャパン・ジュニア ダンススポーツカップ

会期：2018年7月29日(日)
会場：東京都・BumB東京スポーツ文化館

環境横断幕を背景に表彰式





(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第29回全日本アンダー23選手権大会

会期：2018年6月2日(土)～3日(日)／会場：埼玉県・さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



目立つところに環境ポスター。分別を忘れずに。
大会実行委員長 潮木仁常務理事



選手みんなでアピール

●第47回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2018年11月22日(木)～23日(日)／会場：神奈川県・トレッサ横浜



ガラスコートを使用した商業施設での男子決勝戦
机 龍之介選手(中央)対 遠藤 共峻選手



5連覇した男子チャンピオン机 龍之介選手と
2連覇した女子チャンピオンの渡邊 聡美選手

●第32回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2017年7月25日(水)～28日(土)

会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



世界の子供に分別・エコをアピール

●JOCジュニアオリンピックカップ

第23回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2019年3月26日(火)～28日(木)

会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



ジュニアからエコの意識を。子供から大人へ



(一社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第12回全日本テコンドー選手権大会

会期：2019年2月16日(土)～17日(日)／会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



ブルムセ(型)ヘアの部優勝の梅原麻奈、大森琢朗選手



濱田真由選手(2015年世界選手権優勝)



山田美諭選手(2018年アジア競技大会銅メダル)



金原会長(右)、阿部専務理事(左)、高橋美穂理事(中)

●協会事務局にポスターを掲示





(一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●バイアスロン東日本選手権大会

会期：2019年1月26日(土)～27日(日)
会場：岩手県八幡平市・田山バイアスロン競技場



会場内にてごみの分別収集を実施



会場内にてごみの分別収集を実施

●日本バイアスロン連盟事務局



入口横にポスターを掲示



建物内にリサイクルボックスを設置

(一社)日本ローラースポーツ連盟

Japan Roller Sports Federation

●第64回東日本ローラースケートスピード選手権大会

会期：2018年10月28日(日)／会場：東京都・水辺のスポーツガーデンローラーコート



大会においてごみの分別収集を実施





(一社)日本サーフィン連盟

Nippon Surfing Association

●NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT 2018

会期：2018年9月2日(日)、9日(日)／会場：全国のサーフポイント120カ所



岩手県 浪板海岸



山形県 湯野浜海岸



千葉県 本須賀海岸



東京神津島 前浜海岸



静岡県 富士川



鹿児島県 江口浜



(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●第29回全日本カバディ選手権大会

会期：2018年11月17日(土)～11月18日(日)

会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター 大体育室



表彰式で村川俊彦理事と河合陽児事務局長



優勝したA.K.Sガヤン選手のレイド(攻撃)



男子決勝戦

●第12回東日本カバディ選手権大会

会期：2018年9月15日(土)～9月16日(日)

会場：東京都・帝京大学 アリーナ



集合写真



優勝したA.K.Sチームのアンティ(守備)



女子試合



(公社)日本アメリカンフットボール協会

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION

●三菱電機杯 第73回毎日甲子園ボウル「地域美化推進活動“Clean Up Action”」

会期：2018年12月16日(日)／会場：兵庫県・「阪神甲子園球場」周辺8駅



地域美化推進活動参加者(神戸大学)
阪神電車 西宮北口駅前



地域美化推進活動参加者(阪大・府立大学)
阪神電車 今津駅前



西宮北口駅から甲子園駅まで約3km
挨拶と清掃活動に専念する学生たち



今津駅から甲子園駅まで約1.5kmを
ごみ拾いや清掃活動に専念する学生たち



まもなく甲子園駅
多くの学生ボランティアが集まっている



甲子園駅に到着
ゴミを回収して処分し終了する



(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●JAPAN CUP 2018日本選手権大会

会期：2018年8月31日(金)～9月2日(日)
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



環境ポスターを手に記念撮影をする小学校部門優勝チーム



環境ポスターを手に記念撮影をする大学部門優勝チーム



会場内に環境バナーを掲示

●第12回チアリーディング アジア インターナショナル オープンチャンピオンシップ・第5回アジアン ジュニア チアリーディングチャンピオンシップ

会期：2018年5月12日(土)～13日(日)
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



大会パンフレットに環境広告を掲載

●サマーキャンプ(夏期集中講習会)

会期：2018年7月25日(水)～27日(金)
会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



サマーキャンプ会場にごみ分別と環境ポスターを掲示

●事務室内掲示



事務局内に環境ポスターを掲示



(一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

●リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 受賞(青森県フライングディスク協会)



写真中央 白川会長(青森県フライングディスク協会、むつ・下北地区レクリエーション協会)

●ゴミとして捨てられるダンボールを活用し、フライングディスクを工作(大阪府フライングディスク協会)

会期：2018年7月21日(土)、10月20日(土)



作り方指導



工作風景



完成

●渚の環境教育活動(和歌山県フライングディスク協会)

会期：2018年7月14日(土)



地引網を曳く子どもたち

●大会での環境活動 ～ビーチクリーン活動～ (宮城県フライングディスク協会)

会期：2018年9月9日(日)

会場：愛知県・宮城県・サンオーレそではま / 参加人数：371名



集合写真



清掃活動



活動清掃



(公社)日本オリエンテーリング協会

Japan Orienteering Association

●第44回全日本オリエンテーリング大会

会期：2018年6月17日(日)

会場：岐阜県中津川市・椈の湖オートキャンプ場



競技会場に環境ポスターを掲示

●第60回中日東海オリエンテーリング大会

会期：2019年3月31日(日)

会場：三重県津市・旧高宮小学校体育館



体育館内に環境ポスターを掲示

(一社)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●2018年度総会

会期：2018年3月23日(土)

会場：栃木県佐野市・佐野市国際クリケット場



総会風景

●日本クリケット協会 事務所



事務所内に掲示しスタッフの意識向上



玄関風景



(公社)日本コンラクトブリッジ連盟

Japan Contract Bridge League

●全日本地域対抗チーム選手権／浜松リジョナル

会期：2018年7月28日(土)～7月29日(日)／会場：静岡県浜松市・グランドホテル浜松



競技会場の壇上に環境保全横断幕を掲示



競技会風景および環境横断幕の掲示状況

●朝日新聞社杯

会期：2019年1月12日(土)～14日(月)
会場：東京都・四谷ブリッジセンター



ゴミの分別と収集

●横浜ブリッジフェスティバル

会期：2019年2月19日(火)～24日(日)
会場：神奈川県横浜市・パシフィック横浜



競技参加者が後片付けに一部協力した

●第17回アジア競技大会

会期：2018年8月21日(火)～9月1日(土)／会場：インドネシア ジャカルタ JIEXPO convention center



競技風景



メンチーム集合写真



(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー

会期：2018年5月27日(日)

会場：東京都・明治大学 駿河台キャンパス



JOA笠原一也会長のあいさつ



真田久講師



登壇者の皆さん

●第41回JOAセッション

会期：2018年12月1日(土)

会場：東京都・武蔵野大学 有明キャンパス



壁面に貼られたポスター



スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課長ごあいさつ



登壇者の皆さん



来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会



平成 30 年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2018

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	

本文目次
Contents

1. スポーツ環境専門部会活動の 意義について	55
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第 14 回 JOC スポーツと環境・ 地域セミナー 開催報告	56
Report of the 14th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第 15 回スポーツと環境担当者会議 (総務本部) 開催報告	59
Report of the 15th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・ 実践活動状況について	61
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	
(1) 各競技団体等の活動	62
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2) JOC スポーツ環境専門部会員の活動	117
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	120
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	
(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	123
Lecture draft on Sport and Environment	



5. IOC 持続可能性と レガシー委員会について	131
IOC Sustainability and Legacy Commission	
6. 東京 2020 オリンピック・ パラリンピック競技大会に向けた取り組み	132
Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games	
7. 関連資料	135
References	
(1) JOC スポーツ環境活動者一覧	135
JOC Activities Person of Sport and Environment	
JOC スポーツ環境専門部会	135
JOC Sport and Environment Commission	
本会加盟団体（スポーツ環境担当者）	136
National Federation	
(2) IOC 持続可能性とレガシー委員会	139
OC Sustainability and Legacy Commission	
(3) OCA スポーツと環境委員会	139
OCA Sport and Environment Committee	
(4) IOC スポーツ環境委員会小史	140
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission	
(5) JOC スポーツ環境専門部会小史	141
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	
(6) オリンピック・アジェンダ 2020 20 + 20 の提言（抜粋）	143
IOC OLYMPIC AGENDA 2020	



JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け 「来たときよりもキレイに！」を徹底

平成30年度の公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）スポーツ環境専門部会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。平成30年度の環境専門部会の主な活動は、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を50年後、100年後の子供たちに残すために、我々スポーツに携わる者だからからこそ出来る、環境保全の啓発・実践活動に取り組んで参りました。

その一環として「来たときよりもキレイに！」をスローガンとした、環境保全ポスターの作成や、環境省と連携したアスリートメッセージ映像を作成し、加盟団体主催の大会会場へのポスターの掲示や、大型ビジョンでの映像放映等ご協力いただき、アスリート・指導者に対しても、環境について知識を持ち、エネルギー・資源の節減やごみの分別など、出来る事から実行していこうと呼びかけてきました。

そして、令和元年新たな環境ポスターとアスリートメッセージ映像が完成しました（下記参照）。

引き続き、加盟団体を中心に連携を図りながら、地球環境保全の啓発・実践活動の重要性について呼びかけていきたいと思っております。



公益財団法人日本オリンピック委員
スポーツ環境専門部会
部会長 野端 啓夫

平成30年度 JOC スポーツ環境専門部会の活動

- ① 第14回スポーツと環境・地域セミナーの実施（高崎市）
- ② 第15回スポーツと環境担当者会議の実施
- ③ 平成29年度 JOC スポーツ環境専門部会報告書の作成
- ④ アスリートメッセージ映像の作成（環境省との連携）
高梨沙羅 選手、森井大輝 選手、多田修平 選手
- ⑤ 環境ポスターの追加作成

令和元年度 JOC スポーツ環境専門部会の活動（予定）

- ① 第15回スポーツと環境・地域セミナーの実施
- ② 第16回スポーツと環境担当者会議の実施
- ③ 平成30年度 JOC スポーツ環境専門部会報告書の作成
- ④ アスリートメッセージ映像の作成（環境省との連携）
稲葉篤紀 野球日本代表監督
- ⑤ 環境ポスターの新規作成
- ⑥ JOC 環境啓発リーフレット作成



令和元年・2年版 JOC 環境ポスター



令和元年版環境啓発映像



第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 14th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

- 趣 旨：** 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進している。その活動のひとつとして例年JOCパートナー都市で開催している標記セミナーを今年度は高崎市で開催し、高崎市のスポーツ関係者を対象としてスポーツ界における環境保全の必要性について改めて考え、どのように実践に移していくかを学ぶことを目的に開催した。
- 主 催：** 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 共 催：** 高崎市、公益財団法人高崎財団
- 後 援：** スポーツ庁、環境省、公益財団法人日本スポーツ協会、高崎市スポーツ協会
- 日 時：** 平成30年11月28日（水）13:30～16:15
- 場 所：** 高崎シティギャラリー コアホール（群馬県高崎市高松町35-1）
- 参加者：** JOC、高崎市、日本スポーツ協会、高崎財団、高崎市スポーツ協会、高崎市スポーツ推進委員連絡協議会、スポーツ関係団体、JOCパートナー都市関係者 他227名
- プログラム：**
 - 13:30 第1部「スポーツと環境の関わり」
野端 啓夫 JOC 理事、スポーツ環境専門部会長
富岡 賢治 高崎市長
 - 13:45 対談「スポーツと環境の関わり」
荒田 有紀 JOC スポーツ環境専門部会員、
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会持続可能性部長
宮下 純一 JOC スポーツ環境専門部会員、JOC スポーツ環境アンバサダー
上田 藍 JOC スポーツ環境専門部会員
藤森 涼子 NPO 法人 気象キャスターネットワーク代表
コーディネーター：大津 克哉 JOC スポーツ環境専門部会員、東海大学准教授
 - 15:00 休憩
 - 15:15 第2部「スポーツと環境活動～すまいるーぶ活動を通して」
片亀 光 株式会社環境評価機構 代表取締役社長
広瀬 雅美 株式会社ヒロセプランニング 代表取締役社長
白田 信加寿 IRM 株式会社 部長
コーディネーター：大宮 登 高崎経済大学 名誉教授
 - 16:15 閉会

■セミナー概要

JOCパートナー都市である高崎市のシティギャラリー コアホールで「第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー」を開催。本セミナーは、高崎市を中心としたスポーツ関係者ととともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくかを一緒に学ぶことを目的に行われ、今年度は高崎市内のスポーツ関係者など227名が参加した。

始めにセミナー開催にあたり、主催者を代表してJOCスポーツ環境専門部会長の野端啓夫理事より、JOCが取り組んでいる環境問題や本セミナーの主旨を説明するとともに、「環境問題は地球規模のものから日常、一般の生活に関わるものまで多岐に渡っており、ゴールの見えない難しい問題であると我々

も感じております。これから先、しっかりと考えて手を打たないと、対応がますます遅れてしまいます」と述べ、「50年後、100年後の子供たちに今のスポーツを楽しめる環境を残すことが大事。ぜひ今日をきっかけに、今後のそれぞれのスポーツ団体で活動する上で、環境問題に足をつけた活動を続けていただけることを期待しております」と開会の挨拶を行った。続けて、共催者を代表して登壇した高崎市の富岡賢治市長より、JOC パートナー都市の主旨や役割、また、東京 2020 大会の事前トレーニングキャンプ等の施設利用に関する協定書を締結したポーランドとの交流の様子を紹介。今後もスポーツを通じた国際交流を進めていきたいと説明し、「高崎市は何人もオリンピックが歩いている、そのような街になればこんなに嬉しいことはありません。スポーツはみんなで応援できる分野ですので、東京オリンピックに向けて市民の皆さんといっしょに協力していきたい」と参加者へ呼び掛けた。

●第 1 部「スポーツと環境の関わり」

第 1 部は「スポーツと環境の関わり」をテーマに、NPO 法人気象キャスターネットワーク代表の藤森涼子氏と、いずれも JOC スポーツ環境専門部会員である、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会総務局の荒田有紀持続可能性部長、オリンピックで JOC スポーツ環境アンバサダーの宮下純一氏、オリンピックの上田藍選手がパネリストとして参加。JOC スポーツ環境専門部会員の大津克哉東海大学准教授がコーディネーターを務め、それぞれの立場から環境に対する取り組みや、スポーツの現場から経験したことを共有した。

第 1 部開始後、大津准教授がスポーツと環境には、「スポーツが環境から影響を受ける」被害者の側面と、「スポーツが環境に影響を与える」加害者の側面があることを理解することが重要であると説明。続いて荒田部長より、「東京 2020 大会を持続可能性に配慮したものとするために」と題して東京 2020 大会のビジョンやコンセプト、持続可能性の意味やそれに配慮するために取り組んでいる主要の 5 つのテーマ、(1) 気候変動、(2) 資源管理、(3) 大気・水・緑・生物多様性、(4) 人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、(5) 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）などを紹介した。また、これら東京 2020 組織委員会が立てた計画、目標について「絵に描いた餅ではいけない。進捗状況をしっかり把握した上で公表していきます。うまく行かないところもあるかもしれませんが、そこは正直に皆さんにご説明をして、きちんと分析して、次の大会や今後の大きなイベントが行われる際の参考にしていただきたいと考えています」と話し、不要になった携帯電話などの金属からメダルを作る「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の進捗について報告。「金、銅はかなり多く集まっています。銀は少し足りない状況ですが、引き続き募集していますので今の集まり具合から見ると、ちょうど間に合うのではないかと思います」と説明した。

次に「スポーツと環境」について、宮下氏、上田選手がオリンピックの立場からスポーツの現場で経験したエピソード、また取り組んでいることなどについて伝えた。宮下氏は、「室内でのスポーツということもあり、現役時代は環境問題について正直あまり考えたことはなかったが、引退後、JOC スポーツ環境専門部会に入ったことをきっかけに環境問題の深刻さについて考えるようになりました」と話し、スキーやスノーボードをはじめ、自然を舞台とする様々な競技の選手に取材した経験から、「この 20 年で温暖化が進んだことで、もう長野では冬季オリンピックを開催するのは難しいという話も聞きました。50 年後にはスキーができなくなるかもしれない。環境問題は音を立ててはっきり進んでくるわけではなく、気付いたときには迫ってきている。環境が悪くなっている足音が、僕たち室内競技の選手には分からないくらいヒシヒシと近づいていることが理解できました」と述べた。

上田選手は、大会を開催することで環境が良くなった例を挙げ、毎年 5 月に開催される「ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」は、山下公園に臨む海上がスイムのコースとなっているが、2015 年



から地球温暖化対策として「横浜ブルーカーボン事業」を実施している。参加者の会場までの移動等により生じる二酸化炭素排出量を金額に換算し、参加者から集めた環境協力金をわかめなどの海洋資源の育成、海の水質改善につなげている。また、ロンドン大会開催2年前の2010年プレ大会では、競技者の体に絡むぐらいたくさんの藻が海に浮いていたが、大会本番ではきれいになっていたというケースも紹介。「環境が悪くなっていることも理解しつつ、トライアスロンなどの競技をすることで環境をきれいにすることもできるということをお伝えしたいです」と説明。

これらオリンピック2人が共有した経験、取り組みを踏まえ、藤森氏より「2100年、未来の天気予報」を紹介。このまま何の対策もしなければ、夏に日本各地で40℃を超える猛暑日が当たり前のように続き、およそ12万人が熱中症で病院に運ばれる被害が出る。また、猛烈な台風・大雨による氾濫やけが崩れ、反対にまったく雨が降らない地域の干ばつも頻繁に起こるようになると、参加者へ警鐘を鳴らした。また、熱中症以外の地球温暖化が与えるスポーツへの影響として、昔は冬場にアイススケートができた池が、現在は氷が張らずスケートができなくなっていること、水温上昇による水質悪化、普段の生活に密接に関わる食べ物への影響や海の生態系の変化、海面上昇の影響による高潮・高波の脅威を例として挙げ、この環境変化に対する方法として、「適応（地球温暖化に備える）」と「緩和（二酸化炭素を出さない）」の2つの行動を説明した。藤森代表の説明を聞き、宮下氏より「この環境問題を先の世代に残すのではなく私たちの世代から発信しなければいけないし、スポーツ界から発信して広めていく活動をしていきたいですね」、上田氏より「暑さへの適応という点に関して、私はアスリートとして困った状況を作らないように早め早めに準備することを癖付けているのですが、これからは暑さ対策のために事前に天気予報をしっかりとチェックするなど、適応するという点でも準備していけばいいんだなど勉強になりました」と、それぞれ感想や今後に向けての取り組みが伝えられた。最後に大津准教授より、第1部のまとめとして「スポーツと環境の新たな関係に向けて、知識を意識に変え、それを行動に移す。そして、次の世代にバトンをつなぐことが重要です」と参加者へ呼び掛けた。

●第2部「スポーツと環境活動～すまいる一歩活動を通して」

第2部では「スポーツと環境活動～すまいる一歩活動を通して」と題し、「一般社団法人ぐんま食品リサイクルすまいる一歩協議会」の活動を紹介。コーディネーターを務めたすまいる一歩協議会会長でもある高崎経済大学の宮登名誉教授の進行のもと、パネリストとして参加した同協議会の片亀光理事（株式会社環境評価機構代表取締役社長）、広瀬雅美事務局長（株式会社ヒロセプランニング代表取締役社長）、白田信加寿氏（IRM株式会社部長）が、すまいる一歩の概要や具体的な活動、また群馬県が抱える環境面の3つの課題などを報告した。

すまいる一歩協議会は、地元の食品廃棄物を良質な飼料・肥料としてリサイクルし、それらで育った家畜や農産物を食材として活用する食品リサイクルプロジェクトとなる。先述した東京2020組織委員会が掲げる持続可能性に配慮するための5つの主要テーマのうち、すまいる一歩の活動は「資源管理」が中心となるが、他全ての主要テーマに関わる活動だと、宮登名誉教授より説明。「私たちの住んでいる高崎市の周辺でこうした活動を10年ぐらい、日本ではほとんどやってこなかったことを着々と行っています。皆さんもぜひ、自分たちの手でできる環境にやさしい行動を1つ1つやっていただきたいと思います」と述べると、最後に「スポーツと環境について、今一度、今日の機会を踏まえて考えて、次の世代の行動に生かしていただきたいと思います。サッカーの世界カップでは日本のサポーターによる清掃活動が目撃されました。あのような行動を当たり前のようにやれる社会をぜひ作っていきたい。皆さんが作る社会です」とメッセージを送り、第2部のプログラムを締めくくり、セミナーを終了した。



3

第15回JOCスポーツと環境担当者会議(総務本部フォーラム)開催報告

Reports of the 15th IOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. **趣 旨**： スポーツにおける持続可能性への理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. **主 催**： 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
3. **日 時**： 平成 31 年 2 月 27 日（水） 14:50 ～ 16:25
※「総務本部フォーラム」 10:00 ～ 16:30 の中で実施をした。
4. **場 所**： 味の素ナショナルトレーニングセンター 1 階 研修室 1 ～ 3
5. **出席者**： 本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟競技団体環境担当者他 45 名
（総務本部フォーラム全体 120 名）

プログラム：

- 14：50 開会挨拶 野端啓夫 JOC 理事／ JOC スポーツ環境専門部会会長
- 14：55 情報提供
東京 2020 大会を持続可能性に配慮したものとするために
JOC スポーツ環境専門部会員／
東京オリンピック・パラリンピック組織委員会総務局持続可能性部長
荒田 有紀
- 15：05 未来の天気予報
藤森涼子 NPO 法人気象キャスターネットワーク代表
- 15：25 グループディスカッション
テーマ：各競技団体が東京 2020 大会以降のスポーツ環境を維持向上するための環境啓発・
保全活動について
コーディネーター：玉利 聡一 JOC スポーツ環境専門部会部会員
- 16：25 閉会

■会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は 2 月 27 日、「平成 30 年度総務本部フォーラム」を味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素トレセン）で開催。本フォーラムは総務本部の各専門部会における取り組み並びに JOC 加盟団体（NF）と情報交換を行う場として実施するものである。今回は「女性スポーツ専門部会」、「アントラージュ専門部会」、「スポーツ環境専門部会」の 3 専門部会合同で開催され、それぞれのテーマに基づいたパネルディスカッション、グループディスカッションなどが行われた。なお、今年度は JOC、NF の役職員ら 120 名が参加した。

はじめに、野端啓夫 JOC 理事／スポーツ環境専門部会長が、環境保全に関する今後の展望として「東京 2020 大会のその先に向けて、今までは啓発活動を主体としてきましたが、これからは実践活動を進めていきたいと思います」と開会挨拶。

次に、荒田有紀 JOC スポーツ環境専門部会員より「東京 2020 大会と持続可能性に配慮した運営計画」



について情報提供があり、気候変動対策、資源管理、大気・水・緑・生物多様性等に関する東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取り組みが解説された。

続いて、藤森涼子 NPO 法人気象キャスターネットワーク代表が「未来の天気予報」として、100 年後の気象予測を紹介。環境保全に関してこのまま何の対策もしなければ、夏は日本各地で 40℃を超える猛暑日が当たり前のように続き、また、猛烈な台風・大雨による氾濫やがけ崩れ、反対にまったく雨が降らない地域の干ばつも頻繁に起こるようになると警鐘を鳴らした。地球温暖化が進む未来に対し、一人ひとりができることとして「CO2 を減らしていく緩和策」と「地球温暖化に備える適応策」の 2 つの考え方が必要であると説明し、環境省の地球温暖化対策キャンペーン「COOL CHOICE」の実践を呼びかけた。

その後、野端啓夫 JOC 理事 / スポーツ環境専門部会長が本年度事業報告を行い、来年度活動について環境啓発ツールの開発や、国内外環境に関するスポーツ界の国際情勢について説明した。

これらの情報提供を踏まえ、「各競技団体が東京 2020 大会以降のスポーツ環境を維持向上するための環境啓発・保全活動について」をテーマにグループディスカッションを実施。コーディネーターを務めた玉利聡一 JOC スポーツ環境専門部会員の進行のもと、各グループからは「子どもたちに考える場を設ける」「子どもたちに問題意識を広める」など次世代を見据えた意見が多く出る一方、「競技団体の SNS を通じた環境啓発の実施」「競技に使用するウェアや器具にエコ素材を用いる」「環境保全活動に取り組む人員不足や費用がかかる等の課題があるため、活動内容に工夫を凝らさなければならない」といった具体策や課題も挙げられるなど、様々な意見が取り交わされた。

■ 出席者一覧

所属先	出席者名
(公財) 日本オリンピック委員会	齋藤 泰雄
	塚原 光男
	村津 敬介
	黒川 光隆
	野端 啓夫
	荻原 健司
	小柴 滋
	荒田 有紀
	玉利 聡一
	永井 真美
(公財) 日本水泳連盟	鷺見 全弘
(公社) 日本ホッケー協会	奥田 竜子
(一社) 日本ボクシング連盟	菊池 浩吉
(公財) 日本バレーボール協会	鍛冶 良則
(公財) 日本スケート連盟	森村 直樹
(公財) 日本レスリング協会	桑田 信昭
(公財) 日本ソフトテニス連盟	和歌浦 京子
	川島 登
(公財) 日本卓球協会	羽生 綾子
(公財) 全日本軟式野球連盟	望月 翔太
(公財) 日本相撲連盟	櫛原 利明
(公社) 日本馬術連盟	長友 満則
(公財) 日本ソフトボール協会	横田 博之

所属先	出席者名
(公社) 日本ライフル射撃協会	岸高 清
(公社) 日本近代五種協会	内田 正二
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	高野 敬一郎
(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会	尾形 好雄
(一社) 日本クレイ射撃協会	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	島瀬 美佐子
(公財) 全日本ボウリング協会	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	久田 一郎
(一財) 全日本野球協会	長久保 由治
(公社) 日本武術太極拳連盟	神庭 裕里
	勝部 典子
(公社) 日本カーリング協会	平間 初恵
(公社) 日本トリアスロン連合	萩原 舞
(公社) 日本スカッシュ協会	神谷 典子
(一社) 日本バイアスロン連盟	山瀬 綾乃
(一社) 日本サーフィン連盟	関口 嘉雄
(一社) 日本カバディ協会	河合 陽児
(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	高野 英樹
(一財) 日本航空協会	田中 彩香
	松崎 真也
(一社) 日本フライングディスク協会	長倉 富貴
	角田 信彦



スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) 各競技団体の活動

(公財) 日本陸上競技連盟	62	(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会	92
(公財) 日本水泳連盟	63	(公社) 日本カヌー連盟	93
(公財) 日本サッカー協会	64	(公社) 全日本アーチェリー連盟	94
(公財) 全日本スキー連盟	66	(公財) 全日本空手道連盟	95
(公財) 日本テニス協会	66	(公社) 全日本銃剣道連盟	95
(公社) 日本ボート協会	68	(公財) 全日本なぎなた連盟	96
(公社) 日本ホッケー協会	70	(公財) 全日本ボウリング協会	96
(公財) 日本バレーボール協会	70	(一財) 全日本野球協会	97
(公財) 日本体操協会	71	(公社) 日本武術太極拳連盟	99
(公財) 日本バスケットボール協会	72	(公財) 日本カーリング協会	100
(公財) 日本スケート連盟	73	(公社) 日本トライアスロン連合	101
(公財) 日本アイスホッケー連盟	74	(公財) 日本ゴルフ協会	102
(公財) 日本レスリング協会	75	(公社) 日本スカッシュ協会	102
(公財) 日本セーリング連盟	77	(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	103
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	78	(一社) 全日本テコンドー協会	104
(公財) 日本ハンドボール協会	79	(公社) 日本ダンススポーツ連盟	104
(公財) 日本自転車競技連盟	80	(一社) 日本バイアスロン連盟	105
(公財) 日本ソフトテニス連盟	80	(一社) 日本サーフィン連盟	106
(公財) 日本卓球協会	82	(一社) 日本サーフィン連盟	106
(公財) 全日本軟式野球連盟	82	(一社) 日本ローラースポーツ連盟	107
(公財) 日本相撲連盟	83	(一社) 日本カバディ協会	107
(公社) 日本馬術連盟	84	(一社) 日本セパタクロール協会	108
(公社) 日本フェンシング協会	85	(公社) 日本アメリカンフットボール協会	109
(公財) 全日本柔道連盟	86	(公社) 日本チアリーディング協会	110
(公財) 日本ソフトボール協会	87	(公社) 日本オリエンテーリング協会	111
(公財) 日本バドミントン協会	88	(公社) 日本パワーリフティング協会	111
(公財) 全日本弓道連盟	89	(公社) 日本ペタンク・ブール連盟	112
(公社) 日本ライフル射撃協会	89	(一社) 日本フライングディスク協会	113
(公社) 日本近代五種協会	90	(一社) 日本クリケット協会	114
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	91	(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	115

(2) スポーツ環境専門委員の活動

西山雄二部会員	110
松岡修造部会員	112

※(公財)=公益財団法人、(公社)=公益財団法人、(一財)=一般社団法人、(一社)=一般社団法人



(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(公財) 日本陸上競技連盟

1. 実施概要

大会やイベント、その他事業や事務局内での環境保全取り組みについて、環境保全に繋がる活動を積極的に行い、一つ一つの活動に対し、環境の保護と配慮を意識していくと共に、環境への負荷を極力減らすような活動を継続的に行っている。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会表彰時に環境啓発バナーの掲示
- 大会及び事務局内でのポスター掲示
- 大会時競技場内のクリーン化、資源ごみ回収、周辺環境の美化
- 大会時のリサイクル資源の活用
- 専用システム・アプリを使用したペーパーレス化
- 事務局内での google システム (G-suite) を利用したデータ保存・共有によるペーパーレス化
- 発行物、出版物作成部数検討による余剰分割減
- 事務局内のゴミ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会表彰時に環境啓発バナーの掲示

国際陸上競技連盟主催の年間シリーズ (全 9 戦) 「IAAF ワールドチャレンジ」の第 2 戦となるゴールデングランプリ陸上 2018 大阪大会にて、環境啓発ポスターの掲示や本連盟作成の環境啓発バナーを掲げ、参加選手に協力頂いて、啓発活動を行った。

②大会及び事務局内でのポスター掲示、大会プログラム掲載

本連盟主催大会で環境啓発ポスターを掲示し、大会関係者・選手のみならず観戦者も含め、環境活動の重要性をアピールした。また、事務局内会議スペースの目の届きやすい入口に、環境ポスターを掲示し、本連盟来訪者に対して意識して頂けるようにしている。

③大会時競技場内のクリーン化、周辺環境の美化、ごみの分別

大会開催時に、競技場内のクリーン化や見回りによるごみ放置及び分別の注意指導はもちろん、事務局内のごみ分別を徹底している。

④本連盟専用システム・アプリを使用したペーパーレス化

年間選手登録や参加エントリーの際のシステム利用によるペーパーレス化や、専用システム・アプリを利用した大会詳細情報の WEB 化を行い、環境に配慮している。

⑤事務局内での google システムを利用したデータ保存・共有及び固定電話との連動

事務局内のインフラ整備を行い、データ保存・共有やクラウドフォンでの固定電話連携も含め、印刷物を減らすよう努めている。また、印刷複合機と社員カードを連動させ、個人の印刷量確認も行っている。

⑥発行物、出版物作成部数の検討

本連盟で発行するパンフレットや出版物について、制作単価よりも廃棄リスクを第一に検討し、配布数や販売数をあらかじめ詳細に見積もり、余剰分が出ないように配慮をしている。



4. 全体的な成果と今後の課題

環境に関する啓発活動を、事務局含め、日常から大会・講習会・イベント等で積極的に行い、会場に限らず地域や周辺環境にも配慮しながら、今後も環境への負荷を極力減らした運営やエコ推進活動を実施していくと共に、関係者や参加者、観戦者も含め、環境啓発活動を増やしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 風間明

中央競技団体として、率先して環境への配慮を考えながら大会やイベント事業に引き続き取り組んでいくと共に、加盟団体・協力団体・大会事務局・スポンサーなどと連携していきながら、来訪者・選手・運営役員など、すべての人に対して環境への意識づけを行っていきたい。

(公財) 日本水泳連盟

1. 実施概要

『水』が一番身近な“水泳”の競技団体として、「かえないで、みずとくうきのあおいほし」(公募作品)のキャッチコピーを掲げ、地球を取り巻く環境保全を常に心がけ、持続可能で身近な活動の積み重ねを常に心がける。また水泳4団体(日本水泳連盟・日本スイミングクラブ協会・日本マスターズ水泳協会・日本障がい者水泳協会)と共催事業を実施し、次世代を主なターゲットとした啓蒙活動の更なる拡大・促進・連携の輪を広げる。

2. 平成30年度事業活動

- 「水泳の日」総合イベントでの活動展示および啓蒙活動
 - 事務局を含む連盟全体でのペーパーレス化・マイボトル運動・エコ製品推進、HPでの啓蒙活動
 - 競技会等における環境活動の継続
- 1) 大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載 等
 - 2) 場内で参加者と来場者への協力促進(啓発ポスター・バナー掲示、ごみ分別、公共交通機関利用等)

3. 具体的活動実施内容とその成果

- ①「水泳の日」(2018年10月28日)総合イベント内での展示および啓蒙スタンプラリー
全国を巡回する水泳4団体共催「水泳の日」総合イベントを福島県郡山市しんきん開成山プールにて開催。そこで例年同様のブースを設け委員会活動内容を掲示、同時に場内をエリアとし水泳連盟独自の標語を使用したスタンプラリーを開催。小学生・中学生を中心に多数の参加があり、約500名が参加・ゴールした。現地連盟競技役員メンバーの協力により大人にも子供にも相変わらず大人気であった。
- ②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化
連盟が特に力を注ぐ情報システム化が更に充実し、即時結果配信システム等の拡充により更に紙での情報配信が削減されている。特に競泳競技では進化著しく、競技会エントリーから記録賞等まで一貫したシステムが完成し、あらゆる無駄な資源消費削減に一役を買っている。
- ③競技会等における環境活動
監督者会議でのミニレクチャー、バナー(新作)の場内掲載、休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出、ゴミの削減を前提とし会場の所轄自治体ルールに則った分別と持ち帰りの実施。プログラムや場内におけるメッセージポスター掲載。



4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは、水泳4団体で活動する4年目、地方開催の「水泳の日」にも多くの愛好者が参加し、来場が予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントとして定着した。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、持続可能でより身近な事から積み上げ、地味な活動ではあるが、同時に将来水泳界を担う世代にもアピールしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 齋藤 由紀

スポーツ環境委員会は連盟内発足14年となり、基本的活動内容の理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透、また環境標語を題材にしたスタンプラリーは一般参加者に人気の企画として定着した。これらは環境活動の持続可能な輪を、特に若年層を含めた競技者のみならず水泳愛好者にも広げる事を目指すものであるが、同時にアスリート委員会とも共生し、次の発信力のあるプログラムやポスターなども企画・具体化したい。

(公財) 日本サッカー協会

1. 実施概要

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき活動を継続。

2. 平成30年度事業活動

- 主催/後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 事務所（JFAハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）
- オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携活動を継続

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① JFA 事務局内での代表的な活動

理事会、事務局内会議、都道府県との会議等にてプロジェクター利用や事前電子資料配布によるペーパーレス会議を継続した。また、JFAハウス内の会議室にプロジェクターやパソコン用モニターを常設し、日々のペーパーレスも支援した。

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③ 電子登録証の導入

昨年報告のとおり、2018年度に完全電子登録証へ移行を完了した。

④ 教育・啓発

「倫理規範」「JFAコンプライアンス・ハンドブック」に基づく教育については、ハラスメント等を優先し、環境保全に関する個別研修は実施できなかった。



⑤地域/Jリーグ

ベガルタ仙台	ユアスタで宮城県と「エコチャレンジフェスタ in ユアスタ仙台 2018」を開催し、温暖化防止クイズラリー、うちエコ診断や発電体験などを実施。
FC 東京	「ECO パスプロジェクト in 味スタ」を帝人フロンティア（株）と実施中。味の素スタジアムで回収した使用済みペットボトルをポリエステル繊維に再生し、FC 東京関連グッズなどに製品化するリサイクル活動。
ガンバ大阪	地域清掃活動「第 17 回万博みゼロウォーク」にアカデミーのユース・ジュニア選手 36 名が参加。
ファジアーノ岡山	練習場の政田サッカー場がある政田地区の皆さんと清掃活動「六番川水の公園周辺クリーン作戦」に参加。
レノファ山口 FC	やまぐち農林振興公社と共に、「緑の募金」活動を 3 月に 2 回行い、地域緑化や学校緑化等の支援に協力。「緑の募金」への協力は J リーグクラブ初。
ギラヴァンツ北九州	北九州市内の曾根干潟のごみ拾いを中心とした清掃活動に、クラブマスコット・ギランおよびクラブスタッフが参加。今から 25 年前、曾根東小学校の子供が干潟に遊びに行ったときに、釣り糸が足に絡まって動けない野鳥を保護したことがきっかけで始まった歴史ある活動。
ロアッソ熊本	熊本県と連携し、ホームゲーム来場者、サッカー教室参加者より廃食油の回収を行い、軽油の代わりとなる環境に優しい燃料「BDF」へリサイクルできることの周知を実施。
JFA	昨年に続き、高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2018 チャンピオンシップ（埼玉スタジアム）にて、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携により、約 7 千名に啓発活動を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

● JFA

スポーツ界における暴力・ハラスメント問題等役職員教育等の充実が求められている中、環境保全も含めて今後計画化していく必要がある。背景に環境への適応問題、夏期の暑熱問題により複数競技会にて注意喚起や競技スケジュールの変更、試合時間の短縮判断につながっていることがある。

● Jリーグ

J 1 から J 3 と全国 50 クラブ以上の活動として、地域巡回、イベント開催に加え、スタジアム周辺等の清掃活動など広く実施されている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 玉利 聡一

2017 年に開始した高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2018 ファイナル（埼玉スタジアム 2020）での来場者啓発活動を 2 年連続実施し、高校生・中学生・小学生など主に学校教育により高い環境意識のある地元の子供たちが、試合後に自らスタジアム内清掃や帰路の道路に至るまでゴミ拾いをしている姿を見かけました。ワールドカップ等におけるサムライブルーの活動に加え、日常のサッカーライフに環境活動が根付くよう継続して活動いたします。



(公財) 全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は、冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉えている。雪不足による短期的な問題は競技大会の中止だが、中長期的な問題はスキー人口の減少である。そのような問題を抱えながら「スノースポーツ」、「アスリート」を通して環境保全に対する啓発活動を行っているが、抜本的に活動内容を検討する時期に来ている。

2. 平成 30 年度事業活動

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

<成果>

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全に繋がることを発信できた。

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年、環境保全を発信する「I LOVE SNOW」というキャンペーンを展開し 13 年目を迎えたが、キャンペーンの飽和感が否めない状況であったことから、このキャンペーンを一旦終了し、新たな啓発活動の方法について協議を行っている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 萩原 健司

今シーズンも地球温暖化による雪不足が原因で、いくつもの競技大会が中止となった。これは、ここ数年続く短期的な問題ではあるが、中長期的に今後も雪不足が続き、さらに深刻な雪不足の状況になった場合、スノースポーツ人口の減少はもとよりスノースポーツそのものの存続に関わる重大な問題となる。また、スノースポーツは、山林を切り開いてスキー場を建設し行うスポーツであることから、自然環境に与える影響は、他のスポーツとは比較にならないと認識している。このように自然から影響を受け、自然に影響を与えるスポーツだからこそ、中心となって環境保全を進めなければならないと痛感している。未来永劫、世界中の人々がスノースポーツを楽しむことができる様、冬季スポーツ競技団体として、今後も「雪とスノースポーツ」をキーワードに、地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信したいと考えている。

(公財) 日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、テニス界における環境保全・啓発・実践活動の 3 つの柱を掲げている。これまでの教育・



啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針である「JTA 環境保全基本方針」を作成し、テニス関係者への周知徹底を図っている。さらに、「ほんのちょっとしたエコ活動」をスローガンに、日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう活動に取り組んでいる。

2. 平成 30 年度事業活動

- 「JTA 環境保全基本方針」を協会ホームページに掲載
- 日本テニス協会主催大会で JOC 環境ポスターやバナーなどを掲示
- テニス界における環境保全と整備を目的とした活動（3R 推進）
- 子どものマナーアップに繋がる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
- 事務局におけるエコ活動の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① テニス指導者・選手・観客の方々への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会等で JOC 環境ポスターやバナーを掲示して啓発活動を行っている。また、大会会場にはスポーツと環境のシンボルフラッグ「エコフラッグ」が掲げられ、環境に配慮した大会運営が行なわれている。

② 「テニスの日」イベントでの啓発活動

毎年 9 月 23 日に全国で展開されているテニス普及イベント「テニスの日」では、「ほんのちょっとしたエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施。さらに、子ども達への環境啓発キャンペーンとしてごみゼロ活動を行っている。なお、毎年、多くの方にご参加頂いている有明メインイベントについては、会場として使用している有明テニスの森公園コートが東京オリンピック・パラリンピック開催に向けての改修工事中の為、2018 年度はイベントを休止した。

③ グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）との協同事業

GSA と協力して中古テニスボールと不要になったラケットの回収を行っている。GSA では、テニスボールのリユース活動として、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の騒音対策として机やイスの脚の先に取り付けられ、子どもたちの教育環境づくりに役立つだけでなく、大量に廃棄していたごみの削減にもつながっている。GSA によるテニスボールのリユース活動は、2018 年 7 月にボール累計 600 万個に到達し、記念贈呈式を東京都中央区立久松小学校にて実施した。

また、集まったラケットは GSA と国連環境計画（UNEP）によるサポートのもと、ケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム「GSA ドリームキャンプ（Nature & Sport Training Camps）」で活用するために、会場となる現地スポーツクラブに寄贈された。* GSA ホームページ：<http://www.gsa.or.jp>

④ 事務局におけるエコ活動の実践

事務局のエコ活動については、事務局移転に伴い、コピー用紙使用の削減や裏紙を活用するなど、ペーパーレス化を進めている。さらに、紙面による提出物をインターネットによる提出に変更し、保存書類を紙ベースからデータに変更した。また、夏季の業務を快適に過ごせる軽装や取り組みを促す「クールビズ」を継続して実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。引き続き、日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーやスポーツと環境のシンボル



旗「エコフラッグ」、環境ポスターを掲出し、環境保全活動に取り組んでいく。

今後の課題としては、事務局におけるエコ活動のさらなる推進、さらに指導者向けの講習会などにおいて、「スポーツと環境」の講座を企画することや、JOC スポーツ環境専門部会が作成した『スポーツと環境についてのレクチャー原稿』があらゆる場面で活用されるように促進していきたい。そして、JOC スポーツ環境部会のスローガンである「スポーツの心、環境と未来へ」をテニス界でも広めていけるよう取り組んでいく。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 大津 克哉

日本テニス協会 (JTA) では、これまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針をまとめた。引き続き、各都道府県協会に向けてこの指針の周知を図っていく。環境への取り組みについては、生涯スポーツあるいはレクリエーションスポーツとしてテニスをするテニス愛好者、競技スポーツとしてテニスの競技会に出場する選手、あるいは大会運営に携わる大会主催者、そして競技会を観戦する観客、更にはテニスの強化や普及に従事しているテニス協会関係者や指導者、テニスクラブやテニススクールを運営するテニス事業者など、全てのテニス関係者の問題であり、それぞれが異なった立場や違った形で環境保全に取り組むことが求められている。それには、各々がまず「努力目標」を設定し、私たちテニスを愛するものとして環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節約やゴミの分別など、できることから実行することを促していく。(参考：JTA 環境保全基本方針 <https://www.jta-tennis.or.jp/information/tabid/498/Default.aspx>)

近年、地球温暖化による気候変動に対するスポーツ界の取り組みが注目を集めている。テニス協会においても、今後、イベントに関するライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量を「見える化」し、カーボンフットプリントとして算定する意義と展望について理解を求めていくことが急務である。カーボンフットプリント量を概算、把握し、それに対する削減対策を具体的に提示することは、テニス界の持続可能性を論じるうえでも重要な観点の一つになるだろう。テニス界を取り巻くステークホルダー全体を巻き込んだ環境対策には真剣に、そして速やかに向き合わなければならない。

(公社) 日本ボート協会

1. 実施概要

ボート競技は、例外なく自然の中で行われる競技であり、自然環境の悪化は競技環境の悪化に直結する。また、地球温暖化が原因と言われる集中豪雨の多発などの悪天候の発生はボート競技のインフラを破壊し、選手の安全を損なう可能性がある「大きな脅威」であると言える。

そのためボート関係者は他競技以上に「環境活動」の重要性を認識する必要があるが、当協会としてはボート界を挙げて環境改善の取り組みを進めて行くことをより明確に示すことを目的として、本年3月に「環境方針」(下記参照)を定めた。

2. 平成30年度事業活動

- 大会時、会議開催時での環境ポスターの掲示
- 大会プログラムへの環境啓発PRの掲載
- 競技会場におけるゴミ分別収集などの環境活動実施
- 練習水域付近の危険物の除去やゴミの回収等の清掃



- セーフティアドバイザー（各都道府県に1名）を通じた各団体への啓発活動
- 「環境方針」の検討・策定

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①ポスター等によるPR、啓発活動

本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った。また、大会プログラムへ環境啓発ポスターを掲載した。

②講習会における啓発活動

全国セーフティアドバイザー講習会席上において、JOC環境セミナーでの情報なども活用しながら啓発活動を行った（埼玉県戸田市、北海道札幌市で開催）。

③戸田ボートコースにおける水草の除去

昨年初夏に異常発生し大きな問題となった水草が、本年度は4月下旬には早くも発生して水面に達し、オールを取られて艇が転覆するなど安全なローイングに支障が出るような状態となったため、コースを利用する各団体にも呼びかけ大規模な除去作業を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

上記1.記載の「ボート競技における環境活動の重要性」についての認識は徐々に高まってきている。「環境改善」はボート界を挙げて取り組む重要な課題であることを明確にするため下記の通り「環境方針」を策定した。今後は、この方針に沿った具体的な取り組みガイドラインを順次策定し、取り組みを進めて行くこととしたい。

公益社団法人 日本ボート協会 環境方針

[基本理念]

- ①公益社団法人 日本ボート協会は、ローイングスポーツ（ボート競技）を通じて環境保全に取り組み、サステナブルなスポーツ大会運営を通じ、新たな環境指針を実践することにより、「持続可能な社会」の実現に貢献する。
- ②ローイング（ボート競技）が目指す環境サステナビリティとは、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会的、文化的、経済的、そしてエコロジカルな責任のもとに開発が行われている社会である。

[行動指針]

日本ボート協会は、以下の行動指針に従い、環境保全に関する基本理念の実現に努める。

- ・動植物の生息・生育地や生態系の保全ならびに生物多様性の保全に十分配慮する。
- ・再生可能・不可能を問わず、あらゆる自然資源やエネルギーの維持・保全に努める。
- ・さまざまな要因によって生じる廃棄物および汚染物質の削減。
- ・各地に残る歴史遺産・遺跡の文化的価値について、その重要性を認識する。
- ・ローイングに関わる選手、指導者、審判員、競技会関係者、ボランティア、観客などのすべての人々の健康に貢献する。
- ・国際大会や国内コミュニティの中で、「持続可能な開発」「きれいな水」に関する環境意識の向上を図り、教育・啓発活動を積極的に行う。
- ・そして、ローイング以外のコミュニティと幅広い関係を築き、積極的に環境パートナーシップを形成する。



(公社) 日本ホッケー協会

1. 実施概要

スポーツ団体が環境保全活動に取り組むことの重要性を広めるよう努めた。協会主催大会において実践し、また各都道府県協会および各連盟にも啓発・実践活動を行わせるよう努めた。今後も全国のホッケープレイヤー及び関係者に環境保全活動に取り組むことの重要性を広めていくことを目標に、さらなる広報・啓発・実践活動に取り組む。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示した
- 競技会会場等における環境保全活動を実施した
- 研修会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示した

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②競技会等における環境保全活動
当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。
- ③研修会時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が理解され、選手・開催地の関係者に環境保全活動の重要性が浸透して来た。今後はさらにスポーツと環境保全の関わりの重要性を浸透させ、一人一人が自覚して自主的に活動することを促進していきたい。

(公財) 日本バレーボール協会

1. 実施概要

本協会では、バレーボールを通じて環境保全や環境啓発活動に取り組むため、従来から実施してきた大会会場での環境啓発活動や、ごみの分別を継続するとともに、本協会独自の取り組みとして、使用したバレーボールを発展途上国中心に提供する「バレーボールバンク事業」を展開している。

今後もバレーボールファミリー（ファン、加盟団体、プレイヤー、指導者、審判、役員等）の皆さまと協力しながら、バレーボールを通じた環境啓発活動に取り組みたい。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会における環境啓発活動、ごみの分別
- 事務局における取り組み
- バレーボールバンク事業



●ビーチバレーボール会場での清掃活動と美化活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動、ごみの分別

- ・環境ポスターを大会会場に掲出
- ・大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- ・バレーボール、ビーチバレーボール全ての大会においてごみの分別を実施

②事務局における取り組み

- ・メール、プロジェクター、裏紙の活用によるペーパーレス化の推進
- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・事務所内に環境啓発ポスターを掲示

③バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業とは、大会試合球や一般の方から寄贈されたバレーボールを発展途上国中心に提供する事業である。廃棄せざるを得なくなったボールの再利用を目的としている。

本事業は、本協会独自に実施している社会貢献（国際貢献）プロジェクトであり、2010年より本年まで継続して8年実施している。

④ビーチバレーボール会場での清掃活動と美化活動

ビーチバレーボールの大会では、大会開始前に砂浜の清掃時間を設け、美化活動に取り組んでいる。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスターやプログラム等を活用した啓発活動を続けてきたことにより、選手や観客、関係者を中心に環境に対する意識の向上が図られた。

平成30年度はバナーの掲示ができず、ポスターのみの掲示となったため、平成31年度以降はバナーを新たに制作し、環境ポスターとともに掲示し、引き続き環境に対する意識の向上を図っていく。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 小柴 滋

平成30年度はバレーボール、ビーチバレーボールの各大会にて環境ポスターを掲示し、「来たときよりもキレイに」という合言葉の実現に向け、取り組んできた。

平成31年度も現在の活動を継続していくとともに、バレーボールを通じてより多くの人々に対して環境啓発をして参りたい。

(公財) 日本体操協会

1. 実施概要

(公財)日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手を利用した啓発活動を再開する。

2. 平成30年度事業活動

- 環境啓発横断幕の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収



3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施される競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。これらは、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業における設置が慣例化されているが、新規製作などは進んでいない。

②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを設置し、継続的な分別意識を啓発した。

④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において、会議資料のペーパーレス化を図り、紙資源の節約に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

これまでの慣例に従って行われる環境啓発横断幕設置や、会議におけるペーパーレスの継続的な取り組みに意義はある。一方で、新たな取り組みがまったく導入されておらず、新たな取り組みなどの開発も進めていく必要がある。

(公財) 日本バスケットボール協会

1. 実施概要

公益財団法人日本バスケットボール協会 <JBA> は、スローガンである【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】を常に念頭に置き、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有できるような環境関連のメッセージを発信することを使命と考え、積極的に取り組んでいる。

2. 平成 30 年度事業活動

- 『環境啓発ポスター』の掲示
- 『環境取り組みメッセージ』広告の掲載
- 大会会場における取り組みの推進とゴミ分別活動の徹底
- 協会内部における環境活動強化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①『環境啓発ポスター』の掲示

- ・各主催大会およびオフィス内にてポスターの掲示。

②『環境取り組みメッセージ』広告の掲載

- ・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求。
(第 1 回全日本社会人バスケットボール選手権大会)

③大会会場における取り組み推進とゴミ分別活動の徹底

- ・子供にも解るようなごみ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。

④協会内部における環境活動強化



- ・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
- ・会議資料等の電子化推進、電気使用量削減の徹底。

4. 全体的な成果と今後の課題

平成30年度は、例年通り実施している環境活動の取り組み（ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告）を重点的に実施した。

平成31年度は、翌年のオリンピック開催に向け、大会数が増えるため、会場における環境啓発・ゴミ分別活動実施をさらに促進していく。また、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し実践していきたい。

（公財）日本スケート連盟

1. 実施概要

JOCの行動指針に則り、啓発活動及び実践活動を実行している。啓発活動においては、主管大会でのポスターの大会本内での掲示、横断幕の競技会会場への掲示の実施や審判員講習会でのレクチャー、活動報告等を実施。実践活動については、特に主管大会時のコピー用紙の使用削減を重点課題として取り組み、更にリサイクルの為のゴミの分別回収を継続実施している。

連盟各事業に携わる全ての役員・選手・業者が意識し、「計画→実施→評価→改善」即ちPDCAを廻していくことが大切と捉えており、取り組んでいく。

2. 平成30年度事業活動

- 競技会、講習会での環境バナー・ポスター掲示
- 講習会でのレクチャー
- 印刷物の減量化によるコピー用紙使用削減
- 競技会でのごみ分別

3. 具体的な活動内容

〔啓発活動〕

① 環境バナー・ポスター掲示

全日本選手権、全日本ジュニア選手権、主管地区予選大会、国際競技会、各種セミナーにおいて、バナー及びポスターを掲示し啓蒙活動を行った。講習会でのレクチャー、審判員講習会において、環境への取り組み、協力のレクチャーをした。

〔実施活動〕

① 印刷物の減量化

ISU大会、連盟主幹競技会大会においては運営に係る印刷物（滑走順、競技結果）の紙での配付を極力限定し、替わってオンライン・ウェブでのタイムリー情報提供に移行。連盟内の各種手続きもオンライン化を導入し、大会のみならず役職員の諸手続においても大幅なOA用紙使用及び廃棄の抑制をした。

② 競技会でのごみ分別回収

- ・ 選手控室や競技場内の環境良化のため、大会実施本部が業務内容として配慮している。
- ・ 連盟主催・主管競技会でのごみの分別を徹底し、実施した。



〔その他〕

国際会議での討議

3月に東京で開催された、国際スケート連盟会議において、「アスリートと国際スケート連盟メンバーはアイススケートを通して、どのようにサステナビリティの取り組みを広めるために貢献できるか？」という議題を国の枠を超えて参加国メンバーと話し合った。

4. 全体的な成果と今後の課題

【成果】

- ・講習会、競技会での啓蒙活動により特別な事から当たり前のことへ意識改革が進んでいる。
- ・ごみの分別については協力を得られている。
- ・オンライン化による印刷物の減量化はかなり進んできている。

【今後の課題・改善】

- ・オンライン化・ウェブ化により、印刷物の減量はできてきたが、ジャッジングシートや各種会議資料や大会資料等、取り組むべき課題は尽きない。
- ・各都道府県組織ベースでは、予算の問題もあり、オンライン化が進んでいないのが現状としてあり、どの様に進めるかが課題。

(公財) 日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

公益財団法人日本アイスホッケー連盟では、「この星にスポーツを」をスローガンに、ポスターや環境バナー掲示等を通じて大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。また、カーボンオフセット活動や植樹活動を行い、前年度より充実した取り組みを行うことができた。

2. 平成 30 年度事業活動

- 本連盟主催大会・試合における啓発ポスター・環境バナー掲示による普及啓発
- 本連盟・加盟団体主催の大会における啓発ポスターの掲示・大会パンフレットへの環境ポスター掲載による普及啓発
- 植樹活動
- カーボンオフセット活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①本連盟主催試合における啓発ポスター・環境バナー掲示による普及啓発
本連盟の主催大会において、啓発ポスターの掲示や ECO ブースの設置、ゴミの分別活動を行い、試合参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。
- ②大会パンフレット等への環境ポスターの掲示
第 86 回全日本アイスホッケー選手権大会、第 13 回全日本少年アイスホッケー大会等、大会パンフレットへ環境ポスターを掲示することにより選手・関係者・来場者への普及啓発ができた。
- ③元スマイルジャパン中村亜実選手・新屋環境委員長・加盟団体所属小学生チームとの植樹活動はアイスホッケー関係者だけでなく、地域の人々との触れ合いやテレビ局の取材を通し、当連盟の環境活動の幅広い周知の機会となった。また、参加した小学生選手は環境問題を楽しく肌で感じるこ



ができた。

④カーボンオフセット活動

IIHF U18 女子世界選手権大会では IIHF が提唱する Sustainability 活動に賛同し、大会期間中試合会場である2つのアリーナのCO2排出を算定し相当額を負担。証明書を会場内売店に掲示することで多くの選手・関係者・来場者に取り組みを周知することができた。他にも会場内のゴミの分別・公共交通機関（シャトルバス）利用推奨・風力発電で発電した電力で製作したタオルを全参加者に提供する等の取り組みを行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターやバナーを活用した環境保全啓発活動や印刷用紙の使用量の取り組みでは一定の成果が上がっている。今後は、植樹・緑化活動や河川の環境保全活動の継続と、より能動的な活動に取り組んでいきたい。

また、カーボンオフセット活動の普及、当連盟主催大会時大型ビジョンでのアスリートメッセージ動画放映、当連盟HPへの動画貼り付けやSNS等COOL CHOICE=賢い選択をITツールを利用して多くの人々に周知していきたい。

(公財) 日本レスリング協会

1. 実施概要

- JOC 環境ポスターの特大バナーの掲揚
- 大会パンフレットへ「来たときよりキレイに」をページ掲載
- 会場内の分別化の啓発活動・実践活動（大会スタッフの弁当のカラ箱の分別、ペットボトルのキャップ回収）
- その他、ごみの持ち帰り、マイボトルの推奨
- 環境教育として、指導者講習会とエリートキャンプで座学講習の開催
- 環境標語を募集し、啓発活動を図る
- 「都市鉱山からつくる！「みんなのメダル」プロジェクト」への参加

2. 平成30年度事業報告

	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
4月	ジュニアクイーンズカップ選手権大会	○	○	○	○
4月	JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	○	○	○	○
6月	明治杯・全日本選抜選手権大会	○	○	○	○
6月	全国中学選手権大会	○	○	○	○
7月	全国社会人選手権大会	○	○	○	○
7月	全国少年少女選手権大会	○	○	○	○
10月	全日本女子オープン選手権大会	○	○	○	○
10月	全国社会人オープン選手権大会	○	○	○	○



	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
11月	全国中学選抜選手権大会	○	○	○	○
12月	天皇杯・全日本選手権大会	○	○	○	○
1月	全日本マスターズ選手権大会	○	○	○	○
3月	全国少年少女選抜選手権大会	○	○	○	○
3月	全国高校選抜選手権大会		○	○	
※	8ブロック少年少女選手権大会	○	○	○	

※この他、少年少女のローカル大会のプログラム、キャンプのしおりなどに掲載している。

3. 具体的な活動内容とその成果

上記事業報告の通り、日本協会傘下団体の環境委員会の協力のもと、大会での啓発活動、そして講習会における環境教育を実施する。

本年度は、全国大会少年少女選手権において、新たな啓発活動と実践活動を行った。啓発活動として、「スポーツ環境標語コンテスト」を実施し、環境保全に関する標語を募集した。100を超えるフレーズが参加クラブから集まり、環境活動に関する意識の表れと、これまで継続して啓発活動を行ってきた賜物であることを感じた。

実践活動として、「都市鉱山からつくる！「みんなのメダル」プロジェクト」へ参加し、携帯電話、携帯型ゲーム機、デジタルカメラを回収し、オリンピックで使用される5000個近いメダルの一部に協力することができ、リサイクル社会への実現に向けて一歩を踏み出すことができた。

4. 全体的な成果と今後の課題

傘下団体の環境委員会の活動により、大会で定性的目標を掲げ、啓発活動、実践活動ともに順調に成果を上げてきている。今後の課題として、選手のマイボトル携帯率や、持ち込んだ会場内のごみをゼロにするなど、定量的目標を掲げ、大会ごとに実践していきたいと思う。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 鎌賀 秀夫

傘下団体の活動も継続してルーティンワーク化し、緩やかではあるが順調に邁進している。一朝一夕に長期化している気候変動とその影響を軽減するための緊急対策を講じることはできない。自分にできることを一人ひとりが考え、小さいことでも良いので継続して実践するよう啓発活動を継続するしか方法がない。

来年は、東京オリンピック・パラリンピックを迎え、新設される会場、改装される会場と、競技もさることながら、環境に配慮された施設づくりになっているか、それらを見るのも非常に楽しみである。また、岸記念体育会館もこの報告書が出版される頃には、「Japan Sport Olympic Square」という名称の新しい事務所に移転する。建設に際し、各競技団体に事務所づくりのアンケート調査があった。環境を配慮した提案も数多くあったと思う。その提案がどれだけ反映されているか、世界から集まるスポーツ関係者が驚く、そんな事務所づくりになっているか、これも楽しみである。



(公財) 日本セーリング連盟

1. 実施概要

海、湖で主に行うセーリング競技は直接環境へその影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成30年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2. 平成30年度事業活動

- 36の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- Facebookの活用による環境啓蒙活動の拡充
- World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030への参画
- ビーチクリーン活動の実施
- ボートショーによる一般向け環境活動の認知拡大と子どもたちへの環境啓蒙活動

3. 具体的活動実施内容とその成果

- ① 全日本クラスの36大会について環境キャンペーンを実施、支援
 - ・ 環境フラッグ、横断幕等掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を推進。
 - ・ レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処。
 - ・ 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約5000名に広くキャンペーンを浸透。
- ② Facebookの活用による環境啓蒙活動の拡充
 - ・ JSAFのWeb site内の環境委員会のページ経由Facebookを開設しリンクできるようにし、環境委員会の活動をより広く紹介できるようにした。
- ③ World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030調査への参画
 - ・ World Cup 2018 江ノ島大会の際、来日している World Sailing Sustainability 担当者と打ち合わせ。東京五輪に向けまだまだ課題が山積している旨確認。今後どうやって解決していくかを引き続き検討。
- ④ ビーチクリーン活動の実施
 - ・ JSAFの環境活動を支える企業の従業員の方々や、一般の方が200名集まり江の島片瀬海岸の海岸清掃を行った。マイクロプラスチックによる海洋環境汚染問題のセミナーも開催し、認知するだけでなく具体的に行動に移すことも推進。
- ⑤ ボートショーによる一般向け環境活動の紹介と子どもたちへの環境啓蒙活動
 - ・ 3月に開催されたインターナショナルボートショーのJSAFブースにおいて、主に子供向けに海洋環境についてのセミナーを開催し、セーリングと共に海の環境保護についても啓蒙活動を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

今年度は福井国体の際に計画していた Used Sail をリユースした WorkShop が台風により中止となった。大きな企画を1つ失い残念であったが、地球温暖化の中、今後もこういう事は増えてくる



かもしれない。選手のみならず大会関係者、観客も含め、意識を少し変えることにより環境保全に自分達もできる事があることを引き続き啓蒙活動として行っていきたい。今後は JOC ポスターの大会プログラムへの掲載等、まだ実現できていない課題も併せて活動の拡充にも努めていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 永井 真美

今年も地域セミナー、総務フォーラムに参加させて頂き他の競技団体との横のつながりも増えた。環境のために今すぐに何かしなければいけない、でも何をどうしたら良いのかが分からないという声は依然多く、具体的な方策の提案、共有が急務と再認識した。

(公社) 日本ウエイトリフティング協会

1. 実施要項

(公社) 日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し、環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成 30 年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、横断幕を会場内に設置した。特に、全日本大学対抗戦などの大学生主体の大会においては、バナーをステージの真上に掲げ、環境啓発活動を実施している。

② 競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を行っている。

③ 競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。石川県において開催した全日本選手権大会では、役員の弁当に紙と経木でできた容器を使用した。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会では、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴ



ミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

国内における国際大会開催では、次のような環境への配慮を行った。

- (1) 飲料の入っていた段ボール箱は解体して資源ゴミとして活用した。
- (2) 記録の読み合わせ確認で使用し、不要となった記録用紙や使用済で不要となった試技申込用紙も資源ゴミとして処理した。
- (3) 競技に必要な書類等を実施グループごとに保管するために使用した封筒は他の用途に再使用するため保存した。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、様々な取り組みを行っていききたい。

(公財) 日本ハンドボール協会

1. 実施概要

ハンドボール競技をする団体として、地球を取り巻く環境保全を常に心がけ、協会主催大会において多くの方が集まる場での啓発が効果的と考え、会場内へのバナー・ポスターの掲示、プログラムへの掲示を行った。今後も全国の関係者や選手に環境保全に取り組むことの重要性を広め、一人ひとりの意識が向上できるようにしたい。

2. 平成30年度事業活動

- 大会開催時に環境保全啓発ポスター、環境バナーを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲示
- 競技会場内におけるごみ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会における環境啓発活動
 - ・環境バナー、環境ポスターを会場に掲示し、環境の取り組みを告知した。
 - ・環境ポスターをプログラムに印刷した。
- ②大会等における環境活動
 - ・ごみの分別を徹底し、大会情報や結果の報告等でのペーパーレス化に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓蒙活動としてポスターやバナーの掲示、ごみの分別や持ち帰りの呼び掛け等により、環境への意識は向上している。しかし、屋内スポーツとしての問題（電気、空調）等をしっかり把握し、開催団体や主管団体と協力して啓発活動を進めたい。



(公財) 日本自転車競技連盟

1. 実施概要

近年、自転車は有害物質を排出しない、健康的かつ環境にやさしい乗り物として注目を浴びる存在となっている。その自転車を利用したスポーツである自転車競技は、環境にやさしいスポーツとしての定着を目指し、競技と環境の関わりを一層深めることをめざす。

2. 平成 30 年度事業活動

- 紙消費量の削減（インターネットによる大会申込の推進など）
- ボディナンバー用安全ピン配布の中止
- 環境啓発ポスター、バナーの掲示促進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①紙消費量の削減

エントリー用の特設サイトを開設。主催大会におけるエントリーに関してはすべてインターネット上にて完結するものとした。

②ボディナンバー用安全ピン配布の中止

主催大会において、ボディナンバーを止める安全ピンを選手持参とし、主催者による新品の配布を中止した。

③環境啓発ポスター、バナーの掲示

大会会場、事務局など広い範囲にて環境啓発ポスター、バナー掲示による啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

29 年度に引き続きの活動が主であったが、環境啓発ポスターやバナーの活用については積極的な活用を目指し、連盟事務局のみならず、地方や各大会の事務局、大会本部などに掲示を促進した。

本連盟の環境活動は基礎的な取り組みが中心となっているが、限られた予算や人員でできる活動を今後も進め、多くの参加者・観客に浸透していくよう引き続き継続していきたい。

(公財) 日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

(公財) 日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成 23 年度に環境・教育プロジェクトに変更し、公益財団法人移行とともに平成 24 年度からは環境・教育プロジェクトとし、特別委員会とした。

特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画 2017」の主要な取り組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用性を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組むことである。ソフトテニスを通じて環境保全を図るとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。

環境対策については、傘下 47 都道府県支部と日本学生連盟に、本連盟独自で作成した環境とマナーの横断幕「来たときよりも美しく！ありがとう あなたの笑顔と そのマナー」と、既に配布済みの「こ



の星にスポーツを」の横断幕を各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲出、さらにはゴミの分別等エコ意識の高揚を継続している。

2. 平成30年度事業活動

30年度には、下記の全国大会会場で上記横断幕の掲出の他、環境ポスター掲示、機関誌、大会プログラムへの広告掲載（「きたときよりもキレイに！」～スポーツの心、環境と未来へ～）を傘下支部へ呼びかけて刷り込み、また分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り、マイボトルによる紙コップ削減のリデュース活動等々を継続実施した。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するために、物を大切に生活習慣の徹底を推進した。

さらに、日本連盟主催大会、各支部大会での役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査を行った。

主な大会名	開催日	会場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	平成30年5月19～20日	青森県青森市	青森県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	平成30年8月3～5日	茨城県北茨城市他	茨城県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	平成30年7月26～29日	愛媛県今治市	愛媛県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	平成30年7月30日～8月3日	岡山県備前市	岡山県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	平成30年8月21～23日	広島県尾道市	広島県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	平成30年9月8～9日	静岡県静岡市	静岡県ソフトテニス連盟
JOC杯全日本ジュニア選手権大会	平成30年9月15～16日	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	平成30年9月21～23日	佐賀県佐賀市	佐賀県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	平成30年10月19～21日	熊本県熊本市	熊本県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	平成30年7月14～15日、 21～22日	茨城県神栖市、 栃木県宇都宮市	茨城県、栃木県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	平成30年6月23～24日、 7月21～22日	宮崎県宮崎市、 大分県大分市	宮崎県、大分県ソフトテニス連盟
国民体育大会	平成30年10月5～8日	福井県越前市、福井市	福井県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	平成30年10月26～28日	京都府福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	平成30年10月27～28日	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	平成30年11月16～19日	宮崎県宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	平成30年12月14～16日	愛知県豊田市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	平成31年2月3日	大阪府大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

3. 今後の活動

31年度は、環境・教育プロジェクト特別委員会を中心に、引き続き上記の活動を各支部と連携を図りながら、日本ソフトテニス連盟独自の環境とマナーの横断幕と、27年度に作成した「マナーBOOK」を活用し、環境保全の大切さとマナーの向上に取り組んでいく予定である。同時に今までに集約したマナーのチェックシートをグラフ化し、各支部にフィードバックを実施する。また、ボールの再利用について研究を進めていく。



(公財) 日本卓球協会

1. 実施概要

(公財) 日本卓球協会は、近年の地球温暖化が及ぼすエルニーニョ現象をはじめとする気象の変化をふまえ、本年度も環境保全・改善活動のより幅広い実践・普及に努めた。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスター・横断幕などのバナー掲示
- 大会時に環境活動実施
- 大会時に環境啓蒙の話をする

3. 具体的な活動実施内容と成果

- ①環境省に訪問日本し卓球協会の活動報告と協力依頼
昨年同様、改めて本年の環境改善活動に理解を求め、配布資料・横断幕等協力を得た。
- ②全国大会時に環境啓発ポスター・横断幕などをバナー掲示
実業団・大学・高校・レディース部門はそれぞれ義務化し、実施した。
- ③環境実践活動
大会時にはゴミ袋をチームごとに配布し、ゴミの分別を指示。終了時、役員が会場内を見回り、ゴミの回収と清掃を実施した。また、チームゴミ等は持ち帰り運動を働きかけた。
- ④環境保全に関する事について
大会開催前の監督会議時に、環境保全・改善の大切さの指導を実施。また、選手のラバー張替え場所を決め、接着剤の有害化を防止。競技フロアにおいては選手の飲み物（半飲み・空ボトル）を大会運営側がチェック、指導した。
他に、たばこの喫煙場所を決めると共に、ポイ捨て禁止等、意識改革運動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

近年改めて温暖化など気象の変化が社会でも取り上げられ、環境問題が再燃した感じがする。活動を通じ環境改善活動を再認識し、今以上に悪化しないよう、卓球界の一人一人ができることを実行すべく、これからは全国大会だけでなく地方にも広げる事が課題である。

(公財) 全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟は、スポーツ振興に寄与する目的から、平成 17 年度に環境担当委員会を設置し、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施している。環境保全ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し、当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し、環境保全意識の向上を図っている。

平成 19 年から各支部より使用済軟式野球用具を収集し、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動を継続実施している。近年では、登録チーム及び一般向けにも用具提供依頼を行い、事業拡大



を図っている。一部の主催大会において、用具回収ブースを設置し、選手が直接寄贈を行うといった教育啓発活動の意味合いでの活動にも着手している。

平成24年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り加盟団体支部（47支部）に電子メールでの配信を実施している。

2. 平成30年度事業活動

- 競技会等での環境啓発活動と環境活動（中古用具の海外寄贈）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会等での環境啓発活動

連盟主催大会及び講習会にて、JOC環境啓発ポスター、JOC環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

②環境活動

日本では使用されなくなった野球用具も、海外の国や地域によっては十分に使用可能であり、野球普及に有効との観点から、外務省スポーツ外交推進事業（機材輸送支援事業）に参加する形で、また本連盟主催大会である高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント会期中に回収ブースを設置し、JICA、日本マクドナルド株式会社と連携のもと事業展開を行った。本年度の寄贈国は、スリランカ、マーシャル諸島、グアテマラ、ブルガリア他、計11か国となった。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境チラシの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋げることができた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を行なえるよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行により影響がもたらされる競技であることを理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

（公財）日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と、靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のごみの分別の徹底と、持ち込んだごみは持ち帰るといった活動を今後も継続的に実施していく。

多くの大学においては、相撲部の合宿所においてゴミの分別の徹底を図るとともに相撲部員が最寄の駅から合宿所の道程にゴミの無いように、ゴミ拾いを実施している。

今後このような取り組みが、加盟大学の全体に広がるよう推進していきたい。

2. 会場別対策



- ・屋内の大会で、ごみが放置されていることは殆ど見当たらない。
- ・屋外においても、持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- ・屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。小中学生の大会では、少年選手達が砂を付けたまま観覧席に入ることがある。砂は、足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枡席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。よって砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在では殆ど問題がなくなっている。

4. 平成 30 年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（愛媛県・西予市）や日本相撲連盟主催の全国都道府県中学生相撲選手権大会、全日本選手権（東京都・国技館）の会場においては、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示するとともに、環境活動の重要性を喚起し、選手、監督、役員などの関係者全員に、ごみの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きな関わりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示するとともに、主要大会プログラムに「環境ポスター」掲載するなどして環境保全に努めていきたい。

（公社）日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成 30 年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの心、環境と未来へ」の JOC スポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施。

3. 具体的な活動実績内容とその成果

- ①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
- ②ジュニア競技大会に子どもたちに対し、環境活動の啓発
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。



大会名（開催場所）	参加選手数
第35回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約100名
第39回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約40名
第42回全日本ジュニア障害馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約190名
第39回全日本ヤング総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約90名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成30年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることが、啓発から実践に繋がるものと考え。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

（公社）日本フェンシング協会

1. 実施概要

大会時に全国の競技者、指導者等に対して環境保全の啓蒙運動を図り、環境活動に関する理解を深めた。全国レベルで積極的かつ継続的な活動を目標に取り組む。

2. 平成30年度事業活動

- 国立スポーツ科学センター・味の素ナショナルトレーニングセンターのフェンシング練習場の節電を実施
- 大会時環境啓発ポスターを掲示
- 競技会における環境活動（会場内の見まわり、安全管理、整理整頓、ゴミ分別収集等）

3. 具体的な活動実施内容

- ①毎日、実施できる取り組みとして、国立スポーツ科学センター・味の素ナショナルトレーニングセンターのフェンシング練習場の練習時間外の節電を引き続き実施した。
- ②JOCジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成31年1月11日～1月14日）において環境ポスターを掲示して啓発を図った。年齢が若い選手が対象であり、会場内で『周辺を清掃する。ゴミを出さない。』ようアナウンスして注意を図った。
- ③大会時、環境委員が館内や通路を見まわり、ペットボトルや缶等の片付けや会場内の整理整頓を実施した。
- ④2019年高円宮杯東京ワールドカップ（平成31年1月25日～1月27日）にて環境ポスターを掲示して啓発を図るとともに、ペットボトル、ビン、可燃ゴミの分別を行い、会場内のゴミ収集を実施した。

4. 全体成果と今後の課題

大会でポスターを掲示し、会場内で『ゴミの分別』を呼びかけたが、ペットボトルやゴミ等が片付けられていないことがあった。競技会での環境委員の見まわりを計画的に実施し、指導者や選手達へ環境活動の啓蒙を図る。



日本開催、2019 アジア選手権、2020 東京オリンピックに向けて、一層強化する。
開催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げる努力をしていく。

(公財) 全日本柔道連盟

1. 実施概要

全日本柔道連盟では、柔道の創始者である嘉納治五郎師範の目指した「柔道を行うことによって技術の上達のみならず人間的な成長」を達成することを念頭に様々な事業に取り組んでいる。連盟として環境に取り組むことは、自他共栄の柔道精神に則った活動であると考え、指導者、選手、試合会場に来る保護者やファンなどにも公共交通機関を使用しての往来や、大会会場でのゴミの分別や持ち帰り等の啓発活動を行っている。

2. 平成 30 年度事業活動 (概要)

- 大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
- 大会プログラムへの掲載
- 大会・イベント時の会場内におけるゴミ分別の徹底
- リサイクル柔道衣、リサイクル畳の支援

3. 具体的な活動実施内容とその成果

昨年から引き続き、当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示すると共に、全日本ジュニア体重別選手権大会では、会場美化活動の一環として、決勝戦開始前の準備時間を利用して会場クリーンアップタイムを実施した。埼玉県内の高校生がゴミ袋を持って観覧席を巡回し、観客へゴミの分別回収をお願いするとともに、置き去りにされたゴミの回収を行い、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。また、国際貢献事業の一つとして、リサイクル柔道衣をマウライ、ギニアの2カ国に計180着、リサイクル畳をインド、インドネシア、ラオス、ミャンマーの4カ国に計653枚を支援した。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し環境保全活動の啓発を継続することで、観客や保護者によるゴミ持ち帰りやゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等の環境への意識が浸透してきている。

本連盟においては、2014年4月に「柔道 MIND プロジェクト」を発足し、柔道の本質である礼節、品格のある柔道人を育成することを目的として活動している。嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。



(公財) 日本ソフトボール協会

1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また(公財)日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を行った。また、各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。

2. 平成30年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示。
- 各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる。
- 啓発ポスターのデザインを使用したクリアファイルの作成・配布。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ(右図)、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

また、各大会の監督会議の際に派遣される理事から啓発を依頼し、拡がりをもせる取り組みを模索したい。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

ソフトボールと環境についての5分レクチャー原稿

(5分のレクチャーの機会がある場合は次の話をお願いします)

1 ソフトボールと環境についての理解

- (1) ソフトボールを愛する私たちが皆、地球人
- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係がないと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ② ソフトボールをするためには、「きれいな空気」、「試合や練習の後に飲みおしい水」、「プレーをする汚染されていないグラウンド」が必要です。また、人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に、環境保全を実行する義務があります。
- ③ ソフトボール協会では、みんなで環境保全するため、全国から環境標語を募集し、最優秀作に当時山梨県の中学生の佐野満希さんの「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」が選ばれ、その標語の横断幕を作り全国の大会でフェンスに掲示しています。
- ④ ソフトボールがオリンピック種目に入るためには、環境対策が重要な要素の一つ
- I O C (国際オリンピック委員会) は、オリンピック運動は「スポーツ」「文化」「環境」を三本の柱とすることを定めていて、種目採用の基準にその種目がどのくらい環境対策に配慮しているかが、選定の大きな要素になっています。
- (2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。
- (3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできることを実行する)
- ① 環境保全を推進するにあたり大切なことは、まず、地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、また、その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えてつう対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持ってばできる簡単なことです。

2 協力依頼

- (1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。
- 地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、農業・漁業・多くの産業が大きな打撃を受けています。
- (2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています。
- (3) 私たちがソフトボールをやるうえで実行できること
- ① ソフトボール会場へは、できる限り公共の交通機関か自転車、徒歩で行く。
- ② 全てのゴミ(食べ残し、ボトル、ビニール袋等)は、設置されているゴミ箱に分別して捨てるか、家に持ち帰る。リサイクルするもの・廃棄するものに分別する。
- ③ クラブ、またはチームとして、環境デー、地域の清掃、植樹などの環境活動に参加する。参加が難しい場合は、そのような活動を率先して推進する。
- あるインターハイの会場で、試合後、参加したチームがきれいに会場清掃しただけでなく、皆さんが使用したトイレまできれいに清掃して行ってくれた例もあります。
- ④ 使い古した用具は放置せず、適切な処理をする。(分別して市の施設で処理など)
- (4) 私たちが社会生活の中でできること
- ① エネルギー資源を削減するために3 R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
- a 削減 (Reduce) : まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです(例: 電機や紙の削減)
- b 再使用 (Reuse) : 同じものをできるだけ多い回数使うように工夫することです。(例: サイズの問題で着ることの出来なくなったウェアを使う人に回す)
- c リサイクル (Recycle) : 使えなくなったものを上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例: ペットボトル繊維)
- ③ 温暖化の源である二酸化炭素を減らすため炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

* 環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

ソフトボールをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進して社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

* ソフトボールの講習会などでは、網掛け部分を重点に、お話をしてください。2~3分で対応できると思います



(公財) 日本バドミントン協会

1. 実施内容

当協会は、スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に「できることから始める」をスローガンに、登録会員全員に向けて環境保全の意識を高めることを中心に継続的な活動を実施し、そこから当協会だけの活動に止まらず、より多くの人に発信していけるような活動を目標に取り組んでいく。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会時、環境啓発ポスターの掲示
- 大会プログラムに環境啓発広告を掲載
- 大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動
- 環境保全として、大会時・合宿時にゴミの分別活動実施

3. 具体的な活動内容とその成果

①大会時等環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、S/J リーグ開催地、主催 21 大会等において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布及び啓発活動の実施。

②大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動

本会主催 21 大会及び S/J リーグの要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

- (1) 宿泊先や試合会場でのゴミの分別収集に協力してください。
- (2) 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- (3) マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください。

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などについて電子メールを活用し、省資源化を実施している。

③環境保全として、ゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

本会ナショナルチーム及びジュニアナショナルチームの役員・選手に対しては、味の素ナショナルトレーニングセンター内の強化合宿において、ドリンク類のペットボトル等の多さに着目し、分別廃棄を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会の委員を中心に、主に大会時におけるポスター掲示、パンフレット配布など地道な活動を中心に行ってきた。選手・加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識と理解を得られたと認識している。

今後も継続的に現在の活動を続けることで、スポーツと環境の関わりを多くの方に理解していただくよう活動していく。



(公財) 全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成30年度事業活動

- 主催行事における環境啓発活動
- 主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発

本連盟主催行事にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催行事において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO2削減について取り組んだ。

大会速報の配布を行わず掲示のみに留めて、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示などの啓発活動により、役員・選手・観覧者等広く環境保全を促すことができた。特に平成30年度は本連盟最多参加者となる大会での啓発活動により、全国各地の参加者へスポーツと環境意識の向上を促すことに繋がったと考えられる。参加者が地元で伝達することにより、啓発活動の更なる広がりが期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

(公社) 日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取り組みと、会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成30年度事業活動

- 国体、全日本社会人選手権等の競技会、会議等での環境ポスター掲示
- 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業
- 環境保全に関する内容を講習会等で実施
- オンラインファイル配布、メーリングリスト活用により紙の使用量を大幅に削減

3. 具体的な活動実施内容とその成果



①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに、福井国体や全日本社会人選手権などの競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともに、ゴミを持ち帰ることにより、施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止、施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④オンラインファイル配布、メーリングリスト活用により紙の使用量を大幅に削減

加盟団体等への年間 10 万枚のペーパー資料を全て WEB 配信化して、紙の使用量を大幅に削減することができた。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。

（公社）日本近代五種協会

1. 実施概要

日本近代五種協会は各競技会（開催地）において、多くの参加選手とその家族ならびに大会関係者及び観戦者に環境保護について説明を行い協力依頼を行った。

2. 平成 30 年度事業活動（アピール啓蒙活動を行った競技会）

- ・ 6 月 17 日 長野県大桑村大会（木曽）
- ・ 7 月 8 日 和歌山県橋本市大会
- ・ 7 月 22 日 山形県上市市大会
- ・ 8 月 19 日 北海道江別市大会（野幌）
- ・ 9 月 2 日 千葉県長生郡大会
- ・ 9 月 30 日 東京都調布市大会
- ・ 10 月 14 日 東京都立川市大会
- ・ 11 月 24 日 日本選手権大会兼 JOC 杯兼ファイナル大会（東京都立川市）



3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスターの掲示

会場来場者に向けて、環境啓発に対する意識の高揚を図ることができたと感じる。

②大会終了後における清掃作業の実施

ゴミの分別や持ち帰りとりサイクルの呼びかけを実施した。

環境保護に対する呼びかけに対して、多くの参加選手とその家族等関係者の理解と協力を得て、意識向上にも寄与できたものとする。また、継続した活動に成果が見られることは大変喜ばしいものと感じる。

③競技会参加申込受付時における公共交通機関利用や車両相乗り等での来場を推奨

競技会参加者への協力を依頼するとともに、運営役員の移動及び行動にも同様の配慮をした。

4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では更なる環境啓発及び改善を促すには、競技大会を通じて主催者が呼び掛けを行い参加者も一体となって物品とエネルギー消費を抑えることが互いの経済的な負担の軽減、すなわち環境保全に繋がるという事を訴えることが必要であるとする。

(公財) 日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置より12年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組みとして、『社会貢献活動の一つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして各種事業を実施した。

2. 平成30年度事業活動

- 日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- 地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』(環境省主管) サポーターメンバーとして環境保全活動への協力
- 協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進
- 日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- 2019年2月27日開催のJOCスポーツ環境専門部会に参加し他競技団体の取り組み事例を研究、及び2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたディスカッション
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック(男・女7人制ラグビー競技)に向けての環境活動への取り組みを推進してゆく

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動(環境啓発PR)

広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境啓発運動を推進。

- ・「FOR ALL, FOR EARTH」環境スローガン活用

②経済界協議会との合同によるトップリーグ試合会場にて競技会場の美化活動「KEEP THE STADIUM CLEAN」を実施、当日出場チームの所属選手やボランティアも協力。(秩父宮ラグビー



場、豊田スタジアム、大分ドーム、味の素スタジアム等)

- ③ トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN プロジェクト」を継続展開。トライ数に応じ、網走市の森林保全活動に寄付。(2018-2019 総トライ数全 963 トライ分の寄付金、及びハードロックカフェとのコラボによるチャリティーグッズ販売の売上の一部を活動に役立てる)
- ④ クール・ウォームビズ、エコ商品利用、試合開催時の公共交通の利用促進
- ⑤ 秩父宮ラグビー場における「エコキャップ運動」

4. 全体的な成果と今後の課題・活動について

【成果】

- ・ トップリーグが中心となりラグビーにおける環境実践活動を前進させている。

【課題】

- ・ 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツ界全体での環境実践活動を強力に推進していく必要が有る。
- ・ 公式試合会場等での「環境 PR メッセージ」のビジョン放映を実施していきたい。

FOR ALL, FOR EARTH.

(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

具体的には

- 1) 独自制度である「自然保護指導員制度」(現在 1400 名を超える登録)の普及
- 2) 自然保護委員総会(各都道府県に委員を 1 名配置)の開催
- 3) 環境省や日本を代表する山岳団体などと連携した山岳自然保護活動
- 4) 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などの推進
- 5) 各地における清掃登山や登山道の補修などの実践
- 6) 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導の推進等年間を通して活動を行っている。

平成 30 年度の特記すべき環境活動としては、「未来につなごう みどり豊かな自然環境を」をテーマに、山岳自然保護の集い全国集会(第 42 回自然保護委員総会)を平成 30 年 11 月 23 日～25 日に埼玉県比企郡小川町で開催。全国から 75 名の委員が集まり、山岳環境について意見交流を行った。

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会では、独自の制度として「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から 1200 名余の登録を受けて、登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進するものである。また、この指導員制度のさらなる拡大展開を進めるべく、全国に情報発信を行っている。



◆登山者マナー

1. 自然を大切に
この恵み多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にします。
2. 水資源を大切に
水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。
3. テイクイン・テイクアウト
山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。
4. トイレマナーを守る
登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。
使用済みペーパーなどトイレゴミの持ち帰りを呼び掛け。
5. ローインパクトに心がける
自然環境への負荷を抑える。移入植物の侵入への配慮（靴の泥に混入）。ストックにゴムキャップ装着。
6. 食糧や残飯の適切な管理を心がける
野生動物への配慮（餌やり防止、残飯投棄防止、キャンプ食糧の管理）。

(公社) 日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では、環境保全並びに大会会場の美化推進の重要性の観点に基づき、とりわけ水辺環境について「クリーンウオーター」運動を連盟創設時より継続的に実施している。平成30年度においては本連盟、加盟団体、協賛企業や関連自治体および参加者、地域住民と協働して展開した。

2. 平成30年度事業活動

すべての主催競技会において啓発活動を実施し、清掃活動等を実施した。スラローム大会ジャパンカップ全7会場においては協賛企業とタイアップし、観戦来場者を含むすべての参加者に呼びかけ、イベントとしても実践した。また、インテグリティ教育の一環として各種の講義、研修会においても発信した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会実施前に環境点検を主管団体と共同して実施し「来た時よりも美しく」を実践した。
- ②危険箇所回避、瑕疵については排除し、会場設営に着手した。
- ③水質については事前の公認検査の項目に照らし、汚濁・悪化防止に配慮したビオトープなど水生植物による再生を試みる自治体と協働した。
- ④監督会議、開会式において必ず環境保全についてその重要性を発信した。
- ⑤原則、ごみは持ち帰りとし、やむを得ず会場処理する場合は自治体や宿泊業者とタイアップし処理体制を整備した。
- ⑥会場内のゴミ拾い等は大会日程に合わせて一斉もしくは参加団体ごとに実施した。
- ⑦会場内放送で定期的に環境保全・美化推進を啓発した。スラローム会場においては横断幕、のぼり、ブルゾン、トンガ、軍手などを準備しイベント化を図る取り組みも実践した。



4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動はおおむね浸透している。また、「クリーンウォーター」運動は長年本連盟の重要スローガンであり定着している。カヌー競技場の設置により、以前より水辺の環境が整備され、かつ水質が格段に改善され、周辺住民に歓迎され公園化されているところも出てきており、カヌー競技場設置が契機となり自然と寄り添うこうした事例を全国にさらに広めたい。

今後の課題は、本連盟傘下ではない一般カヌー愛好者への啓発活動が急務である。レクリエーションとして普及することは大いに歓迎であるが、マナー欠如による環境汚濁については当該地域の加盟団体・加入団体および自治体とタイアップし、定期的な保全監視活動や看板等の設置による啓発活動を推進したい。

(公社) 全日本アーチェリー連盟

1. 実施概要

加盟団体含めて連盟が一体となって環境活動を具体的に明示して、継続的に取り組むべく全国発信した。

2. 平成 30 年度事業活動

- 環境宣言を用いて広報活動
- 本連盟主催大会にて環境の啓発活動
- 本連盟からの加盟団体宛発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・環境宣言を本連盟ホームページに掲載。
- ・環境月間を制定して加盟団体宛てにメール発信し、取り組みを促した。
- ・加盟団体宛の文章発信等はメール発信にした。
- ・具体的な環境の取り組みを例示し、実践を促した。
- ・本連盟主催大会のパンフレットに環境宣言を掲載しポスター、バナーを掲示し、ごみの分別も行った。紙ベースの速報の掲示を廃止し、スマホにて読み取れるようにし、結果もホームページに終了後速やかに掲載して配布をやめた。
- ・全日本主催大会のゼッケン用安全ピンを選手自身で持参するようにして毎回 400 以上の安全ピンの準備を無くした。
- ・全日本小中学生大会では終了後全員でゴミ拾いを実施した。
- ・本連盟主要大会の開会式にて環境啓発のお願いをした。

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年度は環境についての啓発活動を実施したことで意識を付けることはできたが、今後は加盟団体においても全員参加型の環境の取り組みができるように、啓発から実践できる体制強化を図りたい。



(公財) 全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行なった。

2. 平成30年度事業活動

- 徹底した節電
- 大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
- ナショナルチームによる早朝ゴミ拾い活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電気を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行なった。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用したりして、節電に努めた。
- ②大会会場や、日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。特に、10月に日本国内で開催された「空手1プレミアリーグ2018東京大会」では会場内に撤去可能なゴミ箱を増設し、また、ポスターを作って海外選手へゴミの分別収集を呼び掛けた。
- ③ナショナルチーム合宿において、宿舍まわりの早朝ゴミ拾い活動を行なった。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行なっている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を抑えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られるようになってきている。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にごみの分別を行う姿が見られるようになった。

(公社) 全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 平成30年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- 照明、空調等の調整による節電



3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広く PR することができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

(公財) 全日本なぎなた連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本なぎなた連盟では、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を子どもたちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んだ。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会開催時に環境啓発ポスターの掲示
- 大会会場におけるゴミ分別回収の実施

3. 具体的な活動実施内容とその効果

- ①皇后盃 全日本なぎなた選手権大会会場等において環境啓発ポスターの掲示
その他大会会場において環境啓発ポスターを掲示して「ごみを減らそう、持ち帰ろう」等の呼びかけを徹底した。
- ②各種研修会等における環境活動
各種研修会等においてゴミの分別とゴミの持ち帰りを呼びかけ、徹底を促した。
- ③事務局においては、電気使用量の削減に努めている。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示による啓蒙活動により、役員・選手・観覧者の多くに、環境保全を促すことができた。環境保護意識も高まってきているが、今後更に、環境活動を継続して取り組むことが重要であると考えている。

(公財) 全日本ボウリング協会

1. 実施概要

「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマのもと、平成 30 年度も協会総務委員会の普及・広報部会が担当し、スポーツと環境保全への啓発活動を実施した。具体策としての大会における活動は競技委員会の協力のもと実施した。



2. 平成30年度事業活動

- 各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示
- 環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- 大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

3. 具体的な実施内容とその成果

①各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示

協会主催大会、理事会・評議員会、審判員資格認定会等において、環境啓発ポスターを提示した。また、協会事務局内にも同ポスターを掲示し、注意喚起と資源の無駄づかい抑制に努めながら業務を遂行した。

②環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

JOC ジュニアオリンピックカップ第42回全日本高校ボウリング選手権大会では、プログラム冊子に環境啓発ポスターデザインを掲載し、男女優勝者によるポスター披露を実施した。

また年間を通じて、協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」において、競技環境保護に関することや、ルール、マナーの遵守について注意喚起を行った。大会中は場内アナウンスで使用後の競技エリア美化についてなど注意喚起した。

③大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

協会主催大会では、SNSおよびWebで詳細な成績データを公開することで、紙による配布を抑制した。また最終成績のデータ（メール）での提供や、複写式スコアシートの使用量削減も推進し、印刷コストや用紙使用量の削減につながった。

4. 全体的な成果と今後の課題

2019年度で小学生の全国大会を設けて10年目を迎える。全国大会に初参加する年齢がこの10年間で低下したことになるが、その分環境を大切にすることを習慣づけやすい状況になったとも考えられる。ルールやマナーに対する意識づけの方法も含め、若い世代に理解できるよう工夫が必要である。

協会主催大会では、競技シフト終了後に、場内アナウンスで退出する選手に向けて競技エリアの現状回復を促している。試合後のマナーとして、選手が主体的に行動することを期待しているが、経験の浅い選手の存在も踏まえ、毎度アナウンスすることが必要とも考えている。

また、指導者や審判員といった関係者に向けた意識づけも重要で、審判員資格の認定会、強化コーチ研修会といった事業の中でも意識づけを行っていきけるよう、各事業の担当部会に引き続き働きかけていきたい。

(一財) 全日本野球協会

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、総務委員会環境部会から各加盟団体に情報発信し、野球界全体における啓発活動に取り組んでいる。特に野球で使用する木製バットは自然の恵みであり、自然環境の保全是野球界のメインテーマとなっている。平成30年度は北海道胆振東部地震に見舞われ植樹活動が一部中止となったが、北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世



界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取り組みを展開した。

2. 平成 30 年度事業活動

- 各加盟団体主催行事における環境ポスターの掲示
- 各加盟団体主催行事における地球温暖化対策メッセージの放映
- バット材（アオダモ）の植樹活動
- 競技場〔球場〕美化活動として経済界協議会と提携し都市対抗野球大会（東京ドーム）や日本選手権大会（京セラドーム大阪）でゴミ袋を 6000 人に配布しゴミを出さない活動を展開
- 同上、東京ドームと京セラドーム大阪にて経済界協議会とタイアップし、カーボンオフセットを実施

3. 具体的な活動内容とその成果

①主要行事における環境啓発ポスター等の掲示

- ・7月－第 89 回都市対抗野球大会 東京ドーム
- ・8月－第 100 回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場
- ・11月－第 44 回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪
- ・1月－2018 年度野球指導者講習会 オリピック記念青少年総合センター
- ・通年 社会人野球並びに学生野球の各地方大会 各地主要球場

②主催行事における地球温暖化対策ビデオメッセージの放映

- ・7月－第 89 回都市対抗野球大会 東京ドーム（東京ガスによるカーボン・オフセット実施協力ビデオメッセージ）
- ・8月－第 100 回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場（侍ジャパン 稲葉篤紀監督によるビデオメッセージ）
- ・11月－第 44 回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪（スキー／ジャンプ 高梨沙羅選手によるビデオメッセージ）

③バット材（アオダモ）の植樹活動（4 回）

- ・日時：平成 30 年 7 月 14 日 午前 10 時～11 時 30 分

場所：北海道 苫小牧 国有林 1283 林班は小班

植樹数：200 本（鹿対策との同時並行作業）

参加者：内藤尚行（元中日ドラゴンズ）、北海道鶴川高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球チーム（苫小牧新生台イーグルス野球少年団・苫小牧豊川スポーツ野球少年団）の選手、林野庁北海道森林管理局、北海道庁、地元ボランティア及びアオダモ資源育成の会関係者

以上 140 名

- ・日時：平成 30 年 8 月 6 日 午前 10 時～11 時 30 分

場所：北海道 栗山町 栗の木ファーム

植樹数：100 本

参加者：栗山英樹監督（北海道日本ハムファイターズ）、地元ボランティア（栗山町ロータリークラブ）、栗山ロッキーズ、継立ロビンズ及びアオダモ資源育成の会関係者

以上 120 名

- ・日時：平成 30 年 10 月 13 日 午前 10 時～11 時 30 分

場所：北海道 新冠 国有林 2130 林班と小班



植樹数：500本（鹿対策との同時並行作業）

参加者：林野庁北海道森林管理局、北海道庁、地元ボランティア及びアオダモ資源育成の会関係者以上 100名

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きな関わりを持つことを以前から考え啓蒙し、実践してきた。植樹活動を推進している「NPO 法人アオダモ育成の会」も設立から16年を経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

（公社）日本武術太極拳連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として、良い環境の下でなければスポーツを楽しむことはできないことを認識し、スポーツと環境ポスターにもある『来たときよりもキレイに！』を目標として活動を行った。団体関係者、選手だけでなく、イベント来場者などにも呼びかけを行い、スポーツ活動を通じて、地域環境や各地の会場の保全に努めたい。

2. 平成30年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスターの掲載
- 日本連盟トレーニングセンターに環境啓発ポスターの掲示
- 大会時ゴミの持ち帰りのアナウンス

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
本連盟主催大会にて、選手受付、選手表彰場所に、環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。また、大会パンフレットに環境ポスターを掲載し、来場者への啓発活動も行った。
- ②その他のポスターの掲示
競技者や検定受験者など多くの来場者を迎える日本連盟トレーニングセンターにて、環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。
- ③大会時ゴミ持ち帰りのアナウンス
選手の活動が観客や会場の方の好意に支えられているという考えから、本連盟では大会時のゴミ持ち帰りを前提としている。毎大会でアナウンスを行い、ゴミの持ち帰りを呼び掛けている。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示、パンフレットの配布、大会時のアナウンスなどを通して、選手をはじめ多くの関係者に環境保全活動についての理解を得ることができた。今後も活動を継続するとともに、ポスター掲示場所の拡大やより実践的な活動にも取り組んでいきたい。競技者年齢6～80歳と多世代交流型スポーツである武術太極拳は、他のスポーツ以上に将来世代への責任を自覚し、活動していく必要があることを認識し、一人でも多くの方に環境保全の重要性について理解、共感してもらえるよう、啓発・実践活動に努めたい。



(公社) 日本カーリング協会

1. 実施概要

全国のカーリング専用ホールへ環境啓発ポスターの掲示を行うとともに、主要大会では環境啓発横断幕を掲出し、委員会メンバー・選手・運営スタッフが共同で環境保全活動に対する意識の向上を積極的に図ることを目指し活動した。

2. 平成 30 年度事業活動

- カーリング施設への環境啓発ポスター掲示
- 主要大会における大会参加者・スタッフによる環境保全活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日本カーリング協会主催の主要大会において環境啓発ポスター掲示を行った。
 - ・どうぎんカーリングスタジアム（北海道）
 - ・軽井沢アイスパーク（長野県）
 - ・カーリングホール御代田（長野県）
 - ・みちぎんどリームスタジアム（青森県）
 - ・アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
 - ・妹背牛町カーリングホール（北海道）
 - ・北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）等
- ②下記大会において環境横断幕を掲出し、大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収を徹底し、環境への意識の向上を図った。

【実施主催大会】

- ・第 27 回日本ジュニアカーリング選手権大会
平成 30 年 11 月 20 日～ 25 日 軽井沢アイスパーク
- ・第 9 回全日本大学カーリング選手権大会
平成 30 年 11 月 30 日～ 12 月 2 日 妹背牛カーリングホール
- ・第 36 回日本カーリング選手権大会
平成 31 年 2 月 10 日～ 17 日 どうぎんカーリングスタジアム
- ・第 16 回日本シニアカーリング選手権大会
平成 31 年 3 月 7 日～ 10 日 みちぎんどリームスタジアム
- ・第 12 回日本ミックスダブルスカーリング選手権
平成 31 年 3 月 12 日～ 17 日 軽井沢アイスパーク

- ③加盟都道府県協会を通じて、カーリング活動施設における喫煙場所移動のお願いの文書を送った。

4. 全体的な成果と今後の課題

新たなメンバーで委員会を構成し、できることからということで横断幕を掲出するなどの具体的な活動から始めたが、環境への意識は地道に浸透してきていると思う。今後は、大会パンフレット等紙ベースの削減を呼びかけるなど、具体的な活動を増やして、さらに環境啓発をしていく必要があると考えている。



(公社) 日本トライアスロン連合

1. 実施概要

トライアスロン愛好者が競技環境を保全することで、スポーツを通じた持続的な地球環境の保護につながることを認識を持つことを目的とする。

①「グリーントライアスロン (Green Triathlon)」(※1) をスローガンとする環境保全活動の実施

②カーボンオフセットの取り組みの拡大 (横浜シーサイド大会から世界シリーズ横浜大会へ)

※1「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合 (ITU) と日本トライアスロン連合 (JFU) が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース (減らす)、②リユース (再利用)、③リサイクル (再資源化) の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

③アジアオリンピック評議会 (OCA) 「スポーツと環境賞」を初受賞

④港区・お台場海浜公園の環境保全

2. 平成30年度における主な事業活動

●グリーントライアスロン (Green Triathlon) in 横浜 [平成30年4月14日 (土) 山下公園]

●カーボンオフセットの取り組み [平成30年5月12日・13日 山下公園特設トライアスロン会場、平成30年9月30日 横浜・八景島シーパラダイス]

●アジアオリンピック評議会 (OCA) 「スポーツと環境賞」 [平成30年8月19日 インドネシア]

●お台場海浜公園の環境保全

東京ベイクリーンアップ大作戦 [平成30年6月・9月・11月計3回 お台場海浜公園]

お台場プラージュ [平成30年7月～8月 お台場海浜公園]

3. 具体的な活動とその成果

①グリーントライアスロン (Green Triathlon) in 横浜

大会開催1ヶ月前大会会場となる山下公園にて、スタッフ、協賛社、一般来場者の協力のもと環境保全活動を実施。主な活動内容は、スイムコースの山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳など。

②横浜大会におけるカーボンオフセットの取り組み

世界トライアスロンシリーズ横浜大会および横浜シーサイドトライアスロン大会にて、横浜市との協働による地球温暖化対策「横浜ブルーカーボン事業」を実施。大会参加選手からの環境協力金を活用し、横浜市漁業協同組合のご協力のもと、参加者のレースの完走を願って「完走 (乾燥) わかめ」を配布し、0.4t-CO2 分削減。本事業による寄附金は、CO2 削減を目的にわかめの地産地消や水質浄化、海の環境改善支援等に充当される。

③お台場海浜公園の環境保全

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、港区・お台場がトライアスロンの競技会場になることから、トライアスロン競技を通じた連携協力に関する基本協定を港区、港区体育協会、東京都トライアスロン連合、港区トライアスロン連合と締結。競技の普及をはじめ、会場のお台場海浜公園の保全活動の推進を行った。東京ベイクリーンアップ大作戦では「東京港を泳げる海に！」をスローガンに年3回 (毎年6月・9月・11月予定)、地球環境の保全と泳げる海をめざして、お台場海浜公園でクリーンアップキャンペーンを実施。また、「泳げる海、お台場」の気運醸成を



図るため海水浴イベント「お台場プラージュ」でも加盟団体を通じ協力を実施。周知・広報に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

アジアオリンピック評議会（OCA/Olympic Council of Asia）が新たに創設した「スポーツと環境賞」において、「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の環境活動の取り組みが評価され「スポーツと環境賞」受賞。これは2011年から開始したグリーントライアスロンをはじめとする、横浜でのトライアスロン事業を中心とした環境活動の継続的な取り組みが世界に認められ、大きな成果となった。

また、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場であるお台場海浜公園の環境保全活動においても、東京都、大会組織委員会、港区等とも連携を行い環境保全と周知活動を行った。

トライアスロン競技は自然界を競技会場とし、スイム会場・トランジションエリア、観戦スタンド、フィニッシュガントレーなどビーチ、公園等に競技会場が設営される。JOC環境のスローガン「来たときよりキレイに」にもあるように、自然を会場として利用する競技としての意識を各大会に強く周知させることが必要である。今後は今年度実施した海底清掃や周辺の清掃活動を全国すべての大会会場で実施できるよう推進を進める。

（公財）日本ゴルフ協会

1. 実施概要

選手、関係者に対し、物の無駄を削減する意識を醸成するために、リユース、リデュース、リサイクルに関する啓発活動を行う。

2. 平成30年度事業活動

●大会会場における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会場における環境ポスターの掲出及び大会プログラムへの環境ポスターの印刷を実施し、選手、関係者、ギャラリーへの環境に対する意識醸成を図った。
- ②トーナメント会場におけるごみの分別とリサイクル食器の利用を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲出、大会プログラムへの印刷により、多くの人が関心を持ち、成果があった。
- ・今後も引き続き機会あるごとに意識醸成に努めていくこととしたい。

（公社）日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年も、昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構え「来たときよりもキレイに！」実践など、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるように取り組んだ。また、全国の地区支部への浸透を深めるために会議等でも説明を行った。



2. 平成30年度事業活動

- 大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- 大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチをいれる
- 協会公式サイトで啓発
- 平成31年度に向け、さらに地球温暖化防止とスポーツの取り組みとして、大会プログラムへ環境ポスターを掲示する予定で準備中

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会開催時の実施状況

当協会主催の大会や支部大会で JOC 啓発ポスターを会場に掲示。
全日本ジュニアスカッシュ選手権大会のパンフレットにも掲載した。
協会公式機関誌に環境ポスターを掲載した。
協会及び支部大会をはじめ草大会にいたるまでゴミの分別を実施している。

4. 全体的な成果と今後の課題

引き続き JOC の啓発ポスターで環境に配慮した活動をアピールする。また、改めてスポーツ団体として環境問題に取り組む必要性を全体会議で啓蒙し、実践していく。

(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 平成30年度事業活動

- 事業局での書類を削減
- 競技会等における環境美化活動
- 大会プログラム・デジタルサイネージに啓発資料の掲載
- 大会・講習会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①事業局での書類を削減

選手、審査員、指導員等の登録管理データベース化により書類を削減。

②競技会等における環境美化活動

年間約50回開催される大会会場でゴミ箱撤去、或いは分別化。

③大会プログラム・デジタルサイネージに啓発資料の掲出

環境ポスターを掲出。

④大会・講習会会場での環境啓発活動

環境標語横断幕（バナー）、ポスター掲示等による環境啓発活動。



4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載などの啓発活動を継続することで、役員、選手、観客等への環境活動意識が浸透してきている。

「来たときよりもキレイに！」をスローガンに役員が一丸となり、環境問題に積極的に取り組む。

(一社) 全日本テコンドー協会

1. 実施概要

全日本テコンドー協会において環境委員会が設置された。スポーツ団体の環境に対する意識と、取り組める活動を都道府県団体ならびに会員に啓蒙を図るため、全国規模の競技大会にて行った。

2. 平成 30 年度事業活動

- 競技大会時のポスター、パンフ掲示
- 競技大会時の環境への取り組みの呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技大会時のポスター、パンフ掲示

全国規模の大会時に「来たときよりもキレイに！」のポスターを掲示。パンフレットの表 4 にも表示し、啓蒙活動を行った。

主催競技大会の開会式のなかで、主催者挨拶にスポーツ団体としてできる環境対応を盛り込み、会場のゴミの分別や持ち帰り、会場周辺の美化とマナーを呼びかけた。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示やパンフへの環境啓蒙ポスターのプリントを行い、大会の開会式での環境活動の呼びかけ、啓蒙活動を行ってきた。特に開会式の中で主催者挨拶は式次第で一番最初の挨拶であり、環境啓蒙としてのインパクトは充分効果のあるものと思われる。

実際の会場では撤収時のゴミの量も着実に減少しており、啓蒙活動の成果が出ていると判断できる。今後はこれを継続するとともに、各地方大会やオープン大会にも発展させていきたい。

(公社) 日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2018 年 1 月から 12 月までに当連盟（JDSF）が公認して開催されたダンススポーツ競技会は 315 回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕やポスターを掲示したほか、指導員研修会において、スポーツと環境活動の関連および重要性について訴えた。

2. 平成 30 年度事業活動

- JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出



- JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動
- 指導員研修会における環境活動の啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕等の掲示

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪、大分で開催されたダンススポーツグランプリ及び愛媛で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会、ジュニアダンススポーツカップのほか、当連盟主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性和運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

③各部会・委員会開催時資料コピーの縮減

各部、委員会が月 1 回程度開催する会議資料のコピー量ができるだけ少なくなるよう、コピー方法やコピー枚数を縮減するよう協力を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上はかなり定着してきた。2020 東京オリンピックを控え、引き続き、JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。全国地で開催する指導員研修会においてもさらに啓発していきたい。

また、業務執行理事会議案書のペーパーレス化を参考にしながら、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

(一社) 日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等における環境分別と清掃活動
- 照明、空調を主とした節電
- 練習施設内排水管掃除の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①事務所および大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

事務所や本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動と清掃活動



東日本選手権大会・日本選手権大会・西日本選手権大会・宮様スキー国際競技大会バイアスロン競技等の競技会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。さらに、札幌市等の自治体の行ったイベントを通じて、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。また、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市で開催したミニバイアスロン競技大会及び小・中学生を対象としたバイアスロン体験講習会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツの関わりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を行った。

③照明、空調を主とした節電

事務所や大会運営室の電気・空調を細目に調整することで、節電に努めた。

④練習施設内排水管掃除の実施

西岡バイアスロン競技場の排水管を清掃することで、汚水の削減に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手を初め多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きな関わりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえよう、これからも積極的に環境保全に努めていきたい。

(一社) 日本サーフィン連盟

1. 実施概要

各支部が中心となり「NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT2018」を開催し、ゴミのないビーチ、ゴミを捨てないビーチを働きかけ、全国一斉ビーチクリーンを開催している。

次の時代を担う、これから生まれてくる子供達にも思いっきりサーフィンを楽しんでもらうために「サーファーはこの海を守る！キレイな海は私達が守る！」、そうした気持ちを込めて活動をしている。

2. 平成30年度事業活動

●ビーチクリーン

平成30年9月2日(日)、9日(日)に全国一斉ビーチクリーンを実施。

●広報活動

- ・日本サーフィン連盟オフィシャルHPに活動実績報告掲載
- ・全国のサーフショップへフライヤー、ポスター配布

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催：一般社団法人日本サーフィン連盟

協力：日本サーフィン連盟 70支部

実施場所：全国サーフポイント 120ヶ所

参加人数：約6,000名

平成30年、12回目(12年連続)で行い、サーファーだけではなく、地域の方々にも賛同・参加いただき、環境保全の大切さを呼びかけ清掃活動を行った。



4. 全体的な成果と今後の課題

全国一斉ビーチクリーンは平成30年で12回目を迎え、協力してくれる方々も増えてきた。

現在6,000名までビーチクリーン参加者を増やしてきた。多くの方々、企業、行政と手を組み、10,000名の参加者を目指し、サーファーだけでなくすべての人に海の清掃を日ごろから心がけてもらえるように努めていきたい。

(一社) 日本ローラースポーツ連盟

1. 実施概要

スポーツ団体としての環境活動の重要性を認識し、大会開催時に活動した。

2. 平成30年度事業活動

- 大会開催時にポスター・バナーの掲示
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

分別ゴミの徹底を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技者が低年齢化しているため啓発活動を理解してもらえない。これからは意識を持って活動していけるよう指導をしていきたい。オリンピックに向け環境保全に努めていく。

(一社) 日本カバディ協会

1. 実施概要

一般社団日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、スポーツ団体が取り組める環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。これからは、団体だけの活動に止まらず、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

2. 平成30年度事業活動

- 国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、チャレンジカップ、学生大会、他）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 競技会等における環境活動
- 事務局における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、チャレンジカップ、他）、後援した大会（西日本大会、学生大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行い、啓発活動



を行った。

②環境実践活動

競技会・イベントでは、ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項記載した。また、式典でのアナウンスを併せて行い、環境保全・啓発活動の重要性を訴えた。

また日常業務で、ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にごみの分別を行う選手が多く見られた。今後は、より実践的な活動を行い、スポーツと環境について理解を深めていきたい。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。今後環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

(一社) 日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本代表選手や協会主催の国内大会を通じて、環境保全のメッセージを伝え、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。

2. 平成30年度事業活動

- 協会主催の大会会場にて環境啓発ポスターの掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境保全

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会会場への環境啓発ポスター掲示

本会主催大会において環境啓発ポスターの掲示を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

選手及び来場者へのごみの削減、分別、持ち帰り等の環境保護の呼びかけを、開会式や館内放送を使い行っている。

③事務所における環境保全

ペーパーレス化の推進で、紙の無駄遣い等をなくしてごみの削減、クールビズ等で冷暖房などのエネルギー（電気等）節約など環境保全に努めた。

大会会場でのゴミ処理は多くの施設で有料ということもあり、ゴミを協会を持ち帰っているが、全体のゴミの処理量が減っていること、また分別がキチンとされているのでゴミ処理がしやすいこと



を成果として感じる。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスター等の啓発活動により、選手や関係者の理解を得ることができている。また、大会会場ではゴミの持ち帰りや分別が図られるようになって来ている。今後は地方大会での啓発活動を含め、全国規模でより一層の環境啓発および環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本アメリカンフットボール協会

1. 実施概要

選手自らがスタジアムの所在する地域環境活動に貢献することで、スポーツ団体、大学スポーツとの、より親密なコミュニケーションを図ることを目的とした。

『街をキレイに!』をスローガンに地域美化推進活動を実施した。

2. 平成30年度事業活動

●「全日本大学選手権 三菱電機杯 第73回 甲子園ボウル」当日に周辺駅の清掃活動を実施した。

3. 活動内容

- (1) 活動名称 『三菱電機杯 第73回毎日甲子園ボウル』
「地域美化推進活動“Clean Up Action”」
- (2) 実施日時 平成30年12月16日(日)
午前8:00～午前11:30
- (3) 実施場所 選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8駅
・ 阪急西宮駅北口
・ 阪神西宮駅甲子園口
・ JR西宮駅甲子園口 等
- (4) 参加者 関西学生アメリカンフットボール連盟所属
加盟51大学全ての学生、約2,000名
- (5) 活動主管 関西学生アメリカンフットボール連盟
- (6) 企画運営協力 特定非営利活動法人 コミュニティー事業支援ネット
- (7) 活動内容 駅周辺道路のゴミ拾いを含めた、清掃活動

4. 成果及び今後の課題

平成21年より、甲子園ボウルの開催に合わせて、選手自ら自分達がプレーするスタジアム近隣の地域美化活動をすることで、地域とより密接なコミュニケーションを図り、アメリカンフットボールを応援し、更には観戦に来てくれるファンの増加を目指し取り組んできた。10年目に入り、ゴミ拾いをする多くの学生達の挨拶の声なども影響し、このボランティア活動はある程度認知度も高まり、甲子園ボウルが始まる風物詩的な行事になりつつある。また、この活動が影響し近隣住民の方も甲子園ボウルに興味を持ち、観戦しに来る方も増えてきた。同時に、ボランティアに参加する学生にも、ボランティアとは自己の自発的な行為から始まることを自覚させることで、周りの方のことを考えて行動できる客観性を身につけることができたと考えている。今後は、さらにこの活動を充実させ、



甲子園ボウルだけでなく、アメリカンフットボールという競技に多くの方が興味を持ち、フェアな姿勢で相手を尊敬し戦うアメリカンフットボールという競技自体の認知度を更に向上させたい。

(公社) 日本チアリーディング協会

1. 実施概要

公益社団法人日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進している。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスター及びバナー掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを印刷・配布
- 分別回収とゴミ持ち帰り運動の促進（大会時におけるアナウンス）
- 省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
 - ・主催大会の会場において環境啓発ポスター及びバナー(この星にスポーツを)を掲示したことにより、多くの観客に啓発を図ることができた。
- ②大会プログラムに環境啓発ポスターを印刷・配布
 - ・会主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
 - ・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。
 - ・大会のアナウンスにおいて、「来たときよりもキレイに！」を呼びかけた。
- ④省エネ・省資源活動の実施
 - ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した。
 - ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
 - ・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを大会プログラムに印刷・配布するとともに大会会場内に数多く掲示し、啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ大会関係者、入場者に環境啓発の理解を得ることができ、スポーツと環境問題に対する認識の向上が図れた。また、協会事務所内に環境啓発ポスターを掲示したことにより、職員及び来訪者に対し、環境問題の重要性に対する認識を深めることができた。

今後も、競技者を初め関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、他団体の取り組みも参考にしながら、計画的な活動を積極的に実践し、環境保全に努めていきたい。



(公社) 日本オリエンテーリング協会

1. 実施概要

平成30年6月17日(日)に、岐阜県中津川市において、第44回全日本オリエンテーリング大会を実施し、プログラムに環境ポスターを挿入。また、会場となった中津川市「椴の湖オートキャンプ場」にポスターを掲示した。

平成30年11月4日(日)に、福井県あわら市において、第27回全日本リレーオリエンテーリング大会を実施し、プログラムに環境ポスターを挿入。会場となったトリムパーク内にポスターを掲示した。

オリエンテーリング行事において、ゴミ等を残すことは、次回大会の会場として改めて使用できなくなるため、大会終了後に使用エリア内を役員が巡回して、ゴミや忘れ物等がないか確認している。両大会とも、「来たときよりも美しく」をモットーに活動している。

(公社) 日本パワーリフティング協会

1. 実施概要

世界的にも希な長寿国の本邦に於いて、選手寿命が14歳から90歳に及ぼうとするパワーリフティングをさらに普及させるため一般社会に紹介する場を積極的に持ち、数あるスポーツの中でも幅広い年齢層が活躍し、生涯楽しめるスポーツである旨をアピールする。

日本パラパワーリフティング連盟との連携を強化し、健常者・障がい者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。

大会会場として、公共体育館・公会堂等をお借りする 경우가多々あるが、競技中及び終了後の会場・施設の原状回復及び清掃・ゴミの持ち帰り等を徹底する。

2. 平成30年度事業活動

- 全日本・ジャパクラシック・ブロック・都道府県及び支部大会において、環境啓発ポスターを掲示した。
- 当該大会において、出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、上記大会会場で大会事務局から大会使用器具撤収時に原状回復を呼びかけ、大会関係者(開催者・出場者)全員が協力して原状を回復した。

3. 具体的な活動内容とその成果

国体公開競技への昇格に伴い、平成30年9月22、23日に第73回福井しあわせ元気国体パワーリフティング大会を開催し、大盛況であった。

- ①全日本パワーリフティング選手権大会、及びその他大会でのゴミ分別収集を徹底した。
- ②健常者・障がい者の交流大会を日本各地で数回実施し、互いの相互理解を深めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲示や清掃活動が多くの大会関係者に周知され、主催者側からポスターを要望していた



だけるようになったことは大きな成果である。

- ・2019年度世界ベンチプレス選手権大会実施のための準備作業の本格化。
- ・各都道府県大会の拡充。
- ・全日本規模の大会出場者のさらなる増加及びレベルアップ。
- ・施設提供者との良好な関係維持。
- ・日本パラパワーリフティング連盟と連携し、障がい者がスポーツを楽しめる環境を構築していく。

(公社) 日本ペタンク・ブール連盟

1. 実施概要

主な主催大会における美化活動、環境保全意識の啓蒙活動。

2. 平成30年度事業活動

●第23回ペタンクジャパンオープン

期日 5月3、4、5日

場所 岡山県倉敷市

参加人数 879名

●第33回日本ペタンク選手権大会

期日 10月13、14日

場所 長崎県諫早市

参加人数 384名

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①会場周辺の美化活動
- ②環境保全に関する意識啓蒙 他

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・環境保全に関しては、主催大会の実施において、キャプテン会議、全体集合時などに説明を行い、美化活動、啓蒙活動を行っている。しかしながら、啓発ポスターの掲示、配布までは行っておらず、充実した環境保全活動とまでは至っていない。
- ・今後、環境問題の取り組みの充実を図るため、専門部会の中で担当部会を明確にし、取り組んでいきたいと考えている。

良いツール等があれば活用いたしたく、ご指導をお願い致したい。



(一社) 日本フライングディスク協会

1. 実施概要

(一社) 日本フライングディスク協会は、平成 27 年度から、協会内に環境委員会を設置し、特に砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓蒙活動を実施中。

2. 平成 30 年度事業活動

- 大会参加者による会場及び会場周辺の清掃活動、ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨
- 使用済段ボール等を利用して、手作りフライングディスク工作
- 大会会場での環境教育、環境ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
- 協会事務局のペーパーレス化推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞（青森県フライングディスク協会）

青森県むつ市・下北地区にて、エコ・クラフト活動の一環で幼児から高齢者を対象に、フライングディスクを新聞紙、紙パック、ペットボトル等で作成し、オリジナルの遊び用具で楽しんでもらう活動を実施。

平成 30 年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において、『むつ・下北地区レクリエーション協会』として、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞。

②ゴミとして捨てられるダンボールを活用し、フライングディスクを制作

(大阪府フライングディスク協会)

廃品ダンボールを使用してダンボールフライングディスクを制作する講習会を開催。捨てられてしまうものを活かしてフライングディスクを制作することで、環境に良い影響を与えられることを親子で学ぶと共に、制作時には円を描いたり、円周の計算、オリジナルの絵を描くことも含め様々な学習もできた。

制作後は、親子で投げて遊ぶことで親子のコミュニケーションアップにも繋がった。

◆平成 30 年 7 月 21 日（参加者：親子合計 43 名）

◆平成 30 年 10 月 20 日（参加者：親子合計 53 名）

(和歌山県フライングディスク協会)

和歌山大学教育学部の学生にダンボールフライングディスクの作り方を指導。白浜町では、保護者の方々に作り方を指導。ゴミで捨てられるものを活かしてフライングディスクを制作し遊ぶことができることを教えることにより、環境負荷低減につながることを共有。

◆平成 30 年 6 月 29 日（参加者：合計 53 名）

◆平成 30 年 11 月 16 日（参加者：合計 56 名）

③渚の環境教育活動（和歌山県フライングディスク協会）

大会開催時、参加者全員で地引網を曳き、その場で獲れた魚を漁師が目の前で解体・堪能することで、特に参加した子どもたちに、豊かな自然が育む海産物が我々の口に入るまでの過程（の縮図）を学んでもらうことができた。

◆平成 30 年 7 月 14 日（参加者：合計 289 名中こども 69 名）

④ビーチクリーン活動



下記の大会等で大会開始前、大会後のビーチ及びビーチ周辺の清掃活動、ゴミの分別活動を実施

- ◆平成 30 年 5 月 12～13 日：神奈川県 ビーチアルティメットフレンドシップ湘南 2018 第 19 回 E B A S H I - C U P
- ◆平成 30 年 5 月 27 日：福岡県 シーサイドももち海浜公園 百道浜 福岡ビーチアルティメット大会
- ◆平成 30 年 7 月 14 日：和歌山県 片男波ビーチアルティメット 2018
- ◆平成 30 年 9 月 9 日：宮城県 サンオーレそではま 第 2 回南三陸ビーチアルティメット大会
- ◆平成 30 年 9 月 14～15 日：静岡県 2018 熱海ビーチアルティメット大会
- ◆平成 30 年 9 月 16 日：熊本県 御立岬海水浴場 第 5 回熊本ビーチアルティメット大会
- ◆平成 30 年 10 月 6～7 日：愛知県 2018 蒲郡ビーチアルティメット & ディスクフェスティバル In LAGUNA
- ◆平成 31 年 3 月 30～31 日：熊本県 御立岬海水浴場 第 6 回熊本ビーチアルティメット大会

4. 全体的な成果と今後の課題

砂浜を使用して競技を行うビーチアルティメット競技は、全国に普及しつつある。その際、ビーチクリーンを実施し、競技エリア及びその周辺の清掃活動を実施。環境保全意識の醸成に繋がっている。また、競技者の安全も確保できた。

リサイクル活動として使用済みの段ボール等を利用して手作りのフライングディスクを工作する活動を実施中。

また、主催大会の全参加者及び来場者に配布する大会パンフレットに環境ポスターを掲載することで、多くの競技者、来場者に周知している。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられる様、工夫して活動を推進していきたい。

(一社) 日本クリケット協会

1. 実施概要

日本クリケット協会では、スタッフをはじめ選手・ボランティアが環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え取り組みを図っている。

2. 平成 30 年度の事業活動

- 大会やイベント時に分別ゴミ箱の設置により来場客・選手等に分別を促した
- 選手によるゴミの分別・削減・清掃活動・グラウンドの見回り
- 事務所におけるペーパーレス、また紙の分別によるリサイクル
- 事務所での仕事環境の改善

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会やイベント時に分別ゴミ箱の設置により来場客・選手等に分別を促した
各大会、イベントにゴミ分別担当を決め、来場客に分別や持ち帰りを促した。
- ②選手によるゴミの分別・削減・清掃活動・グラウンドの見回り
ごみ箱設置時に英語でもゴミの種類を表記し分別・削減に協力依頼



- ③事務所におけるペーパーレス、また紙の分別によるリサイクル
スタッフでの会議等は各自ノートパソコンにて資料確認しプリントアウトせず、ペーパーレス化を図った。また、不要になった紙を分別し紙業へ持ち込みリサイクルを依頼。
- ④事務所での仕事環境の改善
各部屋での仕事場から一部屋集中にして冷暖房・電気の節電に心がけた。
各自がマイカップを利用している。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手・関係者の意識の向上が見られ、ゴミの分別等がきっちり行われた。今後も活動を継続し、スポーツを通じた環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟

1. 実施概要

2018年度は環境保全横断幕を初めて導入した。全日本地域対抗チーム選手権の競技会場で横断幕を使用し、より積極的に環境保全に関する啓蒙活動を行った。

2017年度に引き続き、環境啓発ポスターの掲示、ゴミの分別の実施、競技会場の清掃活動、ゴミを減らす試み、競技間参加者及び関係者へのアナウンス活動を実施した。首都圏を中心に環境保全に関する啓蒙活動を行い、競技会参加者や運営関係者の意識の向上を図った。

2. 平成30年度事業活動

- 環境保全横断幕の掲示
- 環境啓発ポスターの掲示
- 競技会の開始前に、競技会場でゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けへの協力などを参加者にアナウンスをお願いをした。
- 一部の競技会場に日頃利用している競技会参加者が集まり、清掃を行った。
- ペーパーの使用量を減らすよう連盟事務局は関係者に理解を求めた。

3. 具体的な活動実施内容とその効果

①環境保全横断幕の掲示

2018年7月28日、29日にグランドホテル浜松で開催された全日本地域対抗チーム選手権戦の競技会場の壇上に環境保全横断幕を掲示し、ゴミを減らすこと、清掃に協力することを競技会関係者に啓蒙した。

②環境啓発ポスターの掲示

日本最大の競技会場（四谷ブリッジセンター）の参加者受付を行う場所に環境啓発ポスターを掲示し、競技参加者および競技会関係者に啓発活動を行った。

③競技会開始前のアナウンス活動

競技会開始前に、運営審判（ディレクター）より競技運営への参加者協力の一環として、ゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けの負担軽減への理解を求めた。

一部の有名選手が後片付けに参加し啓蒙活動を行った。

④競技会場の清掃



一部の競技会場で参加者の募集を行い、日頃競技会場を利用している競技会参加者の有志が数十人集まり競技会場の清掃を行った。

⑤ペーパーレス化への取り組み

連盟事務局で、一部の会議資料を従来の郵送からデータ送付に変更するなど、会議事前配布資料や当日資料の印刷量の削減を行い、関係者の理解を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

コントラクトブリッジは、一般の観客のいない競技であり、競技会場の入場者は運営関係者を除いて全員が競技会参加者となっている。顔見知りの関係も多いため、環境保全活動の協力への呼びかけはしやすい面がある。2019年度も2020年に向けて、全国の競技会会場や団体、約8000人の会員へ積極的な働きかけをし、意識の向上と具体的な活動の習慣化を広げていきたい。



(2) スポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

西山雄二 部会員

1 日本初、アジア・オリンピック評議会「スポーツと環境賞」受賞

第18回アジア競技大会OCA総会(2018.8.19 インドネシア・ジャカルタ)で、アジア・オリンピック評議会がスポーツ分野における優れた環境活動を行う個人または団体を表彰する制度として新設した「OCA スポーツと環境賞」において、JOCから日本トライアスロン連合(JTU)及び「ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の取り組みである「グリーントライアスロン※」を推薦していただき、その環境活動の取り組みが評価され、受賞しました。



(左から)
大塚眞一郎 国際トライアスロン連合副会長 / 日本トライアスロン連合専務理事、
Sheikh Ahmad Al-Fahad AL-SABAH アジアオリンピック評議会会長、
西山雄二 横浜市市民局スポーツ統括室長、Kyung-Sun YU アジアオリンピック評議会環境部会長



受賞トロフィー

※グリーントライアスロンとは「自然環境にやさしいトライアスロン大会」を目指して、市民や環境団体と共に大会のメイン会場である山下公園前面海域の海底清掃の実施、海中映像実況中継や貝による水質浄化デモンストレーションなど、トライアスロンを通じて環境に配慮した取り組みをより多くの方へ発信し、地球環境への意識を高めることを目的として継続的に開催しています。

海上実施風景



水難救助訓練「横浜市消防局」



水難救助訓練「横浜水上警察署」



海底清掃「海をつくる会」



大学生による試泳



踊り場清掃



海中映像中継「環境創造局・JFE スチール」



山下公園内ブース



公園清掃「東海大学」



横浜市消防局



タッチプール「海をつくる会」



パラトライアスロン PR「横浜ラポール」



海上保安協会



横浜市環境創造局

2 水源林間伐材の有効利用

横浜市の貴重な水源の一つである山梨県道志村の水源林の保全に寄与する取り組みを行いました。「自然環境にやさしいトライアスロン大会」を目指して、入賞者等への記念品として、道志水源林間伐材を有効活用した、ヒノキ香る木目が一つひとつ異なる「世界にひとつだけの木製オリジナルメダル」などの作製・配布を通じて、水源林の保全の重要性および自然環境の保全の大切さを発信しています。



第8回横浜シーサイドトライアスロン大会の表彰メダル



2018ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会のスポンサー贈呈用の記念盾

横浜市には水源が無い為、他県の山林を購入し、貴重な水源を得ることで、横浜市民に安定して水を送り届けています。植栽後の手入れが不十分であると水源林の保水能力が低下するため、間伐を行うことで木の成長が促進され、二酸化炭素を吸収し、地球温暖化防止に繋がっています。

3 SDG s 未来都市「横浜」を目指して

これまでの水質環境の改善に向けた取り組みや、自然環境にやさしい大会運営における実績から、「トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜」が10年の歳月をかけ、定着しました。

今後も、多くの市民・企業等と協力して、環境などの持続可能な開発目標（SDG s）への意識を高める取り組みを進めてまいります。



松岡 修造 部会員

日本テニス協会における啓発活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2018年6月19日(火) ～6月22日(金)	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された、14歳以下の男子ジュニア選手16名	クラブヴェルデ(山梨県)
2018年9月25日(火) ～9月28日(金)	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された17歳以下の男子ジュニア選手18名	荏原湘南スポーツセンター(神奈川県)
2019年3月5日(火) ～3月8日(金)	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素ナショナルトレーニングセンター





(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

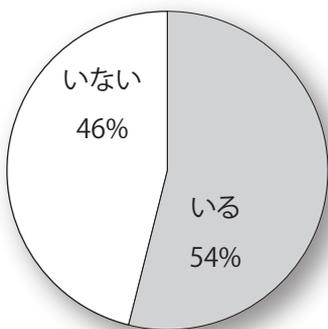
平成30年度JOC加盟団体66団体（準加盟団体、承認団体を含む）を対象に、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。本アンケートは、環境活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立っている。

その半数を超える団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。

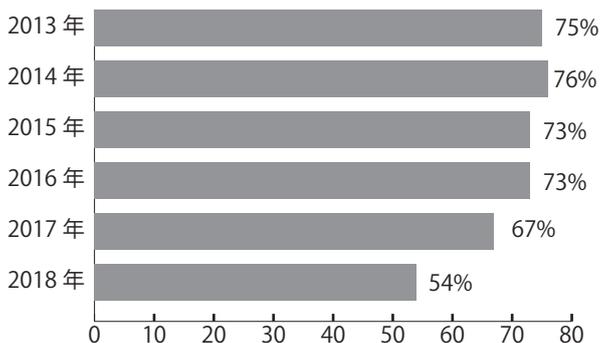
●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

(n=66)



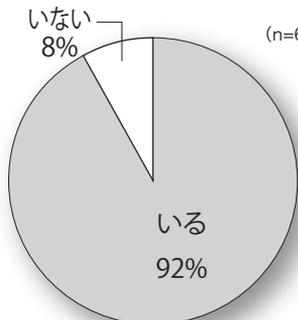
スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか



●日常活動の取組みについて

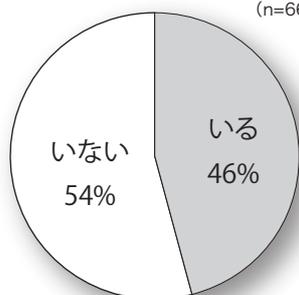
①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか

(n=66)



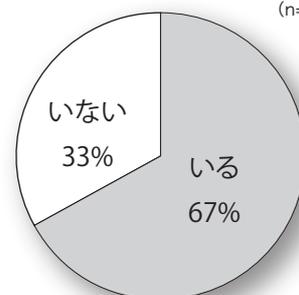
②機関誌等に環境保全に関する内容（環境ポスター等）を掲載していますか

(n=66)



③選手等に環境保全への啓発を依頼していますか

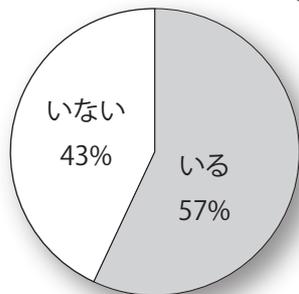
(n=66)





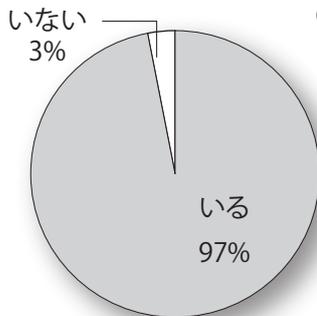
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか

(n=63)



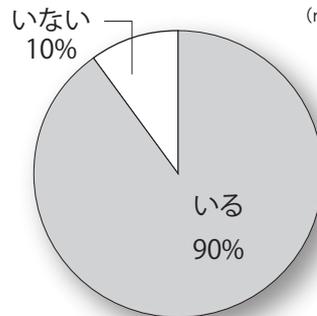
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか

(n=63)



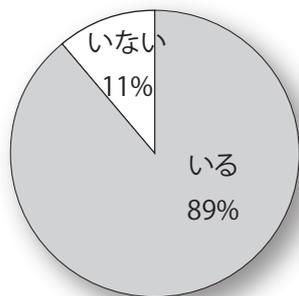
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか

(n=63)



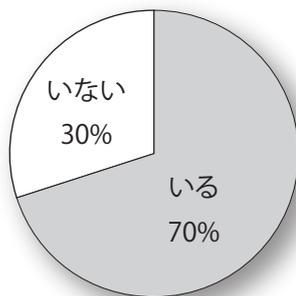
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか

(n=63)



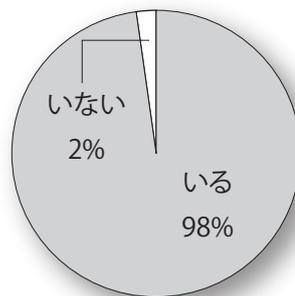
⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

(n=63)



⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか

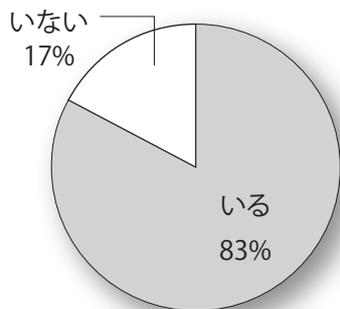
(n=63)



●主催イベント(大会等)の取組みについて

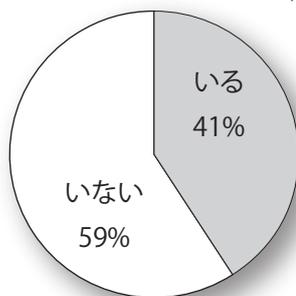
①イベント会場に環境ポスター・環境横断幕を掲示していますか

(n=63)



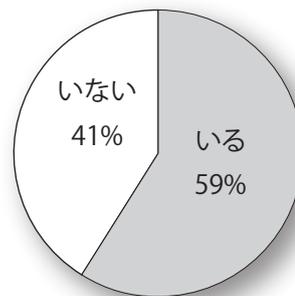
②イベント会場で環境保全に関する展示等をしていますか

(n=63)



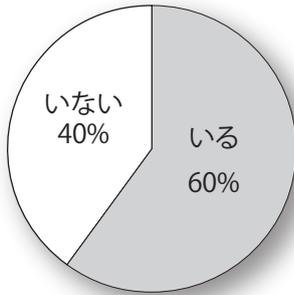
③参加者へのアナウンスの中で環境保全への協力を呼びかけていますか

(n=63)

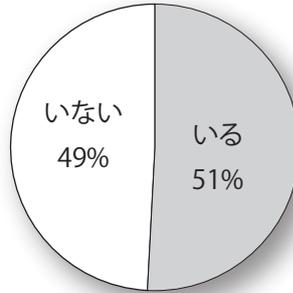




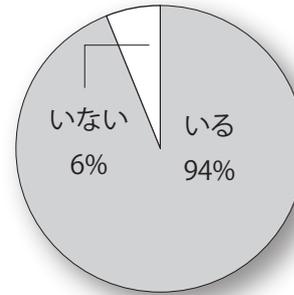
④競技役員等に対し環境保全の重要性を認識してもらう取組みを行っていますか
(n=63)



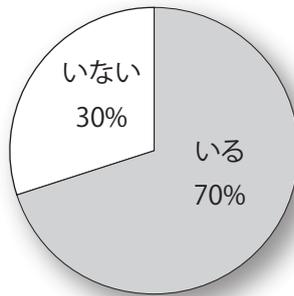
⑤主催大会のパンフレットに「環境ポスター」を掲載していますか
(n=63)



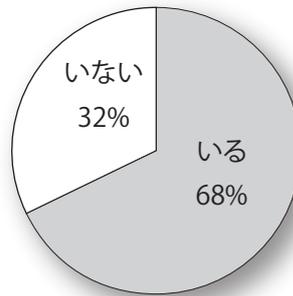
⑥イベント会場において、ゴミの分別を行っていますか
(n=63)



⑦競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮を何かしていますか
(n=63)



⑧JOCスポーツ環境専門部会「活動報告書」を活用していますか
(n=63)





(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

【スポーツと環境について 競技会挨拶原稿（1 分間）】

ご挨拶の中に1分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京2020大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、まずは環境に対して興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。





スポーツと環境について レクチャー原稿（10 分間）

各 NF の環境担当者が NF 所属の指導者・アスリート向けに行うことを想定して開発したレクチャー原稿です。監督会議・アスリート向けの講習会等の場面で活用をお願いいたします。なお、下記のパワーポイントのデータは、JOC オリンピック・ムーブメント推進部より提供いたします。

指導者を通じたアスリートへの啓発

【シンプル編】 10分

スポーツと環境

- スポーツの心、環境と未来へ -

(公財) 日本オリンピック委員会
(公財) 日本○○○○協会

私たち○○協会は、スポーツが楽しめる環境を、50 年後、100 年後の子供たちに残すために、スポーツを通じた環境活動に取り組んでいます。

これから行うレクチャーでは、スポーツ界における環境啓発活動の「基礎知識」として、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、の3つのテーマについてお話します。

「スポーツと環境」の関係

クイズ: 2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、
2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)は今よりもおおよそ何日位増えるでしょうか?

① 13日 ② 33日 ③ 57日



まずはじめのテーマは、「スポーツと環境の関係」です。皆さんもご存知のとおり、地球温暖化がそのまま進むと、スポーツにも大きな影響がでるといわれています。さて、ここで2100年の未来の天気について考えてみましょう。

現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3-5月(春)・6-8月(夏)・9-11月(秋)の期間、東京の真夏日、気温が30.0度以上の日は、今よりも何日位増えるでしょうか？次の3つの中から、正解だと思うものに手を上げて下さい。おおよそ①13日増えると思う人、②33日増えると思う人、③57日増えると思う人。

正解は、57日(正確には56.8日)です。このクイズは、環境省・気象庁から発表された「21世紀末における日本の気候」という資料からの出題ですが、2100年という遠い未来のことのように、考えてみると私たちのひ孫たちが大人になる時代。真夏日が今より約2カ月も増える未来、ひ孫たちがスポーツをする環境を想像してみてください。

【参考】21世紀末における日本の気象予測結果 P9 真夏日日数の季節別変化

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph_tekiou/2015/

政策的な温室効果ガスの緩和削減を前提として予測されたシナリオ。厳しい温暖化対策を取らなかった場合2.6～4.8℃(平均3.7℃)で③の56.8日。一方、厳しい対策を取った場合、0.3～1.7℃(平均1.0℃)で①の13.1日。

「スポーツと環境」の関係

スポーツが環境から影響を受けること

- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれる。

スポーツが環境に影響を与えること

- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけている。

「スポーツと環境」の関係を考える際には、相対する2つの側面を考える事が重要です。

まず1つは、いまのクイズに出題したように「スポーツが環境から影響を受けること」、例えると被害者側のようなことです。

環境問題の影響でスポーツの環境が整わなくなり、スポーツを楽しむための要素が縮小されてしまうという点です。代表的なものとしては、雪の減少による冬のスポーツへの影響が挙げられます。また、冬のスポーツや屋外スポーツへの影響ばかりが注目されますが、地球温暖化による気候変動の影響で台風の増加、ゲリラ豪雨などが多発するとスポーツどころではなくなってしまいます。さらに、熱中症や水不足の問題など、どれをとってもスポーツ活動に大きな影響を及ぼす問題です。

そしてもう1つは「スポーツが環境に影響を与えること」、例えると加害者側のようなことです。

過去において、スポーツ施設を建設するため、山を切り開き、海を埋め立てるなどの自然破壊をして



きた、また、現在では、大規模なスポーツ大会において、大量のエネルギーや廃棄物を生み出し環境に大きな負荷をかけているという点です。

このように、スポーツと環境の関係を考える際には、「スポーツが環境から影響を受けている」側面だけでなく、「スポーツが環境に影響を与えている」という事実を認識することが重要になります。

次のテーマは、「スポーツを通じた環境問題の取組み」です。

スポーツを通じた環境問題の取組み

① スポーツの会場における環境活動



写真は平成27年度 JOCスポーツ環境専門部会活動報告書より出典

スポーツを通じた環境問題の取組み

② スポーツを通じた環境啓発活動



写真は平成27年度 JOCスポーツ環境専門部会活動報告書より出典

スポーツを通じた環境問題の取組みには、大きく分けて「①スポーツの会場における環境活動」と「②スポーツを通じた環境啓発活動」の2つの取組みがあります。

まずひとつめの取組みは、「スポーツの会場における環境活動」です。

オリンピック競技大会に象徴されるように、スポーツイベントの巨大化に伴い、イベント自体が及ぼす自然環境への影響は無視できなくなってきました。そのため、自然保護や環境保全に向けた取組み



はもはやスポーツ界も例外ではなく、イベントを主催する競技団体として、環境問題に対して最大限の取組みが求められるようになりました。

具体的な「スポーツの会場における環境活動」の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。また、環境貢献活動として、日本テニス協会が行っている中古ボールやラケット等のリユース活動、全日本野球協会が行っている植樹活動、また、日本トリアスロン連合が行っている競技場周辺の清掃活動などがあります。

そして、もうひとつの取組みは、「スポーツを通じた環境啓発活動」です。

スポーツ関係者の役割

①スポーツ団体（組織）としての役割

競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。

②スポーツ指導者・アスリートとしての役割

社会的影響力を使って、環境の大切さを伝える。

スポーツ愛好家と呼ばれる人々は世界中に数十億人とおり、社会的影響力を持っています。スポーツ愛好者が周囲の人たちに環境保全の必要性を伝えて行くことは大きな効果を生むことであり、それがスポーツの力で環境保全を推進することになるのです。

具体的な「スポーツを通じた環境問題の啓発」の事例としては、指導者講習会等での「環境とスポーツ」についてのレクチャーがあります。

また、競技大会のパンフレットへの環境ポスターデザインの掲載、競技会場での横断幕の掲示、日本セーリング連盟が行っている不用になったヨットのセールを利用したワークショップを通じた啓発活動などもあります。

スポーツを通じた環境問題の取組みには、この他にも、各NFで色々な活動が工夫されて行われています。毎年発行されるJOCスポーツ環境専門部会活動報告書には、各NFの活動が詳しく報告されていますので、ぜひ参考にして下さい。

さて、最後のテーマは、「スポーツ関係者の役割」です。

スポーツ関係者の役割のひとつは、「スポーツ団体としての役割」つまり、組織レベルの役割です。

具体的な役割は、日常の協会運営（会議事にタブレットを使用してペーパーレス化やオフィスの省エネなど）や主催する競技大会、スポーツイベントにおいて環境負荷を低減させることです。競技会場ではゴミの分別や自宅から競技会場までの移動に公共交通機関を使うように促すなど、観客に協力してもらう活動も必要でしょう。

また、指導者研修会や競技会の監督会議の機会に、関係者に対して「スポーツと環境」の意識啓発を行ったり、指導現場での啓発活動への協力依頼を実施することは、スポーツ団体（組織）のとても重要な役割のひとつになります。



そして、もうひとつの役割は、「スポーツ指導者・選手としての役割」つまり個人レベルの役割です。特に社会的影響力がある指導者、アスリートは自らが手本となり周囲の人たちに環境メッセージを発信し、環境の大切さを伝えることが重要です。具体的な実践活動としては、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、身近な生活のなかで、未来のために、今選択できるアクションを選ぶこと、「賢い選択」が大切です。環境省が推進する COOL CHOICE のサイトも参考になります。

スポーツの心、環境と未来へ。

**スポーツが楽しめる環境を、50年後、
100年後の子供たちに残すために、
まずは環境に対して興味を持つこと、
そして自分のできる事から行動すること**

以上、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、この3つのテーマについて話してきましたが、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、今、私たちに問われているのは、スポーツの“持続可能性”の問題。なかでも、環境との関わり方の問題です。

スポーツと環境の関係を考える際に、「スポーツが環境から影響を受ける」こと、そして、「スポーツが環境に影響を与えること」、このふたつの側面を理解することが大切です。環境問題はグローバルですが、その解決の糸口はローカルです。未然に防げる行動を取ることが重要です。

「まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること」、この考え方を、指導者がアスリートに伝えること。そしてアスリートが家族や周囲の人に広めていく事が、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すことにつながるのだと思います。「スポーツの心、環境と未来へ。」これが未来に向けての我々のメッセージです。

(参考)「スポーツと環境」指導者研修会用原稿事例 (90分間)

指導者研修会としてレクチャーを実施をする場合の原稿の事例です。「スポーツと環境」についての研修を計画する場合は、JOC スポーツ環境専門部会にご相談下さい。



(参考)「スポーツと環境」指導者研修会用原稿事例 (90 分間)

指導者研修会としてレクチャーを実施をする場合の原稿の事例です。「スポーツと環境」についての研修を計画する場合は、JOC スポーツ環境専門部会にご相談下さい。

指導者を通じたアスリートへの啓発

参考資料

【発展編】

スポーツと環境

- スポーツの心、環境と未来へ -



(公財) 日本オリンピック委員会
(公財) 日本○○○○協会

「スポーツと環境」の関係

クイズ:2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、**2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)は今よりもおおよそ何日位増えるでしょうか?**

①13日 ②33日 ③57日

1. 題材の目標

現代社会では、スポーツは環境にさまざまな形で大きな影響を与えている。例えば、巨大になったオリンピックや国際的なスポーツ大会では、環境に大きな負荷を与える。また、スポーツ参加者の増大は、環境破壊や自然破壊を起こしたりするようになった。ここでは、個々人の環境への配慮とともに、持続可能な開発や環境保護の観点から十分に検討、配慮されることが求められていることを理解できるようにすることを目標として、次の内容を取り扱う。

2. ねらい

- ・スポーツが環境に与える影響を理解する
- ・スポーツが環境破壊による影響を受けることを理解する
- ・環境に配慮した行動に求められることを理解し、行動ができる

3. お願い

指導者→アスリートへ伝えましょう。さらにマナーアップの一環として子供達にも話しましょう。そして自身がロールモデルの役割として、関係者への環境アクションを促しましょう。

なぜ地球環境問題は解決しない?

各地で異常気象などが起こり、
環境問題が深刻化していることは知っていても...

- ① 未来のことなので切迫感がない...
- ② 省エネ・リサイクルが大切なのは知っているが...
- ③ 自動車の排気ガスが有害なのは分かるが...

環境問題は、公害や健康の問題と違って
自分の事として捉え難い!

Q. 環境問題を列記してみよう

- * 地球温暖化
- * 大気汚染
- * 海洋汚染
- * オゾン層の破壊
- * 酸性雨
- * 野生生物種の減少
- * 森林の減少
- * 地球規模の砂漠化...

地球環境問題に敏感なグループは?

スポーツ愛好家やアスリート

本来、アスリートやスポーツ愛好家こそ
地球環境問題には敏感であるはず。
なぜならば、**プレイする環境として
きれいな空気や水を求めるから。
すなわち地球環境の大切さを知っている!!**

地球環境の危機

1. 自然破壊：森林伐採、砂漠化 など
2. 環境汚染：大気、土壌、海洋汚染 など
3. 資源枯渇：水、食糧、エネルギー源 など

原因は、急激な人口増加とモノとエネルギーを
大量に消費する現代文明が地球の自然循環を乱したこと

空気がきれいだとスポーツが楽しい!

豊かな自然環境はスポーツにとって不可欠

↓

アスリートやスポーツ愛好家は、
自然環境をより自分の問題として捉えることができる

↓

スポーツを通じて、
持続可能な社会づくりが可能



スポーツと環境「2つの側面」

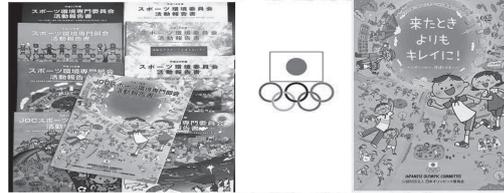
- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれてしまう？
- スポーツは「健康」にとってよいもの“だった”・・・
しかし、悪化した環境はスポーツ参加者の健康を害してしまふ。

スポーツが環境から影響を受けること

- スポーツ施設等の開発に伴う自然破壊
- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけているという点。

スポーツが環境に影響を与えること

JOC スポーツ環境専門部会の活動



1. 「スポーツと環境」ポスターの作成
2. JOCスポーツと環境・地域セミナーの開催
3. スポーツと環境担当者会議の実施
4. スポーツ環境専門部会活動報告書の出版

スポーツを通じた環境問題の取り組み

スポーツなどの人間活動は、基本的に
自然破壊や環境汚染をともなう。だから・・・

① スポーツの各現場における環境保全

- 1) スポーツ選手として 2) スポーツ団体のCSRとして 3) スポーツ業界のCSRとして
スポーツイベントの前 施設、商品メーカー

スポーツ愛好家は、「スポーツマンシップ」という
倫理観を持ち、社会的影響力も持っている。だから・・・

② スポーツを通じた環境問題の啓発

各競技団体の実践例は
「JOCスポーツ環境専門部会活動報告書を参照してください。」



スポーツ関係者の役割

健康な環境はスポーツにとって不可欠。
また、スポーツは地球環境を改善する際に
重要な役割を果たすことができる。
持続可能な社会づくりに向けてスポーツ関係者が
果たす役割は・・・

① スポーツ選手として・・・

技術的、商業的成功がもたらす社会的影響力を
使って、ファンの人たちに環境の大切さを伝える。

来たときよりもキレイに！

ディスカッションタイム

Q. 先ほどの映像の中のことが現実となったら、
スポーツ（あなたの競技種目）にどのような影響が
でると思いますか？

Q. あなたのスポーツでの環境活動は？

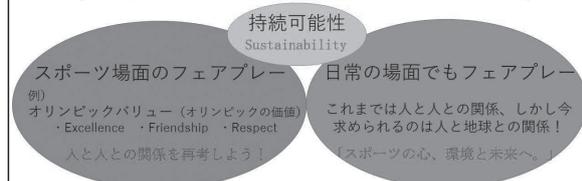
スポーツ関係者の役割

② スポーツ団体のCSRとして・・・
商業的成功だけでなく、スポーツの社会的価値を高めるためにも、
競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。

③ スポーツ業界のCSRとして・・・

スポーツ施設の建設と運営、スポーツ用品の製造と販売に
おける環境の保全・改善を徹底する。

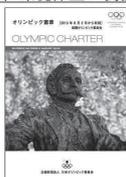
スポーツと環境の新たな関係



他人だけでなく、地球に対しても
責任ある社会人として行動しよう！

事例：国際オリンピック委員会の活動

自然の保全、環境保全の義務がある。それはスポーツ界も例外ではない。



1990年代当初、IOCサマランチ元会長が
「オリンピック・ムーブメントはスポーツ・文化に
加えて環境の三本柱とする。」と提唱

～IOCの使命と役割～

環境問題に関心をもち、啓発・実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界
において、特にオリンピック競技大会開催について持続可能な開発を促進すること。
(オリンピック憲章)

スポーツの心、環境と未来へ。

スポーツが楽しめる環境を、50年後、
100年後の子供たちに残すために、
まずは環境に対して興味を持つこと、
そして自分のできる事から行動すること



5

IOC持続可能性とレガシー委員会について

IOC Sustainability and Legacy Commission

■ IOC 持続可能性とレガシー委員会

IOC 持続可能性とレガシー委員会は 2015 年に発足（IOC 環境委員会を改組）。通常年 1 回、例年 11 月に開催されるが、2018 年分は 2019 年 1 月に開催され、IOC 側から取組状況の報告がされるとともに、IOC が指定したテーマに基づき委員によるグループディスカッションがなされた。

■ 2018 年の主な取組状況

取組 1 IOC 持続可能性報告書（IOC Sustainability Report）

「IOC 持続可能性戦略」（2016）に対する初めての報告書。2018 年 12 月に発表。



- ・「IOC 持続可能性戦略」に掲げられた 18 の目標についての取組状況について報告
- ・持続可能な開発目標（SDGs）の目標達成にも貢献。
- ・SDGs の目標 3（すべての人に健康と福祉を）、目標 4（質の高い教育をみんなに）、目標 5（ジェンダー平等を実現しよう）、目標 16（平和と公正を全ての人に）、目標 17（パートナーシップで目標を達成しよう）

取組 2 国連等との連携

- ・国連環境計画のクリーンシーズキャンペーンに参加（UN Clean Seas Campaign）（2018 年 6 月）海洋プラスチック対策
- ・国連機構変動枠組条約（UNFCCC）のスポーツにおける気候変動対策行動枠組（Sports for Climate Action Framework）への参加（2018 年 12 月）

取組 3 ガイドライン「持続可能性の基本」（Sustainability Essentials）

スポーツ団体向けに持続可能性を解説した基本ガイドラインシリーズ。2018 年はシリーズ最初の 2 冊を刊行。

- ・「持続可能性入門」（Introduction to Sustainability）
- ・「スポーツにおける気候変動対策行動」（Sports for Climate Action）

※取組 1～3 は IOC ウェブサイトにて公開（英語のみ）

■ グループディスカッション

2019 年 1 月に開催された委員会では、「IF や NOC などステークホルダー連携」や「アスリートアンバサダープログラム」また「広報戦略」などについて議論。



（写真）中央に IOC バッハ会長（前列右から 3 番目）と IOC 持続可能性とレガシー委員会議長アルベル 2 世（モナコ大公）（前列右から 4 番目）

（注）IOC 持続可能性とレガシー委員会においてはレガシーも議論の対象だが本稿では割愛した。

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局 持続可能性部長 荒田有紀



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた持続可能性の取り組み Initiatives for Sustainable Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局持続可能性部長 荒田有紀

東京2020組織委員会は、2018年6月に「東京2020大会持続可能性に配慮した運営計画（第二版）」を発表した。以下はその概要である。

東京2020大会の持続可能性コンセプト
Be better, together
より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動 脱炭素社会の実現に向けて
資源管理 資源を一切ムダにしない
大気・水・緑・生物多様性等 自然共生都市の実現
人権・労働、公正な事業慣行等への配慮 多様性の祝祭
参加・協働、情報発信 パートナシップによる大会づくり

脱炭素社会の実現に向けて
調達物品の99%のリユース・リサイクルを実現
公共交通機関の活用
日本の木材活用リレー みんなで作る選手村にレジャープラザ
既存会場の活用
再生可能エネルギーの電力を100%活用
雨水の循環利用・都市と自然の共生
持続可能性に配慮した調達コード
都市風土からつくる！みんなのデジタルプロジェクト
燃料電池自動車等の活用
Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

東京2020 持続可能性ウェブサイト: <https://tokyo2020.org/jp/games/sustainability/>

TOKYO 2020

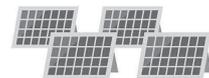
各主要テーマにおける主な取り組み

① 気候変動 : Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）

パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、可能な限りの省エネ・再エネへの転換を軸としたマネジメント（管理・運営）を実施することにより、世界に先駆けて脱炭素化の礎を全員参加で築く。

<主な取り組み>

- 既存会場の活用（競技会場全体の約6割）や、省エネルギー化等により会場整備における環境負荷を低減
- 競技会場、IBC（国際放送センター）／MPC（メインプレスセンター）、選手村で使用する電力について、再生可能エネルギー電力を100%使用
- 公共交通機関や燃料電池自動車の活用等により、環境負荷の少ない輸送を推進



TOKYO 2020

各主要テーマにおける主な取り組み

② 資源管理：Zero Wasting（資源を一切ムダにしない）

サプライチェーン（原材料等の調達から生産・流通までの一連のプロセス）全体で資源をムダなく活用し、資源採取による森林破壊・土地の荒廃等と、廃棄による環境負荷をゼロにすることを目指して、全員で取り組む。

<主な取り組み>

- 調達物品の99%を再使用（レンタル・リース含む）
・再生利用
- 「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」等により、再生可能資源の利用を促進
- 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を推進



TOKYO 2020

各主要テーマにおける主な取り組み

③ 大気・水・緑・生物多様性等 ：City within Nature/Nature within the City（自然共生都市の実現）

大会後のレガシーも見据え、大会の開催を通じて豊かな生態系ネットワークの回復・形成を図り、かつ快適さとレジリエンス（強靭性）を向上させる新たな都市のシステムの創出に寄与する。

<主な取り組み>

- 組織委員会、都、関係省庁等が連携した暑さ対策の実施
- 競技会場におけるろ過施設の導入や雨水・循環利用水の活用等による水資源の有効利用
- 既存樹木への配慮や在来種による競技会場の緑化等により、海上公園等周辺の緑との調和も図りながら生態系ネットワークを創出



TOKYO 2020



各主要テーマにおける主な取り組み



④ 人権・労働、公正な事業慣行等への配慮

: Celebrating Diversity ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~
(多様性の祝祭 ~誰もが主役の開かれた大会~)

大会に関わるすべての人々の人権を尊重するため、互いを理解し、多様性を尊重し、受け入れるダイバーシティ&インクルージョンを可能な限り最大限確保するとともに、人権への負の影響の防止又は軽減に努める。

さらに、腐敗行為や反競争的な取引等に関与しない公正な事業慣行が確保された大会を目指す。

<主な取り組み>

- 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則した人権の保護、尊重及び救済
- ダイバーシティ&インクルージョンの意識の浸透
- 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」による大会へのアクセス機会の確保



TOKYO 2020

各主要テーマにおける主な取り組み

⑤ 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

: United in Partnership & Equality ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~
(パートナーシップによる大会づくり ~誰もが主役の開かれた大会~)

国境や世代を超えた様々な主体との交流や研修等を通じた参加・協働の推進、及び社会全体で多様な主体が参画するダイバーシティ&インクルージョンとエンゲージメントが確保された社会の構築のため、誰もが主役の開かれた大会を多くの方々の参加・協働により創り上げていく。

<主な取り組み>

- 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を推進
- 「東京2020参画プログラム」をはじめ、市民参加型プロジェクト等による幅広い参加の創出
- 持続可能性に対する理解と行動促進に向けた先駆的取り組み等の発信



TOKYO 2020

組織委員会はこの計画を着実に実現していくために、以下も併せて取り組んでいく。

- 1 ISO20121（イベントサステナビリティ）に即したマネジメントを行う。
- 2 2019年春に進捗状況報告書、大会直前の2020年春、大会後の冬に報告書を作成。
- 3 物品・サービス及びライセンス商品を対象とする「持続可能性に配慮した調達コード」及びその不遵守に関する通報受付窓口を運用



7

関連資料

Reference

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

JOC Activities Person of Sport and Environment

JOCスポーツ環境専門部会
<i>JOC Sport and Environment Commission</i>

役職名	氏名	NF
		所属
部会長 Chairman	野 端 啓 夫 Hiroo NOBATA	(公財) 日本野球連盟 Baseball Federation of Japan
副部会長 Vice Chairman	北 野 貴 裕 Takahiro KITANO	(公財) 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
部会員 Member	上 田 藍 Ai UEDA	(公社) 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union
"	大 津 克 哉 Katsuya OTSU	(公財) 日本テニス協会 Japan Tennis Association
"	荻 原 健 司 Kenji OGIWARA	(公財) 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
"	風 間 明 Akira KAZAMA	(公財) 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
"	鎌 賀 秀 夫 Hideo KAMAGA	(公財) 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
"	小 柴 滋 Shigeru KOSHIBA	(公財) 日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
"	齋 藤 由 紀 Yuki SAITO	(公財) 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
"	荒 田 有 紀 Yuki ARATA	(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games
"	玉 利 聡 一 Toshikazu TAMARI	(公財) 日本サッカー協会 Japan Football Association
"	永 井 真 美 Mami NAGAI	(公財) 日本セーリング連盟 Japan Sailing Federation
"	西 山 雄 二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
"	松 岡 修 造 Shuzo MATSUOKA	I M G International Management Group LLC,
"	宮 下 純 一 Junichi MIYASHITA	(株) ホリプロ Horipro Inc.



本会加盟団体(スポーツ環境担当者)

National Federation

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	—	—	風間 明 中村 仁
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤 由紀	副委員長/— 委 員/岩崎 恭子、山口 善久、原田 由梨、 長谷川 雪恵、鈴木 康尊、後藤 福寿、久米 直子	小川 知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献委員会 委員長/日比野 克彦	副委員長/— 委員/赤羽 真紀子、黒田かをり、高橋 陽子、村松 邦子	玉利 聡一
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長/宮沢 賢一	副委員長/— 委 員/—	宮沢 賢一
(公財) 日本テニス協会	総務委員会 スポーツ環境担当 委員長/高橋 甫	副委員長/浅井 良樹 委 員/大津 克哉、千葉 輝夫	大石 英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/竹内 浩	副委員長/— 委 員/小澤 哲史 (アドバイザー)、 栗林 健太郎 (スタッフ)、赤津 杏奈 (スタッフ)、興梠 裕一 (スタッフ)、尾崎 英夫 (スタッフ)、堀 晃浩 (スタッ フ)、久保田 芳晴 (スタッフ)	野口 紀子
(公社) 日本ホッケー協会	—	—	織井 隆司
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/菊池 浩吉	副委員長/富岡 誠 委 員/—	富岡 誠
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/小柴 滋	—	灰西 克博
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤 幸一	—	八木沢 則子
(公財) 日本バスケットボール協会	—	—	平田 成美
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/濱野 勉	副委員長/阿部 鉄雄 委 員/榊 稔、高村 高夫、机 博文、本間 康彦、麻本 智幸、 鏑木 美千好、山本 泰司、東 悦子、平井 隆史	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/新屋 清喜	副委員長/芳野 俊 委 員/村上一元、高橋 昇二、木野内 毅、細谷 康次、 服部 昌樹、佐々木 史郎	建部 彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀 秀夫	副委員長/桑田 信明 委 員/真田 栄作、本田 原明、丹下一、森山 加世子、 吉澤 昌	鎌賀 秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/芝田 崇行	副委員長/長嶋 匡之 委 員/菊地 透、三浦 多満枝、永井 真美	大村 雅一
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守 昌宏	副委員長/加納 修、平良 朝順 委 員/青木 延明、米田 迪、多小田 一則、後藤 節哉、 牧野 吉伸、嶽 圭輔	守 昌宏
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/工藤 雄三	副委員長/高野 修 委 員/家永 昌樹、松藤 奈緒子、清水 茂樹、長澤 純平	兼子 真
(公財) 日本自転車競技連盟	競技運営委員会 委員長/高橋 博	副委員長/飯田 太文 委 員/早坂 和広、坂井田 米治、小野口 裕明	白崎 孝紀
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/川島 登	副委員長/丹崎 健一 委 員/岡村 勝幸、白水 厚二、新保 俊彦、林 研一、 和歌浦 京子	上岡 大樹
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/鈴木 一雄	副委員長/宮本 勝典 委 員/小畑 幸生、五十嵐 久美子、藤崎 武司	伊藤 大博

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/中村 敏治	副委員長/宗像 豊巳 委 員/—	吉岡 大輔
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/竹内 晋岸	副委員長/櫛原 利明 委 員/—	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/—	副委員長/— 委 員/長友 満則	菅沼 孝章
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/中田 玲子	副委員長/河原塚 淳 委 員/加藤 晴英	中田 玲子
(公財) 全日本柔道連盟	—	—	岡本 隆
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/福崎 紀夫	副委員長/— 委 員/—	青木 敬祐
(公財) 日本バドミントン協会	総務本部 環境委員会 委員長/丹藤 勇一	副委員長/— 委 員/新木 恵一	橋口 俊彦
(公財) 全日本弓道連盟	—	—	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	—	—	—
(一財) 全日本剣道連盟	総務委員会 委員長/—	副委員長/— 委 員/—	松原 徹
(公社) 日本近代五種協会	環境委員会 委員長/長江 洋一	副委員長/野上等 委 員/—	長江 洋一
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/— 委 員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、 大山 高行、小宮山 弘	斎藤 守弘 平川 晋也
(公社) 日本山岳・ スポーツクライミング協会	自然保護委員会 委員長/松隈 豊	副委員長/堀江 伸子、西山 常芳 委 員/田上 正敏、手塚 福寿、増田 修、濱田 伸、 小高 令子、小島 和徳、猪狩 ノブ、小林 貞幸	松隈 豊
(公社) 日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長/原 悦代	副委員長/北川 浩正 委 員/—	岩上 禎宏 柳澤 恵子
(公社) 全日本アーチェリー連盟	安全対策検討・環境委員会 委員長/溝井 利和	副委員長/笹尾 茂寿 委 員/津田 正弘、工藤 潤一	笹尾 茂寿
(公財) 全日本空手道連盟	環境委員会 委員長/有竹 隆佐	副委員長/日下 修次 委 員/三村 由紀、石田 航	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委 員/片山 幸太郎、市野 保己、石井 実、渡邊 清吉、 松岡 裕子、今村 辰義、中村 真彦、佐藤 亨、御山 昇、 高柳 陽一、矢野 満、津田 昌泰、瀬尾 憲次、井澤 継男、 松田 健治、松本 栄一郎	平本 梯子
(一社) 日本クレイ射撃協会	環境問題対策協議会 座長/高橋 義博	副委員長/— 委 員/上村 耕司、野口 省吾、見上 攻	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	環境委員会 委員長/千葉 真弓	副委員長/寺 真喜子 委 員/菅野 佳子、池上 佐保子	清水 真由美
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/松下 秀雄	副委員長/— 部会員/富山 幸美	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	—	—	—
(一財) 全日本野球協会	総務委員会 スポーツ環境部会 部会長/本郷 茂	—	柴田 穰
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—



競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公社) 日本カーリング協会	環境特別委員会 委員長/平間 初恵	副委員長/小池 純義 委 員/小野 丘、宮越 武志、小島 樹里、両角 公佑	小高 正嗣
(公社) 日本トライアスロン連合	事業企画委員会(環境部会) 委員長/山本 光宏	副委員長/西沢 潤、関根 明子 委 員/篠田 雅司、松山 文人、朝岡 大輔、新井 康史、 徳舛 孝志、清本 直、横山 美紀子、滝川 満弘、 中西 真知子、原田 佐希、磯村 諒、宮本 宏史、渡邊 享子、 小池 賢、徳留 功一、山本 悟志、田山 寛豪 アドバイザー/木下 貴之、関口 秀之	児玉 健太
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	—
(公社) 日本スカッシュ協会	環境委員会 委員長/宮城島 真知子	副委員長/神谷 典子 委 員/日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩、小幡 博	神谷 典子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	東仙 明彦
(公社) 日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長/岩崎 靖	副委員長/— 委 員/元木 俊博	岩崎 靖
(一社) 全日本テコンドー協会	総務委員会 委員長/牧野 文彦	副委員長/— 委 員/川津 博、斉藤 和広	土屋 茂夫
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/永井 彰	副委員長/— 委 員/岸尾 政弘、鴻巣 久枝	岸尾 政弘
(一社) 日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長/石山 昭男	副委員長/工藤 十九、滝澤 健 委 員/—	山瀬 綾乃
(一社) 日本サーフィン連盟	事業委員会 委員長/関口 嘉雄	—	清水 裕雅
(一社) 日本ローラースポーツ連盟	—	—	前田 恵子
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委 員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロー協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	副委員長/寺本 進 委 員/赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
(公社) 日本アメリカンフットボール協会	—	—	—
(公社) 日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	下地 隆
(公社) 日本オリエンテーリング協会	—	—	—
(公社) 日本パワーリフティング協会	—	—	澤 千代美
(公社) 日本ペタンク・ブール連盟	—	—	—
(一社) 日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長/角田 信彦	副委員長/— 委 員/—	梅原 貴正
(一社) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/本島 由起子 委 員/大鳥居 悠貴、宮地 直実	本島 由起子
(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	環境委員会 委員長/山田 和彦	副委員長/浅越 ことみ 委員/堀口 和義、清水 映樹、高野 英樹	高野 英樹
(一財) 日本航空協会	—	—	—



(2) IOC持続可能性とレガシー委員会

IOC Sustainability and Legacy Commission

Chair

Le Prince Souverain ALBERT II

Members

Beatrice ALLEN

Prince Jigyel Ugyen WANGCHUCK

Sari ESSAYAH

Ivo FERRIANI

The Crown Prince FREDERIK OF DENMARK

Kristin KLOSTER AASEN

Auvita RAPILLA

Jean-Christophe ROLLAND

Sarah WALKER

Aziza AKHMOUCH

Camilo AMADO

Inger ANDERSEN

Yuki ARATA

Michel BARNIER

Marie BARSAQ

Felipe CALDERON

Brence CULP

Ole DAHLIN

Muffy DAVIS

Mélanie DUPARC

Christina FIGUERES

Stéphane GARELLI

Nicoletta PICCOLROVAZZI

Stefan KANNEWISCHER

Michel LABRECQUE

Xinghua (Tony) LIU

Matlohang MOILOA-RAMOQOPO

Miriam MOYO

Holger PREUSS

Sunil SABHARWAL

Gideon SAM

Luzeng SONG

Marion SCHONE

Sarah SPRINGMAN

Director in charge

Director of Corporate Development, Brand and Sustainability

2019年3月31日現在

(3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sports and Environment Committee

Chairman

Mr Kyung-Sun YU

Korea

Members

Mr Khin Maung LWIN

Myanmar

Mr Abdullozoda Muhamadsho

Tajikistan

Mr Raja Wasim Ahmed

Pakistan

Mr Hussain RASHEED

Maldives

Mr Jeevan Ram SHRESTHA

Nepal

Mr Yasuhiro Nakamori

Japan

Mr Tran Van MANH

Vietnam

Dr Mehrafza Manouchehri

Islamic Republic of Iran

Mr Adil Sumariwala

India

Mr Dampath Fernando

Sri Lanka

2019年3月31日現在



(4) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief History of IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック・ムーブメントに環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議開催・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会開催
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議開催・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 第2回IOCスポーツと環境賞授賞式 (公財)日本水泳連盟「IOCスポーツと環境賞」を受賞
2012年	IOCスポーツと環境委員会開催
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議開催・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	「オリンピック・アジェンダ2020」第127次IOC総会で採択・モナコ
2015年	「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC持続可能性とレガシー委員会」に名称変更 IOC持続可能性とレガシー委員会(Sustainability and Legacy Commission)開催・ローザンヌ
2016年	第2回IOC持続可能性とレガシー委員会



(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クアラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市
平成20年度 (2008年)	第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席



平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター (公財)日本水泳連盟が「IOCスポーツと環境賞」を受賞
平成24年度 (2012年)	ポスター(11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成27年度 (2015年)	ポスター(13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯広市 第12回スポーツと環境担当者会議(総務委員会 フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成28年度 (2016年)	平成27年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー・東京都 第13回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成29年度 (2017年)	ポスター(14th)作成 平成28年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー・川崎市第14回スポーツと環境担当者会議・ 味の素ナショナルトレーニングセンター
平成30年度 (2018年)	平成29年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー・高崎市 第15回スポーツと環境担当者会議(総務本部フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンタ ー
令和元年度 (2019年)	ポスター(15th)作成 平成30年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー・千葉県(予定) 第16回スポーツと環境担当者会議(総務本部フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンタ ー(予定)

(6) オリンピック・アジェンダ2020 20+20の提言(抜粋)

OLYMPIC AGENDA 2020

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

1. 持続可能性に関する戦略を前進させ、オリンピック競技大会の潜在的な開催都市と実際の大会開催都市を統合する。さらに、各都市のプロジェクトのあらゆる段階で、経済、社会、環境の各領域を包含する持続可能性の施策を設ける。
2. 組織運営全体で統合的な持続可能性の統治を最善なものとするため、新たに選定した大会組織委員会を支援する。
3. IOCはNOCとUMVO（World Union of Olympic City＝オリンピック開催都市連合）などの外部の組織の支援を受け、オリンピック競技大会の遺産を確実に監視する。

提言5 オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性の原則を導入する。

1. IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。
 - ・IOCは物品やサービスの調達、およびイベントの組織運営（大小の会議など）で持続可能性を取り入れる。
 - ・IOCは移動による二酸化炭素排出量への影響を減少させる。
 - ・IOCはローザンヌの本部統合に際し、可能な限り最善の持続可能性の基準を適用する。
2. IOCは以下の方法により、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。
 - ・勧告を推し進める。
 - ・成功事例やスコアカードなどのツールを提供する。
 - ・オリンピック関係者間で情報交換するための仕組みを確実に提供する。
 - ・取り組みの実施を支援するため、オリンピック・ソリダリティーなど既存の手段を活用する。
3. 上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。

平成30年度 JOC スポーツ環境専門部会 活動報告書

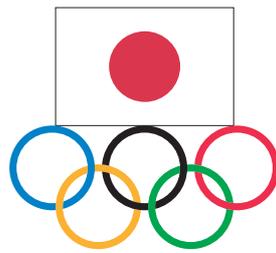
発行日：令和元年6月26日

編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒160-0013 新宿区霞ヶ丘4-2 Japan Sport Olympic Square 13階

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 オリンピック・ムーブメント推進部
TEL：03-6910-5953 FAX：03-6910-5960



公益財団法人日本オリンピック委員会